



**Cisco Unified CallManager  
CDR Analysis and Reporting  
アドミニストレーション ガイド**

Release 5.0(2)



このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。見当たらない場合には、代理店にご連絡ください。

シスコが採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティング システムの UCB (University of California, Berkeley) パブリック ドメイン パーミッションとして、UCB が開発したプログラムを最適化したものです。All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、すべてのマニュアルおよび上記各社のソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記各社は、商品性や特定の目的への適合性、権利を侵害しないことに関する、または取り扱い、使用、または取り引きによって発生する、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその代理店は、このマニュアルの使用またはこのマニュアルを使用できないことによって起こる制約、利益の損失、データの損傷など間接的で偶発的に起こる特殊な損害のあらゆる可能性がシスコまたは代理店に知らされていても、それらに対する責任を一切負いません。

CCSP、CCVP、Cisco Square Bridge のロゴ、Follow Me Browsing および StackWise は、Cisco Systems, Inc. の商標です。Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn、および iQuick Study は、Cisco Systems, Inc. のサービス マークです。Access Registrar、Aironet、ASIST、BPX、Catalyst、CCDA、CCDP、CCIE、CCIP、CCNA、CCNP、Cisco、Cisco Certified Internetwork Expert のロゴ、Cisco IOS、Cisco Press、Cisco Systems、Cisco Systems Capital、Cisco Systems のロゴ、Cisco Unity、Empowering the Internet Generation、Enterprise/Solver、EtherChannel、EtherFast、EtherSwitch、Fast Step、FormShare、GigaDrive、GigaStack、HomeLink、Internet Quotient、IOS、IP/TV、iQ Expertise、iQ のロゴ、iQ Net Readiness Scorecard、LightStream、Linksys、MeetingPlace、MGX、Networkers のロゴ、Networking Academy、Network Registrar、Packet、PIX、Post-Routing、Pre-Routing、ProConnect、RateMUX、ScriptShare、SlideCast、SMARTnet、StrataView Plus、TeleRouter、The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient および TransPath は、米国および一部の国における Cisco Systems, Inc. およびその関連会社の登録商標です。

このマニュアルおよび Web サイトで言及されたその他の商標はすべて、それぞれの所有者のもです。「パートナー」という語の使用は、シスコと他社の提携関係を意味するものではありません。(0502R)

*Cisco Unified CallManager CDR Analysis and Reporting アドミニストレーション ガイド*

Copyright © 2006 Cisco Systems, Inc.

All rights reserved.



<b>このマニュアルについて</b>	<b>ix</b>
目的	ix
対象読者	x
マニュアルの構成	x
関連マニュアル	x
表記法	xi
技術情報の入手方法	xiii
Cisco.com	xiii
Product Documentation DVD (英語版)	xiii
マニュアルの発注方法 (英語版)	xiii
シスコシステムズマニュアルセンター	xiv
シスコ製品のセキュリティの概要	xv
シスコ製品のセキュリティ問題の報告	xv
テクニカル サポート	xvii
Cisco Technical Support & Documentation Web サイト	xvii
Japan TAC Web サイト	xvii
サービス リクエストの発行	xviii
サービス リクエストのシビラティの定義	xviii
その他の資料および情報の入手方法	xix

---

CHAPTER 1

<b>CDR Analysis and Reporting の概要</b>	<b>1-1</b>
CDR のデータについて	1-2
CDR Analysis and Reporting について	1-3
CAR 管理者、マネージャ、およびユーザ	1-6
CAR システムの設定値	1-6
CAR のレポート	1-7
CAR のレポートの概要	1-7
ユーザ レポート	1-7
システム レポート	1-9
デバイス レポート	1-10
自動生成レポートのスケジュール	1-12

CDR 検索	1-13
CDR Analysis and Reporting の国際化	1-15
Web ブラウザ	1-16
CDR Analysis and Reporting の設定チェックリスト	1-17
関連トピック	1-18

CHAPTER 2

<b>CDR Analysis and Reporting の基本操作</b>	<b>2-1</b>
CAR のアクティブ化	2-2
CDR のサービス パラメータの設定	2-3
CAR 管理者、マネージャ、およびユーザの設定	2-4
CAR へのログイン	2-5
CAR からのログアウト	2-6
CAR マニュアルのオンライン ヘルプへのアクセス	2-6
関連トピック	2-6

CHAPTER 3

<b>CAR システムの設定</b>	<b>3-1</b>
システム パラメータの設定	3-2
メール サーバのパラメータの設定	3-2
ダイヤル プランの設定	3-3
CAR ダイヤル プランのデフォルト値の復元	3-4
ゲートウェイの設定	3-5
システム設定値の設定	3-7
システム スケジューラの設定	3-8
CDR のロード スケジュールの設定	3-8
日報のスケジューリング	3-10
週報のスケジューリング	3-11
月次報告のスケジューリング	3-12
システム データベースの設定	3-14
手動での CAR データベースの消去とリロード	3-14
自動データベース消去の設定	3-15
システム ログ画面	3-17
イベント ログの生成	3-17
関連トピック	3-19

CHAPTER 4

<b>CAR レポートの設定</b>	<b>4-1</b>
定格エンジンの設定	4-2
基本レートと接続時間の設定	4-2
コール コストへの時刻の算入	4-3
コール コストへの音声品質の算入	4-4

QoS 値の定義	4-6
レポートの自動生成と警告の設定	4-8
レポート自動生成のイネーブル化とカスタマイズ	4-8
電子メールによる警告のイネーブル化とディセーブル化	4-10
通知限度の設定	4-11
関連トピック	4-12

## CHAPTER 5

<b>CAR ユーザ レポートの設定</b>	<b>5-1</b>
課金情報の設定	5-2
個別の課金情報の設定	5-2
部門の課金情報の設定	5-3
上位 N 件の設定	5-5
料金別の上位 N 件の設定	5-5
接続時間別上位 N 件の設定	5-7
コール数別上位 N 件の設定	5-9
Cisco IP Manager Assistant ( IPMA ) 使用状況レポートの設定	5-11
Cisco IPMA マネージャのコール使用状況の設定	5-12
Cisco IPMA アシスタントのコール使用状況の設定	5-13
Cisco IP Phone サービス レポート	5-14
レポートのメール送信	5-15
ユーザの検索	5-17
関連トピック	5-18

## CHAPTER 6

<b>CAR システム レポートの設定</b>	<b>6-1</b>
QoS レポートの設定	6-2
QoS 詳細レポートの設定	6-2
QoS 要約レポートの設定	6-4
QoS パラメータの設定	6-6
ゲートウェイ別 QoS の設定	6-6
コールタイプ別 QoS の設定	6-8
トラフィック レポートの設定	6-10
トラフィック要約の設定	6-10
内線別のトラフィック要約の設定	6-12
迷惑呼詳細レポートの設定	6-15
優先コール要約の設定	6-16
クライアント証明書コード レポートの設定	6-18
許可コード名レポートの設定	6-19
認証レベル レポートの設定	6-21
システム概要の設定	6-22

CDR エラーの設定	6-23
QoS パラメータの演算子	6-24
関連トピック	6-24

CHAPTER 7

<b>CAR デバイス レポートの設定</b>	7-1
ゲートウェイ レポートの設定	7-2
ゲートウェイ詳細レポートの設定	7-2
ゲートウェイ要約レポートの設定	7-4
ゲートウェイ使用状況レポートの設定	7-6
ルート プラン使用状況レポートの設定	7-9
ルートおよび回線グループの使用状況レポートの設定	7-9
ルート/ハント リストの使用状況レポートの設定	7-11
ルート パターン/ハント パイロットの使用状況レポートの設定	7-13
会議コールの詳細の設定	7-15
会議ブリッジの使用状況レポートの設定	7-16
ボイス メッセージングの使用状況レポートの設定	7-18
関連トピック	7-20

CHAPTER 8

<b>CDR 検索の設定</b>	8-1
ユーザの内線による CDR の検索の設定	8-2
ゲートウェイによる CDR の検索の設定	8-3
コール終了原因による CDR の検索の設定	8-5
コール終了の詳細の表示	8-6
コールの優先レベルによる CDR の検索の設定	8-7
迷惑呼による CDR の検索の設定	8-9
関連トピック	8-10

CHAPTER 9

<b>CDR/CMR レコードのエクスポートの設定</b>	9-1
CDR/CMR レコードのエクスポート結果の表示	9-2
関連トピック	9-3

CHAPTER 10

<b>CAR レポートの結果</b>	10-1
課金情報の要約レポートの結果	10-2
課金情報の詳細レポートの結果	10-3
料金別または接続時間別上位 N 件レポートの結果	10-4
コール数別上位 N 件レポートの結果	10-5
Cisco IPMA アシスタントのコールの使用状況 — 詳細	10-5
Cisco IPMA アシスタントのコールの使用状況 — 要約	10-6
Cisco IPMA マネージャのコールの使用状況：詳細	10-7

Cisco IPMA マネージャのコールの使用状況 — 要約	10-8
Cisco IP Phone サービス レポートの結果	10-8
QoS 詳細レポートの結果	10-9
QoS 要約レポートの結果	10-10
ゲートウェイ別 QoS レポートの結果	10-10
コールタイプ別 QoS レポートの結果	10-11
トラフィック要約レポートの結果	10-12
許可コード名のコール詳細	10-13
認証レベルのコール詳細	10-13
クライアント証明書コードの詳細	10-13
迷惑呼の詳細レポートの結果	10-14
優先コールの要約レポートの結果	10-14
システム概要レポートの結果	10-15
CDR エラー レポートの結果	10-16
ゲートウェイ詳細レポートの結果	10-17
ゲートウェイ要約レポートの結果	10-18
ゲートウェイおよびルート使用状況レポートの結果	10-18
会議コール詳細レポートの結果	10-19
会議ブリッジ使用状況レポートの結果	10-20
ボイス メッセージング使用状況レポートの結果	10-20
CDR の検索の結果について	10-21
CDR の検索の結果について	10-21
メディア情報	10-22
CDR および CMR のダンプ テーブル	10-22







# このマニュアルについて

ここでは、このマニュアルの目的、対象読者、構成、および表記法、そして関連資料の入手方法について説明します。



(注)

このマニュアルには、入手可能な最新のシスコ製品の情報を示されていません。次の URL のシスコ製品の英文マニュアル ページにアクセスし、最新版の英文マニュアルを入手することができます。

<http://www.cisco.com/univercd/home/home.htm>

この章には、次の項があります。

- 目的 (P.ix)
- 対象読者 (P.x)
- 関連マニュアル (P.x)
- 表記法 (P.xi)
- 技術情報の入手方法 (P.xiii)
- シスコ製品のセキュリティの概要 (P.xv)
- テクニカル サポート (P.xvii)
- その他の資料および情報の入手方法 (P.xix)

## 目的

『Cisco Unified CallManager CDR Analysis and Reporting アドミニストレーション ガイド Release 5.0 (2)』では、Cisco Unified CallManager CDR Analysis and Reporting tool に関する情報を提供しています。

このマニュアルは、『Cisco Unified Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド』、『Cisco Unified CallManager Serviceability システム ガイド』、『Cisco Unified CallManager アドミニストレーション ガイド』および『Cisco Unified CallManager システム ガイド』と併せてお読みください。全マニュアルにおいて、Cisco Unified CallManager プログラム の管理方法と、適切に Cisco Unified CallManager Administration を使用する手順を説明しています。

## 対象読者

『Cisco Unified CallManager CDR Analysis and Reporting アドミニストレーション ガイド Release 5.0(2)』では、Cisco Unified CallManager システムの管理とサポートを担当するネットワーク管理者を対象としています。このマニュアルは、ネットワーク エンジニア、システム管理者、また電気通信の エンジニアが、CAR の機能を学習し、管理するために使用します。テレフォニーおよび IP ネットワーキング テクノロジーに関する知識が必要です。しかし、マネージャおよび個々のユーザも、CAR を使用し、レポートを生成するため、それぞれの項では、各ユーザがアクセスする機能について説明します。

## マニュアルの構成

次の表に、このマニュアルの構成を示します。

章番号	説明
第 1 章「CDR Analysis and Reporting の概要」	CDR Analysis and Reporting の概要、およびユーザ、システム、デバイス、また課金情報のレポートの生成に使用するツールについて説明します。
第 2 章「CDR Analysis and Reporting の基本操作」	CDR Analysis and Reporting (CAR) の CDR サービスパラメータの設定および CAR へのログインとログアウトの手順を説明しています。
第 3 章「CAR システムの設定」	CAR システムパラメータ、システムスケジューラ、およびシステムデータベースの設定について説明しています。
第 4 章「CAR レポートの設定」	定格エンジン、サービス品質、CAR レポートの自動生成の設定手順を説明しています。
第 5 章「CAR ユーザレポートの設定」	CAR ユーザレポートの使用における個別と部門の課金情報および Cisco Unified IP phone サービスの設定の手順を説明しています。
第 6 章「CAR システムレポートの設定」	CAR システムレポートの使用におけるサービス品質のレポートとパラメータ、トラフィック要約、システム概要、および CDR エラーの設定手順を説明します。
第 7 章「CAR デバイスレポートの設定」	ゲートウェイ、会議ブリッジおよびボイスメールの使用状況に関する CAR デバイスレポートの設定手順について説明しています。
第 8 章「CDR 検索の設定」	ユーザの内線およびゲートウェイに関する CAR CDR 検索の設定手順を説明しています。
第 9 章「CDR/CMR レコードのエクスポートの設定」	CDR/CMR レコードのエクスポートの設定手順について説明しています。
第 10 章「CAR レポートの結果」	全 CAR レポートの結果について説明しています。

## 関連マニュアル

関連する Cisco IP テレフォニー アプリケーションおよび製品に関する詳細な情報は、『Cisco Unified CallManager ドキュメント ガイド』を参照してください。次の URL は、マニュアルへのパスの一例を示しています。

[http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c\\_callmg/<release #>/doc\\_gd/index.htm](http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_callmg/<release #>/doc_gd/index.htm)

## 表記法

このマニュアルは、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
太字	コマンドおよびキーワードは、太字で示しています。
イタリック体	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体で示しています。
[ ]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
{ x y z }	必ずどれか1つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[ x y z ]	どれか1つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
ストリング	引用符を付けない一組の文字。ストリングの前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めてストリングとみなされます。
screen フォント	システムが表示する端末セッションおよび情報は、screen フォントで示しています。
太字の screen フォント	ユーザが入力しなければならない情報は、太字の screen フォントで示しています。
イタリック体の screen フォント	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体の screen フォントで示しています。
→	例の中で重要なテキストを強調しています。
^	^ 記号は、Ctrl キーを表します。たとえば、画面に表示される ^D というキーの組み合わせは、Ctrl キーを押しながら D キーを押すことを意味します。
< >	パスワードのように出力されない文字は、山カッコで囲んで示しています。

(注) は、次のように表しています。



(注)

「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。

ワンポイント アドバイスは、次のように表しています。



ワンポイント・アドバイス

時間を節約する方法です。ここに紹介している方法で作業を行うと、時間を短縮できます。

ヒントは、次のように表しています。



ヒント

便利なヒントです。

注意は、次のように表しています。



---

「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

---

警告は、次のように表しています。



---

「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。装置の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止策をとるよう努めてください。

---

## 技術情報の入手方法

シスコの製品マニュアルやその他の資料は、Cisco.com でご利用いただけます。また、テクニカルサポートおよびその他のリソースを、さまざまな方法で入手することができます。ここでは、シスコ製品に関する技術情報を入手する方法について説明します。

### Cisco.com

シスコの最新版のマニュアルを見るには、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/techsupport>

シスコの Web サイトには、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com>

シスコの Web サイトには、次の URL からアクセスしてください。

[http://www.cisco.com/public/countries\\_languages.shtml](http://www.cisco.com/public/countries_languages.shtml)

シスコ製品の指し新資料の日本語版は、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com>

### Product Documentation DVD (英語版)

シスコ製品のマニュアルおよびその他の資料は、製品に付属の Product Documentation DVD パッケージでご利用いただけます。Product Documentation DVD は定期的に更新されるので、印刷資料よりも新しい情報が得られます。

Product Documentation DVD は、技術情報を包含する製品マニュアルをポータブルなメディアに格納した、包括的なライブラリです。この DVD を使用することにより、シスコ製の各ハードウェアやソフトウェアのインストール、コンフィギュレーション、およびコマンドに関する複数のバージョンのマニュアルにアクセスし、技術情報を HTML で参照できます。また、この DVD を使用すると、シスコの Web サイトで参照できるのと同じマニュアルに、インターネットに接続せずにアクセスできます。一部の製品については、PDF 版のマニュアルもご利用いただけます。

Product Documentation DVD は、1 回単位で入手することも、または定期購読することもできます。Cisco.com 登録ユーザ (Cisco Direct Customers) の場合、次の URL の Cisco Marketplace から Product Documentation DVD (Product Number DOC-DOCDVD=) を発注できます。

<http://www.cisco.com/go/marketplace/>

### マニュアルの発注方法 (英語版)

2005 年 6 月 30 日以降、Cisco.com 登録ユーザの場合、Cisco Marketplace の Product Documentation Store からシスコ製品の英文マニュアルを発注できるようになっています。次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/marketplace/>

Cisco.com に登録されていない場合、製品を購入された代理店へお問い合わせください。

## シスコシステムズマニュアルセンター

シスコシステムズマニュアルセンターでは、シスコ製品の日本語マニュアルの最新版を PDF 形式で公開しています。また、日本語マニュアル、および日本語マニュアル CD-ROM もオンラインで発注可能です。ご希望の方は、次の URL にアクセスしてください。

<http://www2.hipri.com/cisco/>

また、シスコシステムズマニュアルセンターでは、日本語マニュアル中の誤記、誤植に関するコメントをお受けしています。次の URL の「製品マニュアル内容不良報告」をクリックすると、コメント入力画面が表示されます。

<http://www2.hipri.com/cisco/>

なお、技術内容に関するお問い合わせは、この Web サイトではお受けできませんので、製品を購入された各代理店へお問い合わせください。

## シスコ製品のセキュリティの概要

本製品には暗号化機能が備わっており、輸入、輸出、配布および使用に適用される米国および他の国での法律を順守するものとします。シスコの暗号化製品を譲渡された第三者は、その暗号化技術の輸入、輸出、配布、および使用を許可されたわけではありません。輸入業者、輸出業者、販売業者、およびユーザは、米国および他の国での法律を順守する責任があります。本製品を使用するにあたっては、関係法令の順守に同意する必要があります。米国および他の国の法律を順守できない場合は、本製品を至急送り返してください。

シスコの暗号化製品に適用される米国の法律の概要については、次の URL で参照できます。

<http://www.cisco.com/wwl/export/crypto/tool/stqrg.html>

何かご不明な点があれば、[export@cisco.com](mailto:export@cisco.com) まで電子メールを送信してください。

シスコでは、オンラインの Security Vulnerability Policy ポータル ( 英文のみ ) を無料で提供しています。URL は次のとおりです。

[http://www.cisco.com/en/US/products/products\\_security\\_vulnerability\\_policy.html](http://www.cisco.com/en/US/products/products_security_vulnerability_policy.html)

このサイトは、次の目的に利用できます。

- シスコ製品のセキュリティ脆弱性を報告する。
- シスコ製品に伴うセキュリティ事象についてサポートを受ける。
- シスコからセキュリティ情報を受け取るための登録をする。

シスコ製品に関するセキュリティ勧告および注意事項の最新のリストには、次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/go/psirt>

勧告および注意事項がアップデートされた時点でリアルタイムに確認する場合は、次の URL から Product Security Incident Response Team Really Simple Syndication ( PSIRT RSS ) フィードにアクセスしてください。

[http://www.cisco.com/en/US/products/products\\_psirt\\_rss\\_feed.html](http://www.cisco.com/en/US/products/products_psirt_rss_feed.html)

## シスコ製品のセキュリティ問題の報告

シスコでは、セキュアな製品を提供すべく全力を尽くしています。製品のリリース前には内部でテストを行い、すべての脆弱性を早急に修正するよう努力しています。万一、シスコ製品に脆弱性が見つかった場合は、PSIRT にご連絡ください。

- 緊急の場合 : [security-alert@cisco.com](mailto:security-alert@cisco.com) ( 英語のみ )  
緊急とは、システムがアクティブな攻撃を受けている場合、または至急の対応を要する重大なセキュリティ上の脆弱性が報告されている場合を指します。これに該当しない場合はすべて、緊急でないと思なされます。
- 緊急でない場合 : [psirt@cisco.com](mailto:psirt@cisco.com) ( 英語のみ )

緊急の場合は、電話で PSIRT に連絡することもできます。

- 1 877 228-7302 ( 英語のみ )
- 1 408 525-6532 ( 英語のみ )

**ヒント**

シスコに機密情報をお送りいただく際には、PGP ( Pretty Good Privacy ) または互換製品を使用して、暗号化することをお勧めします。PSIRT は、PGP バージョン 2.x から 8.x と互換性のある暗号化情報に対応しています。

無効になった、または有効期限が切れた暗号鍵は、絶対に使用しないでください。PSIRT に連絡する際に使用する正しい公開鍵には、Security Vulnerability Policy ページの Contact Summary セクションからリンクできます。次の URL にアクセスしてください。

[http://www.cisco.com/en/US/products/products\\_security\\_vulnerability\\_policy.html](http://www.cisco.com/en/US/products/products_security_vulnerability_policy.html)

このページ上のリンクからは、現在使用されている最新の PGP 鍵の ID にアクセスできます。



## テクニカル サポート

Cisco Technical Support では、24 時間テクニカル サポートを提供しています。Cisco.com の Cisco Technical Support & Documentation Web サイトでは、多数のサポート リソースをオンラインで提供しています。また、シスコと正式なサービス契約を交わしているお客様には、Cisco Technical Assistance Center (TAC) のエンジニアが電話でのサポートにも対応します。シスコと正式なサービス契約を交わしていない場合は、代理店にお問い合わせください。

### Cisco Technical Support & Documentation Web サイト

Cisco Technical Support & Documentation Web サイトでは、シスコ製品やシスコの技術に関するトラブルシューティングにお役立ただけのように、オンラインでマニュアルやツールを提供しています。この Web サイトは、24 時間、いつでも利用可能です。URL は次のとおりです。

<http://www.cisco.com/techsupport>

Cisco Technical Support & Documentation Web サイトのツールにアクセスするには、Cisco.com のユーザ ID とパスワードが必要です。サービス契約が有効で、ユーザ ID またはパスワードを取得していない場合は、次の URL にアクセスして登録手続きを行ってください。

<http://tools.cisco.com/RPF/register/register.do>



(注)

Web または電話でサービス リクエストを発行する前に、Cisco Product Identification (CPI) ツールを使用して製品のシリアル番号を確認してください。CPI ツールには、Cisco Technical Support & Documentation Web サイトから、Documentation & Tools の下の **Tools & Resources** リンクをクリックするとアクセスできます。アルファベット順の索引ドロップダウン リストから **Cisco Product Identification Tool** を選択するか、Alerts & RMAs の下の **Cisco Product Identification Tool** リンクをクリックします。CPI ツールには、3 つの検索オプションがあります。製品 ID またはモデル名による検索、ツリー表示による検索、show コマンド出力のコピー アンド ペーストによる特定製品の検索です。検索結果では、製品が図示され、シリアル番号ラベルの位置が強調表示されます。ご使用の製品でシリアル番号ラベルを確認し、その情報を記録してからサービス コールをかけてください。

### Japan TAC Web サイト

Japan TAC Web サイトでは、利用頻度の高い TAC Web サイト (<http://www.cisco.com/tac>) のドキュメントを日本語で提供しています。Japan TAC Web サイトには、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/jp/go/tac>

サポート契約を結んでいない方は、「ゲスト」としてご登録いただくだけで、Japan TAC Web サイトのドキュメントにアクセスできます。Japan TAC Web サイトにアクセスするには、Cisco.com のログイン ID とパスワードが必要です。ログイン ID とパスワードを取得していない場合は、次の URL にアクセスして登録手続きを行ってください。

<http://www.cisco.com/jp/register>

## サービス リクエストの発行

オンラインの TAC Service Request Tool を使用すると、S3 と S4 のサービス リクエストを短時間でオープンできます (S3: ネットワークに軽微な障害が発生した、S4: 製品情報が必要である)。状況を入力すると、その状況を解決するための推奨手段が検索されます。これらの推奨手段で問題を解決できない場合は、シスコのエンジニアが対応します。TAC Service Request Tool には、次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/techsupport/servicerequest>

S1 または S2 のサービス リクエストの場合、またはインターネットにアクセスできない場合は、Cisco TAC に電話でお問い合わせください (S1: ネットワークがダウンした、S2: ネットワークの機能が著しく低下した)。S1 および S2 のサービス リクエストには、シスコのエンジニアがすぐに割り当てられ、業務を円滑に継続できるようサポートします。

Cisco TAC の連絡先については、次の URL を参照してください。

<http://www.cisco.com/techsupport/contacts>

## サービス リクエストのシビラティの定義

シスコでは、報告されるサービス リクエストを標準化するために、シビラティを定義しています。

シビラティ 1 (S1): ネットワークが「ダウン」した状態か、業務に致命的な損害が発生した場合。お客様およびシスコが、24 時間体制でこの問題を解決する必要があると判断した場合。

シビラティ 2 (S2): 既存のネットワーク動作が著しく低下したか、シスコ製品が十分に機能しないため、業務に重大な影響を及ぼした場合。お客様およびシスコが、通常の業務中の全時間を費やして、この問題を解決する必要があると判断した場合。

シビラティ 3 (S3): ネットワークの動作パフォーマンスが低下しているが、ほとんどの業務運用は継続できる場合。お客様およびシスコが、業務時間中にサービスを十分なレベルにまで復旧させる必要があると判断した場合。

シビラティ 4 (S4): シスコ製品の機能、インストレーション、コンフィギュレーションについて、情報または支援が必要な場合。業務の運用には、ほとんど影響がありません。

## その他の資料および情報の入手方法

シスコの製品、テクノロジー、およびネットワーク ソリューションに関する情報について、さまざまな資料をオンラインおよび印刷物で入手できます。

- Cisco Marketplace では、シスコの書籍やリファレンス ガイド、マニュアル、ロゴ製品を数多く提供しています。購入を希望される場合は、次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/marketplace/>

- Cisco Press では、ネットワーク全般、トレーニング、および認定資格に関する出版物を幅広く発行しています。これらの出版物は、初級者にも上級者にも役立ちます。Cisco Press の最新の出版情報などについては、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.ciscopress.com>

- 『Packet』はシスコシステムズが発行する技術者向けの雑誌で、インターネットやネットワークへの投資を最大限に活用するために役立ちます。本誌は季刊誌として発行され、業界の最先端トレンド、最新テクノロジー、シスコ製品やソリューション情報が記載されています。また、ネットワーク構成およびトラブルシューティングに関するヒント、コンフィギュレーション例、カスタマー ケース スタディ、認定情報とトレーニング情報、および充実したオンラインサービスへのリンクの内容が含まれます。『Packet』には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/packet>

日本語版『Packet』は、米国版『Packet』と日本版のオリジナル記事で構成されています。日本語版『Packet』には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/japanese/warp/public/3/jp/news/packet/>

- 『iQ Magazine』はシスコシステムズの季刊誌で、成長企業が収益を上げ、業務を効率化し、サービスを拡大するためには技術をどのように利用したらよいかを学べるように構成されています。本誌では、実例とビジネス戦略を挙げて、成長企業が直面する問題とそれを解決するための技術を紹介し、読者が技術への投資に関して適切な決定を下せるよう配慮しています。『iQ Magazine』には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/iqmagazine>

デジタル版には、次の URL からアクセスできます。

<http://ciscoiq.texterity.com/ciscoiq/sample/>

- 『Internet Protocol Journal』は、インターネットおよびイントラネットの設計、開発、運用を担当するエンジニア向けに、シスコが発行する季刊誌です。『Internet Protocol Journal』には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/ipj>

- シスコシステムズが提供するネットワーキング製品、および各種のカスタマー サポート サービスは、次の URL から入手できます。

<http://www.cisco.com/en/US/products/index.html>

- Networking Professionals Connection は対話形式の Web サイトです。このサイトでは、ネットワーキング製品やテクノロジーに関する質問、提案、および情報をネットワーキング担当者がシスコの専門家や他のネットワーキング担当者と共に共有できます。次の URL にアクセスしてディスカッションに参加してください。

<http://www.cisco.com/discuss/networking>

- シスコは、国際的なレベルのネットワーク関連トレーニングを実施しています。最新情報については、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/en/US/learning/index.html>





# CDR Analysis and Reporting の概要

Cisco Unified CallManager のサービスアビリティの Tools メニューには、CDR Analysis and Reporting (CAR) があります。CAR は、QoS (Quality of Service)、トラフィック、および課金情報に関するレポートを生成します。



(注)

CAR では、iDivert (即転送) コール (コールをボイス メッセージング システムに転送する機能) は処理されず、通常のコールとして扱われます。iDivert 機能を起動した後、コールの一部が正しいパーティに対して課金されないことがあります。

この章は次の内容で構成されています。

- [CDR のデータについて \(P.1-2\)](#)
- [CDR Analysis and Reporting について \(P.1-3\)](#)
- [CAR 管理者、マネージャ、およびユーザ \(P.1-6\)](#)
- [CAR システムの設定値 \(P.1-6\)](#)
- [CAR のレポート \(P.1-7\)](#)
- [CDR 検索 \(P.1-13\)](#)
- [CDR Analysis and Reporting の国際化 \(P.1-15\)](#)
- [Web ブラウザ \(P.1-16\)](#)
- [CDR Analysis and Reporting の設定チェックリスト \(P.1-17\)](#)
- [関連トピック \(P.1-18\)](#)

## CDR のデータについて

呼詳細レコード (CDR) は、着番号、コールを発信した番号、コールの開始日時、接続日時、および終了日時を詳細に記述したものです。呼管理レコード (CMR) は、ジッタ、喪失パケット、コール中に送受信されたデータの量、および遅延を詳細に記述したもので、診断レコードとも呼ばれます。CDR データは、CDR および CMR の集合から構成されます。1 つのコールによって、複数の CDR と CMR が生成されることもあります。Cisco Unified CallManager では、各コールに関する情報を CDR と CMR に記録します。CDR と CMR (まとめて CDR データと呼ばれます) は、CAR の基本的な情報ソースとして機能します。

Cisco CDR Agent サービスは、Cisco Unified CallManager が生成する CDR と CMR のファイルをローカル ホストから取得して、CDR Repository Manager サービスが動作しているリポジトリ ノードに SFTP 接続を介して転送します。SFTP 接続を確立できない場合は、接続が作成されるまで、引き続き CDR リポジトリ ノードへの接続を試行します。CDR リポジトリ ノードに向かう接続が復旧すると、それまでに蓄積されたすべての CDR ファイルを Cisco CDR Agent サービスが送信します。CDR Repository Manager サービスは、CDR と CMR のファイルを保守し、CDR と CMR で使用されるディスク スペースを確保し、これらのファイルを 3 つまでの設定済み宛先に送信して、送信の結果を宛先ごとに追跡します。CDR Analysis and Reporting (CAR) がアクセスする CDR ファイルと CMR ファイルは、CDR Repository Manager サービスの作成するディレクトリ構造の中にあります。

CDR のディスク スペースが管理者の設定する最高水準点を超えた場合は、CDRHWMEExceeded 警告が生成されます。正常に処理が完了したファイル (課金サーバに送信され、CAR にロードされたもの) をシステムがすべて削除しても、ディスクの使用率が CDR ファイルに対するディスク スペース割り当て上限値をまだ超えている場合は、CDRMaximumDiskSpaceExceeded 警告が生成されます。さらに、ディスクの使用率が最高水準点を下回るまで、未送信のファイルが古いものから順に削除されていきます。

CDR のサービスおよび警告の詳細については、『Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』を参照してください。



(注)

Cisco Unified CallManager 4.x からアップグレードする場合は、CAR データベースに含まれている CDR を Cisco Unified CallManager が CSV ファイルに保存します。Data Migration Tool では、これらの CSV ファイルを使用して CAR データベースをアップグレードします。CSV ファイルの格納場所は /common/download/windows/car です。事前生成されるレポートの格納場所は、/common/download/windows/pregenerated です。

Cisco Unified CallManager 5.x では、以前のリリースとは異なり、CDR レコードの格納に CDR データベースを使用しないため、CDR データは Cisco Unified CallManager 5.x システムには移行されません。

## CDR Analysis and Reporting について

CAR には、Cisco Unified CallManager Serviceability にある Tools メニューからアクセスします。[P.2-2 の「CAR のアクティブ化」](#)の説明に従って、必要なサービスをあらかじめアクティブにしておく必要があります。

すべての CAR レポートが CDR データを使用します。CAR が処理する CDR は、CDR Repository サービスが CDR リポジトリ フォルダ構造に配置したフラット ファイルから取得されます。CAR では、スケジューリングされた時刻および頻度に従って CDR を処理します。デフォルトでは、CDR データは毎日午前 0 時から午前 5 時までロードされます。ただし、ロードする時刻、間隔、期間は必要に応じて設定できます。

CAR では、各種のレポートに必要な情報を、CDR と CMR、さらに Cisco Unified CallManager データベースから取得します。

### レポートのスケジューリング

CAR レポートは、スケジュールを設定して定期的に自動生成することができます。スケジューリング可能なレポートは、それぞれ独自に生成間隔を保持しています。レポートの生成間隔は、日次、週次、または月次にすることができます。日報をスケジューリングすると、レポート生成間隔を保持しているすべてのレポートが、日次としてスケジューリングされます。同様に、週報や月次報告をスケジューリングすると、レポート生成間隔を保持しているすべてのレポートが、週次や月次としてスケジューリングされます。レポートの保管期間を指定することもできます。この期間を過ぎると、レポートは自動的に削除されます。

CAR で使用されるレポート生成および削除のスケジュールは、デフォルトでは次のとおりです。

- 日報は、毎日午前 1 時に実行されます。これらのレポートは 2 日後に消去されます。
- 週報は、毎週日曜日の午前 4 時に実行されます。これらのレポートは 4 週間後に消去されます。
- 月次請求書レポートは、毎月 1 日の午前 3 時に実行されます。これらのレポートは 2 か月後に消去されます。
- この他の月次報告は、毎月 1 日の午前 2 時に実行されます。これらのレポートは 2 か月後に消去されます。



(注)

レポートおよびデフォルト生成スケジュールのリストについては、[P.1-7 の「CAR のレポートの概要」](#)を参照してください。

システムを監視するには、QoS レポートなどの各種のレポートを自動生成して、定期的に確認します。規模が非常に大きいシステムでは 1 日 1 回、比較的小規模のシステムでは 1 ~ 2 週に 1 回確認します。QoS レポートは、ネットワーク上で発生しているコールの品質を調べて、パフォーマンスを強化するための追加ハードウェアが必要かどうかを判断するのに役立ちます。ゲートウェイ、ボイスメッセージング、会議ブリッジ、ルートグループ、ルートリスト、およびルートパターンに関する使用状況レポートを使用すると、使用状況がグラフで提供されるので、システムでの処理に役立ちます。

また、レポートパラメータをカスタマイズしてメーリング オプションを有効にすることで、レポートが作成されたときにそれらを電子メールで送信することもできます。Customize Parameters オプションを使用すると、特定のレポートのパラメータを Customize Parameters ウィンドウでカスタマイズできます。個々のレポートについて、当該のレポートのパラメータをカスタマイズすることができます。

## 警告のセットアップ

CAR は、さまざまなイベントについて電子メール警告を提供します。たとえば、次のようなイベントがあります。

- 料金限度通知：ユーザの 1 日間の利用額が、所定の上限值を超えたことを示します。この上限値は、**Report Config > Notification Limits** ウィンドウで設定できます。
- QOS 通知：品質の良好なコールの割合（%）が所定の範囲を下回ったこと、または品質の低いコールの割合が所定の上限值を超えたことを示します。この範囲は、**Report Config > Notification Limits** ウィンドウで設定できます。

システムで電子メール警告をイネーブルにするプロセスは、2 つの手順で構成されます。まず、メールサーバの構成情報を指定する必要があります（**System > System Parameters > Mail Parameters**）。CAR は、構成情報を使用して電子メールサーバに正常に接続します。次に、**Automatic Report Generation/Alert** ウィンドウで電子メール警告をイネーブルにする必要があります（**Report Config > Automatic Generation/Alert**）。デフォルトでは、CAR で電子メール警告がイネーブルになっているのは一部のレポートであり、すべてのレポートでイネーブルになっているわけではありません。

## CAR データの消去

CAR では、CAR データベースの内容を自動および手動で消去することができます。デフォルトでは、自動消去がイネーブルになっています。イネーブルになっている場合、CAR データベースのサイズは、最高水準点と最低水準点の間で維持されます。これらの値は、**Configure Automatic Purge** ウィンドウで指定します。データベースのサイズが最高水準点を超えている場合は、データが CAR データベースにロードされません。

CAR データベースの自動消去が発生するのは、日報がスケジュールされている時刻から、各 CDR がロードされるまでの間です。自動消去がイネーブルになっている間は、データベースのサイズが最高水準点を超えた場合、管理者の指定した日数よりも古い CAR データベースレコードが、CDR Analysis and Reporting によって削除されます。自動消去が完了すると、管理者に電子メールが送信されます。この電子メールは、削除されたレコードの数、消去の実行前後の CAR データベースのサイズ、利用可能な CDR の開始日と終了日を示します。

自動消去のスケジュールを変更しないまま、特定の日付よりも古いレコードや、特定の期間内のレコードを削除するには、データベースの手動消去を使用します。



(注)

データベース消去は、混雑していない時間帯に実行するようにスケジュールリングし、手動消去も同様の時間帯に実行して、Cisco Unified CallManager のパフォーマンス低下を最小限に抑えるようにします。

**Manual Purge** ウィンドウの **Reload** ボタンをクリックして、CAR データベースに CDR レコードをリロードすることもできます。ダイヤルプランのアップデート、ユーザとデバイスとのアソシエーションの変更、コールレートの変更などの後に、データベースをリロードしてコールを分類し直す必要が生じることがあります。システムに新しいレコードをロードした後は、設定した CDR ロードスケジュールに従ってレコードがロードされます。デフォルトでは、CDR データは毎日午前 0 時から午前 5 時までロードされます。



### コールのコスト

CAR を使用すると、時間の経過に伴って加算されていくコールのコストに関して、基本的な料金レートを設定できます。時間帯および音声品質ファクタを適用することで、コストをさらに適正化することができます。この機能は、加入者にサービス料金を請求することが必要になるサービスプロバイダーが使用します。組織によっては、アカウントिंगや予算編成の目的でこの情報を使用し、組織内のユーザと部門の課金コストを決定することもできます。

これらの評価パラメータを使用するレポートとしては、個別の課金情報、部門の課金情報、料金別の上位 N 件、コール数別の上位 N 件、および接続時間別の上位 N 件があります。



(注)

料金ベースやブロックのデフォルト値を変更しない場合は、ブロックあたりのデフォルト基本料金が 0 になるため、コストは常に 0 のままになります。



(注)

音声品質を高めるためにコールコストを増やしたくない場合は、デフォルト値を使用できます。デフォルトの乗数には 1.00 が指定されているため、音声品質によるコールコストの割増は発生しません。

コールレートの設定の詳細については、P.4-2 の「[定格エンジンの設定](#)」を参照してください。

### アクティビティの追跡

CAR は、さまざまなアクティビティのステータスを追跡できるログを提供します。CAR Scheduler が開始するイベント、たとえば、自動生成レポート、CDR のロード、通知、レポート削除、データベースの内容消去などが、イベントログによって追跡されます。

## CAR 管理者、マネージャ、およびユーザ

CAR には次の 3 レベルのユーザに対応したレポート機能があります。

- 管理者は、CDR Analysis and Reporting のすべての機能を使用します。たとえば、システム レポートを生成して、ロード バランシング、システムのパフォーマンス向上、およびトラブルシューティングに役立てることができます。
- マネージャは、予算編成またはセキュリティを目的とする場合や、コールの音声品質を判断する場合のコール モニタリングに役立つユーザ、部門、および QoS に関するレポートを生成できます。
- 個々のユーザは、コールの課金情報レポートを生成できます。

どのユーザも、CAR 管理者になることができます。CAR 管理者として認識されたユーザは、CAR システムに対するフル コントロール権限を持っています。管理者はシステムとレポートに関連するすべてのパラメータを変更できます。

CAR には、管理者が少なくとも 1 名必要です。

管理者、マネージャ、およびユーザは、Cisco Unified CallManager の管理ページでセットアップします。詳細については、[P.2-4 の「CAR 管理者、マネージャ、およびユーザの設定」](#)を参照してください。

## CAR システムの設定値

CDR Analysis and Reporting では、すべてのシステム パラメータにデフォルト値が設定されています。CAR でレポートを生成するときは、システム パラメータの数値を事前にカスタマイズしておくことをお勧めします。シスコではカスタマイズすることを推奨していますが、すべてのシステム パラメータにデフォルト値が用意されているため、カスタマイズは必須ではありません。

CAR で設定できるパラメータは、次のとおりです。

- メール サーバの基準：CAR は、この情報を使用して電子メール サーバに接続し、警告とレポートを電子メールで送信します。警告やレポートを電子メールで送信しない場合は、この情報を指定する必要はありません。
- ダイヤル プラン：CAR のデフォルト ダイヤル プランは、北米番号計画 (NANP) です。コールがレポートで正しく分類されるようにするには、ダイヤル プランを適切に設定する必要があります。Cisco Unified CallManager の管理ページのデフォルトである NANP を変更した場合、または NANP の範囲外にいる場合は、Cisco Unified CallManager のダイヤル プランに従ってダイヤル プランを設定する必要があります。
- ゲートウェイ：ゲートウェイ レポートを利用するには、CAR でゲートウェイを設定する必要があります。この設定作業は、既存のすべてのゲートウェイを Cisco IP テレフォニー システムにインストールした後、システムにゲートウェイを追加するときに実施します。システムがゲートウェイを削除した場合、CAR は最新のゲートウェイ リストを取得します。削除されたゲートウェイに関して、CAR で指定されていた設定はすべて削除されます。CAR はエリア コード情報を使用して、コールがローカルか長距離かを判別します。CAR が使用状況レポートを生成するために使用できる各ゲートウェイのポート数の情報を提供する必要があります。
- システム設定：Company Name パラメータの CAR システム設定値を設定できます。

## CAR のレポート

CAR では、レポートをオンデマンドで生成することができます。管理者である場合は、レポートのスケジュールを設定して自動生成できます。レポートは、カンマ区切り (CSV) 形式または Portable Document Format (PDF) 形式で表示することができます。PDF を選択する場合は、コンピュータ上に Adobe Acrobat Reader がインストールされている必要があります。

この項では、CDR Analysis and Reporting で使用可能なレポートについて説明します。次のトピックを取り上げます。

- [CAR のレポートの概要 \(P.1-7\)](#)
- [ユーザ レポート \(P.1-7\)](#)
- [システム レポート \(P.1-9\)](#)
- [デバイス レポート \(P.1-10\)](#)
- [自動生成レポートのスケジュール \(P.1-12\)](#)

## CAR のレポートの概要

時間、曜日、日付に応じたパターンを表示するすべての CAR レポートで、次の条件に基づいてグラフと表が表示されます。

- 検索基準で指定した時間範囲 (時間、曜日、日付) と一致するレコードがない場合、レポートでは、すべての日または時刻に値 0.00 が表示されます。
- 戻されたすべてのレコードで値が 0.00 になっている場合、グラフは表示されません。グラフが表示されるのは、いずれかのレコードに 0 以外の値が含まれている場合のみです。
- (選択した日付範囲内で、少なくとも 1 日以上について) レコードが生成されたとき、選択した日数がレポートの表示可能日数 (週次の場合は 7 日、月次の場合は 31 日) を超えている場合、グラフにはすべての日が表示されます。レコードが生成されていない日の値は 0 になります。表には、すべての日が関連する値とともに表示されます。データを含んでいない日については、0.00 が表示されます。
- (選択した日付範囲内で、少なくとも 1 日以上について) レコードが生成されたとき、選択した日数がレポートの表示可能日数 (週次の場合は 7 日、月次の場合は 31 日) を下回っている場合、グラフにはすべての日が表示されます。レコードが生成されていない日の値は 0 になります。表には、すべての日が関連する値とともに表示されます。データを含んでいない日については、0.00 が表示されます。

ユーザ名を表示する CAR レポートでは、ユーザ名を取得できない場合はユーザ ID が表示されます。この現象が発生するのは、過去のデータについてレポートを生成するときに、当該期間のコールに関係するユーザが、システム (Cisco Unified CallManager データベース) にもう存在していない場合です。

### 追加情報

- [P.1-18 の「関連トピック」](#)を参照してください。

## ユーザ レポート

ユーザ レポートは、ユーザ、マネージャ、および CAR 管理者が生成できます。CAR に用意されているユーザ レポートは、次のとおりです。

- 個別の課金情報：ユーザ、マネージャ、および CAR 管理者が使用できます。個別の課金情報では、指定する日付範囲に該当するコールの情報が提供されます。個人の電話課金について、要約または詳細を生成、表示、または電子メールで送信することができます。

- 部門の課金情報：マネージャおよび CAR 管理者が使用できます。部門の課金情報は、コール情報と QoS 評価を提供します。マネージャである場合は、マネージャへのレポート対象となるすべてのユーザ、または選択した特定のユーザによって発信されたコールについて、要約レポートまたは詳細レポートを生成できます。CAR 管理者である場合は、システム内の一部またはすべてのユーザが発信したコールについて、要約レポートまたは詳細レポートを生成できます。このレポートは、すべてのコールをシステム全体のユーザレベルごとに追跡するのに役立ちます。
- 料金別の上位 N 件：マネージャおよび CAR 管理者が使用できます。個々のユーザが生成する料金別の上位 N 件レポートには、指定する期間中にコールの課金が多かった上位のユーザが最高のものから順番にリストされます。送信先別で生成するレポートには、課金が多かった上位の送信先が最高のものから順番にリストされます。すべてのコールに関して生成するレポートには、課金が多かった上位のコールが最高のものから順番にリストされます。マネージャである場合は、指定した期間中に、マネージャへのレポート対象となるユーザが発信したすべてのコールで課金の大きいものが、最高のものから順番にリストされます。CAR 管理者の場合、このレポートには、指定した期間中にシステム上のすべてのユーザが発信したすべてのコールで課金の大きいものが、最高のものから順番に示されます。
- 接続時間別の上位 N 件：マネージャおよび CAR 管理者が使用できます。個々のユーザが生成する接続時間別の上位 N 件レポートには、指定する期間中にコールの接続時間が長かった上位のユーザが最長のものから順番にリストされます。送信先別で生成するレポートには、接続時間が長かった上位の送信先が最長のものから順番にリストされます。すべてのコールに関して生成するレポートには、接続時間が長かった上位のコールが最長のものから順番にリストされます。マネージャの場合、レポートには選択した日付範囲の間にコール時間が長かった、マネージャへのレポート対象となる上位のユーザが最長のものから順番にリストされます。CAR 管理者の場合、レポートには選択した日付範囲の間にコール時間が長かった上位のユーザが最長のものから順番にリストされます。
- コール数別の上位 N 件：マネージャおよび CAR 管理者が使用できます。個々のユーザが生成するコール数別の上位 N 件レポートには、コール数が多かった上位ユーザが最高のものから順番にリストされます。内線別で生成されるレポートには、指定する期間中に発着信したコール数が多い上位の内線が、最高のものから順番にリストされます。マネージャの場合、レポートには、選択した日付範囲における、マネージャへのレポート対象となるユーザのコール数が、ユーザまたは内線別に最高のものから順番にリストされます。CAR 管理者の場合、レポートには、コール数が多かった上位のシステム内各ユーザまたは内線のコール数が、最高のものから順番にリストされます。ユーザ別で生成されるレポートには、コール数が多かった上位のユーザが最高のものから順番にリストされます。内線別で生成されるレポートには、グループ内 (マネージャの場合) またはシステム内 (CAR 管理者の場合) で、コールの発着信回数が多かった内線が最高のものから順番にリストされます。
- Cisco CallManager Assistant コール完了使用状況レポート：CAR 管理者が使用できます。Cisco IPMA 要約レポートおよび詳細レポートは、IPMA のマネージャおよびアシスタントの両方について、コール完了使用状況の詳細を示します。マネージャ レポートに含まれている可能性があるのは、マネージャが自分で処理したコールのみ、アシスタントがマネージャの代理で処理したコールのみ、またはマネージャとアシスタントの両方がマネージャの代理で処理したコールです。アシスタント レポートに含まれている可能性があるのは、アシスタントが自分で処理したコールのみ、アシスタントがマネージャの代理で処理したコール、またはアシスタントが自分でまたはマネージャの代理で処理したコールです。
- Cisco IP Phone サービス：CAR 管理者が使用できます。Cisco IP Phone サービス レポートには、選択した Cisco Unified IP Phone サービス、選択した各サービスに登録されているユーザ数、および選択した各サービスの使用率 (%) が示されます。さまざまなビジネスやエンターテインメントを対象として、幅広いサービスを作成することができます。広告収入など、サービスに付随する収益がある場合は、このレポートを使用することで、サービスに登録したユーザの数を特定できます。また、このレポートを使用して、選択したサービスの人気を調べることもできます。

#### 追加情報

- [P.1-18 の「関連トピック」](#)を参照してください。

## システム レポート

CDR Analysis and Reporting には、マネージャおよび CAR 管理者が使用するためのシステム レポートが用意されています。マネージャまたは CAR 管理者は、QoS 要約レポートにアクセスできます。その他のレポートには、CAR 管理者だけがアクセスできます。この項では、次のレポートについて説明します。

- **QoS 詳細** : CAR 管理者が使用できます。QoS 詳細レポートは、指定する期間中に Cisco Unified CallManager ネットワークで発着信されたコールについて、QoS 評価を提供します。このレポートを使用すると、システム全体のユーザ レベルごとに、すべてのコールの音声品質を監視するのに役立ちます。CDR と CMR に含まれているコール詳細、および選択する QoS パラメータが、コールに特定の音声品質カテゴリを割り当てるときの基準になります。
- **QoS 要約** : マネージャおよび CAR 管理者が使用できます。このレポートは、指定したコール分類および期間に関して、QoS グレードの分布を表す 2 次元の円グラフを提供します。また、コールを QoS ごとに要約した表も提供します。CDR と CMR に含まれているコール詳細、および選択する QoS パラメータが、コールを特定の音声品質カテゴリに割り当てるときの基準になります。このレポートは、ネットワークを通過するすべてのコールの音声品質を監視するために使用します。
- **ゲートウェイ別の QoS** : CAR 管理者が使用できます。このレポートは、選択した各ゲートウェイのコールが、ユーザの選択した QoS 基準を満たしている割合 (%) を示します。このレポートは、時間、日、または週単位で生成できます。
- **コール タイプ別の QoS** : CAR 管理者が使用できます。このレポートは、選択した各コール タイプのコールが、ユーザの選択した QoS 基準を満たしている割合 (%) を示します。このレポートは、時間、日、または週単位で生成できます。
- **トラフィック要約** : CAR 管理者が使用できます。このレポートは、指定した期間のコール量に関する情報を提供します。選択したコール タイプと QoS 音声品質カテゴリだけが含まれます。このレポートは、発生しているコールの数を時間、日、または週単位で特定するために使用します。このレポートは、容量計画において高トラフィック パターンと低トラフィック パターンを識別するために役立ちます。
- **内線別のトラフィック要約** : CAR 管理者が使用できます。このレポートは、指定した期間および内線のセットのコール量に関する情報を提供します。選択したコール タイプと内線だけが含まれます。このレポートは、時間、日、または週単位で生成できます。このレポートは、指定したユーザの使用率レベルを集計することで、使用率の高いユーザまたはグループを判別するために役立ちます。
- **許可コード名** : CAR 管理者が使用できます。このレポートを使用すると、選択した各許可コード名に関連するコールについて、発信元番号と送信先番号、発信日時、接続時間 (秒)、分類、および認証レベルを表示することができます。
- **認証レベル** : CAR 管理者が使用できます。このレポートを使用すると、選択した各認証レベルに関連するコールについて、発信元番号と送信先番号、発信日時、接続時間 (秒)、許可コード名、および分類を表示することができます。
- **クライアント証明書コード** : CAR 管理者が使用できます。このレポートを使用すると、選択した各クライアント証明書コードに関連するコールについて、発信元番号と送信先番号、発信日時、接続時間 (秒)、および分類を表示することができます。
- **迷惑呼詳細** : CAR 管理者が使用できます。Cisco CallManager Malicious Call Identification (MCID) サービスが迷惑呼を追跡します。迷惑呼詳細レポートは、所定の日付範囲における迷惑呼の詳細を表示します。
- **優先コール要約** : CAR 管理者が使用できます。Cisco CallManager Call Precedence サービスを使用すると、認証済みのユーザが、優先順位の低い電話コールよりも優先されるようになります。CAR の優先コール要約レポートの PDF 版には、選択した各優先順位レベルについて、優先順位値ごとのコール要約が、時間、曜日、日付に基づいて棒グラフ形式で示されます。CAR は、グラフ (優先レベルごとにそれぞれ 1 つ) 各優先レベルのコール レッグの数をリストした表、および各優先レベルの分布 (%) を要約した付表を生成します。CAR では、このレポートはオンデマンドで使用します。このレポートが自動生成されることはありません。



- システム概要：CAR 管理者が使用できます。このレポートは、生成可能なレポートのリストを提供します。このレポートに表示するレポートのリストは、管理者が選択できます。このレポートは、Cisco Unified CallManager ネットワークの概略を確認するために使用します。
- CDR エラー：CAR 管理者が使用できます。このレポートは、CAR の Billing\_Error テーブルに含まれているエラー レコードの数、およびエラーの理由について統計情報を提供します。このレポートは、CDR データに関するエラーが、CDR データのロード中に CAR で発生したかどうかを特定するために使用します。このレポートには、無効な CDR の割合（%）、およびそれらの CDR が無効として分類された理由がリストされます。

### 追加情報

P.1-18 の「関連トピック」を参照してください。

## デバイス レポート

デバイス レポートは、会議ブリッジ、ボイス メッセージング サーバ、ゲートウェイなどの Cisco Unified CallManager 関連デバイスについて、負荷およびパフォーマンスを CAR 管理者が追跡するのに役立ちます。この項では、次のデバイス レポートについて説明します。

- ゲートウェイ詳細：CAR 管理者が使用できます。ゲートウェイ詳細レポートは、特定のゲートウェイの問題を追跡するために使用します。このレポートは、指定したゲートウェイを使用したコールのリストを提供します。このレポートは、選択したゲートウェイに関する詳細情報を確認するために使用します。システム内の VG200 ゲートウェイのすべてまたは一部、特定のルート パターンを使用するゲートウェイのみ、などのタイプ別にゲートウェイを指定できます。コール タイプおよび QoS 値に基づいて、検索基準を指定することもできます。
- ゲートウェイ要約：CAR 管理者が使用できます。このレポートは、ゲートウェイを経由したすべてのコールの要約を提供します。また、コールの合計数、およびカテゴリごとの接続時間を提供します。カテゴリには、着信、タンデム、発信（長距離、ローカル、国際、その他、オンネット）があります。さらに、システム内の各ゲートウェイについて、QoS 値ごとのコール合計数も示します。このレポートは、システムの機能を 1 日単位で追跡するために使用します。精査する必要のある問題を発見した場合は、ゲートウェイ詳細レポートを使用してください。
- ゲートウェイ使用状況：CAR 管理者が使用できます。このレポートは、ゲートウェイの概算使用率を提供します。1 日の中の時間単位、または週や月の指定した日数単位で、使用状況を調べることができます。レポートは選択されたゲートウェイごとに生成されます。このレポートは、ゲートウェイを追加または撤去する必要性を使用状況に基づいて評価し、ロード バランシングやキャパシティをプランニングするために使用します。システム内の VG200 ゲートウェイのすべてまたは一部、特定のルート パターンを使用するゲートウェイのみ、などのタイプ別にゲートウェイを指定できます。
- ルートおよび回線グループ使用状況：ルートおよび回線グループの使用状況レポートは、CAR 管理者のみ生成できます。このレポートは、選択したルートおよび回線グループの概算使用率を提供します。1 日の中の時間単位、または週や月の指定した日数単位で、使用状況を調べることができます。レポートは、選択したルートおよび回線グループごとに生成されます。このレポートを使用して、ルートおよび回線グループの容量が使用要件を満たすために十分であるかどうかを分析できます。その結果に基づいて、追加する必要があるかどうかを決定できます。複数のルートおよび回線グループ、またはルート パターンおよびハント リストをゲートウェイに割り当てて使用し、ゲートウェイをロード バランシングしている場合は、このレポートを使用することで、グループ全体の負荷を確認できます。また、このレポートを使用すると、1 群のゲートウェイに関する使用状況情報を、特定のルートおよび回線グループ別に簡単に生成できます。このグループには、指定したルートおよび回線グループを使用している H.323 フォールバック ゲートウェイも含まれます。

- ルート/ハントリスト使用状況：CAR 管理者が使用できます。ルート/ハントリストの使用状況レポートは、選択したルート/ハントリストの概算使用率を提供します。1日の中の時間単位、または週や月の指定した日数単位で、使用状況を調べることができます。レポートは、選択したルート/ハントリストごとに生成されます。このレポートを使用して、ルートおよび回線グループの容量が使用要件を満たすために十分であるかどうかを分析できます。その結果に基づいて、追加する必要があるかどうかを決定できます。複数のルート/ハントリストをゲートウェイに割り当てて使用し、ゲートウェイをロード バランシングしている場合は、このレポートを使用することで、グループ全体の負荷を確認できます。また、このレポートを使用すると、1群のゲートウェイに関する使用状況情報を、特定のルート/ハントリスト別に簡単に生成できます。このグループには、選択したルート/ハントリストを使用している H.323 フォールバック ゲートウェイも含まれます。
- ルートパターン/ハントパイロット使用状況：CAR 管理者が使用できます。ルートパターン/ハントパイロット使用状況レポートは、選択したルートパターン/ハントパイロットの概算使用率を提供します。1日の中の時間単位、または週や月の指定した日数単位で、使用状況を調べることができます。レポートは、選択したルートパターン/ハントパイロットごとに生成されます。このレポートは、選択したルートパターン/ハントパイロットに関するシステムの使用状況を分析するために使用します。
- 会議コール詳細：CAR 管理者が使用できます。会議コール詳細レポートを使用すると、会議コールの詳細情報を生成および表示できます。このレポートの要約版は、選択した日時範囲に発生した会議コールの要約情報を表示します。ただし、個々の会議参加者のコール レッグに関する情報は含まれていません。このレポートの詳細版は、選択した日時範囲に発生した会議コールの詳細情報を表示し、個々の会議参加者のコール レッグに関する情報が含まれています。
- 会議ブリッジ使用状況：CAR 管理者が使用できます。このレポートは、会議ブリッジの概算使用率を提供します。1日の中の時間単位、または週や月の指定した日数単位で、使用状況を調べることができます。レポートは、システム内のすべての会議ブリッジについて一括したものが生成されます。このレポートは、会議ブリッジ上のアクティビティを調べて、リソースをさらに追加する必要があるかどうかを特定するために使用します。このレポートは、使用状況のパターンを把握するのに役立ちます。したがって、使用状況のパターンに繰り返し現れるピークを発見した場合に、キャパシティをプランニングできるようになります。
- ボイス メッセージング使用状況：CAR 管理者が使用できます。このレポートは、ボイス メッセージング デバイスの概算使用率を提供します。1日の中の時間単位、または週や月の指定した日数単位で、使用状況を調べることができます。レポートは、ボイス メッセージング デバイスごとに生成されます。このレポートは、ボイス メッセージング デバイス上のアクティビティを調べて、リソースをさらに追加する必要があるかどうかを特定するために使用します。このレポートは、使用状況のパターンを確認するのに役立ちます。したがって、使用状況のパターンに繰り返し現れるピークを発見した場合に、キャパシティをプランニングできるようになります。

## 追加情報

P.1-18 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## 自動生成レポートのスケジュール

レポートを自動生成するプロセスは、2つの手順で構成されます。まず、生成しようとするレポートがデフォルトでイネーブルになっていない場合は、イネーブルにする必要があります。次に、レポートの生成日時をスケジュールリングする必要があります。CAR はデフォルトのスケジュールを提供しているため、このデフォルト スケジュールをそのまま使用できる場合は、自動生成するレポートをイネーブルにするだけで済みます。

デフォルトでは、次のレポートで自動生成がイネーブル（またはディセーブル）になっています。レポート名の横にある角カッコ ([ ]) で囲まれた語（日次、週次、月次）は、それぞれのレポートの生成間隔を表しています。

- トラフィック要約 - 時間 [ 日次 ]: イネーブル
- 会議要約 [ 月次 ]: ディセーブル
- 会議詳細 [ 日次 ]: ディセーブル
- 会議ブリッジ使用状況 - 曜日 [ 週次 ]: イネーブル
- ゲートウェイ使用状況 - 曜日 [ 週次 ]: イネーブル
- 回線グループ使用状況 - 曜日 [ 週次 ]: ディセーブル
- ルートグループ使用状況 - 曜日 [ 週次 ]: ディセーブル
- ルート / ハント リスト使用状況 - 曜日 [ 週次 ]: ディセーブル
- ルートパターン / ハントパイロット使用状況 - 曜日 [ 週次 ]: ディセーブル
- トラフィック要約 - 曜日 [ 週次 ]: イネーブル
- トラフィック要約 - 日付 [ 月次 ]: イネーブル
- ボイス メッセージング使用状況 - 曜日 [ 週次 ]: イネーブル
- ゲートウェイ要約 [ 月次 ]: イネーブル
- QoS 要約 [ 月次 ]: イネーブル
- システム概要 [ 月次 ]: イネーブル
- 部門の課金情報要約 [ 月次 ]: ディセーブル
- 個別の課金情報要約 [ 月次 ]: ディセーブル
- コール数別の上位 N 件 [ 日次 ]: ディセーブル
- コール数別の上位 N 件 [ 月次 ]: ディセーブル
- 料金別の上位 N 件 [ 日次 ]: ディセーブル
- 料金別の上位 N 件 [ 月次 ]: ディセーブル
- 接続時間別の上位 N 件 [ 日次 ]: ディセーブル
- 接続時間別の上位 N 件 [ 月次 ]: ディセーブル

レポートの生成をイネーブルまたはディセーブルにするには、[P.4-8 の「レポート自動生成のイネーブル化とカスタマイズ」](#)を参照してください。

レポートが生成およびシステムから消去される特定の時刻、週、(1 か月の中の) 日付を変更するには、[P.3-8 の「システム スケジューラの設定」](#)を参照してください。

### 追加情報

[P.1-18 の「関連トピック」](#)を参照してください。



## CDR 検索

呼詳細レコード (CDR) は、着番号、コールを発信した番号、コールの開始日時、接続日時、終了日時、および終了原因を詳細に記述したものです。呼管理レコード (CMR) は、ジッタ、喪失パケット、コール中に送受信されたデータの量、および遅延を詳細に記述したもので、診断レコードとも呼ばれます。CDR データは、CDR および CMR の集合から構成されます。コールの各過程の進行を Cisco Unified CallManager が追跡していくのに従って、1 つのコールで複数の CDR と CMR が生成されることもあります。コールの過程には、ダイヤル文字列の送信、ダイヤル文字列の受信、保留、転送、会議へのトランスコードの割り当て、およびトランスコードの割り当て解除があります。

CDR データが生成されるようにするには、CDR Enabled Flag、CDR Log Calls with Zero Duration、および Call Diagnostics の各サービスパラメータを Cisco Unified CallManager でイネーブルにする必要があります。CDR Enabled Flag パラメータは、クラスタ内の各ノード上でイネーブルにする必要があります。これらのサービスパラメータの設定の詳細については、『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』を参照してください。

すべての CAR レポートが CDR データを使用します。レポートの生成材料となる CDR データが、最新のものであることを確認してください。デフォルトでは、CDR データは毎日午前 0 時から午前 5 時までロードされます。ただし、ロードする時刻、間隔、期間は必要に応じて設定できます。

CDR 検索を設定すると、コールの詳細を確認できます。検索を実行することで、コールのすべての関連レッグがグループにまとめられます。これは、コールに会議または転送が関係している場合に便利です。この方法は、1 つのコール全体について、各過程の進行と品質を追跡するのに役立ちます。

この項では、次の機能について説明します。

- ユーザ内線を基準とした CDR 検索：CAR 管理者が使用できます。ユーザの内線を基準として CDR を検索すると、検索基準に一致した最初の 100 個のレコードについて、コールの詳細を分析できます。100 を超えるレコードが戻された場合は、システムが結果を切り捨てます。期間を指定し、特定の内線を使用してコールを検索することができます。この方法は、特定の内線から発信されるコールをトレースして、診断または情報収集を行うのに役立ちます。転送コールや会議コールなど、関連するすべてのレコードが、1 つの論理グループとしてまとめて表示されます。内線を指定しない場合は、指定した日付範囲と一致する CDR レコードのうち、最初の 100 個が戻されます。
- ゲートウェイを基準とした CDR 検索：CAR 管理者が使用できます。ゲートウェイを基準として CDR を検索すると、特定のゲートウェイを使用しているコールについて、コールの詳細を分析できます。この方法は、特定のゲートウェイを通過するコールに関する問題をトレースするのに役立ちます。100 を超えるレコードが戻された場合は、システムが結果を切り捨てます。
- コール終了原因を基準とした CDR 検索：CAR 管理者が使用できます。コール終了原因を基準として CDR を検索すると、コールが終了した原因について情報を得ることができます。コールの終了原因をリストから選択し、特定の日付範囲に関してレポートを生成できます。生成されるレポートには、レポートの生成基準とともに、所定の期間内に発信されたコールの合計数が示されます。また、Call Termination Cause Value と説明のフィールド、コール合計数、およびコール終了原因ごとのコールの割合 (%) を示す表が表示され、CDR を選択するためのオプションが表示されます。
- コールの優先レベルを基準とした CDR 検索：CAR 管理者が使用できます。コールの優先レベルを基準として、CDR を検索することができます。生成されるレポートを利用すると、CDR を優先順位を基準として確認できます。レポートの生成対象にする優先レベルと日付範囲は、管理者が選択できます。このレポートには、選択した優先レベルごとに、コールの数と割合 (%) が示されます。レポートの基準については、情報の生成対象となった優先レベルと日付範囲が、Call Precedence Details ウィンドウに表示されます。メディア情報と CDR-CMR ダンプは、CDR Search by Precedence Levels Result ウィンドウで閲覧できます。メディア情報と CDR-CMR ダンプ情報は、個別のウィンドウに表示されます。

- 迷惑呼を基準とした CDR 検索：CAR 管理者が使用できます。CDR を検索すると、迷惑呼に関する情報を得ることができます。レポートの生成対象にする内線と日付範囲は、管理者が選択できます。このレポートには、選択した内線と日付範囲に関して、すべての迷惑呼の CDR が表示されます。レポートの基準については、情報の生成対象となった内線と日付範囲が表示されます。メディア情報と CDR-CMR ダンプは、CDR-CMR search results ウィンドウで閲覧できます。メディア情報と CDR-CMR ダンプ情報は、個別のウィンドウに表示されます。
- CDR/CMR のエクスポート：CAR 管理者が使用できます。この機能を使用すると、所定の日付範囲内にある CDR/CMR ダンプ情報を、コンピュータ上の選択した位置に CSV 形式でエクスポートできます。また、ダンプ情報のファイルサイズを表示して、CDR/CMR のファイルを削除することもできます。

## CDR Analysis and Reporting の国際化

CAR は、任意のロケール (言語) に対応できるように国際化されて設計されており、任意のロケールに対応できるデータベースも備えています。



(注)

CAR では、Cisco Unified CallManager のヘルプ ページに記載されているように、すべての Latin-1 言語と Unicode 言語ロケールをサポートしています。Latin-1 言語には、英語と西ヨーロッパの諸言語が含まれます。Unicode 言語には、日本語と中国語が含まれます。ロケールには、ユーザとネットワークの 2 つのタイプがあります。それぞれのロケールは、一連のロケール ファイルで構成されます。この 2 タイプのファイルについて、次の定義で説明します。

- ユーザ：電話機ディスプレイのテキスト、ユーザ アプリケーション、ユーザ Web ページなど、ユーザ関連の機能に関するファイル。
- ネットワーク：電話機やゲートウェイのトーンなど、ネットワーク関連の機能に関するファイル。ネットワーク ロケールは、国 / 地域名によって決まります。

CAR でロケールがサポートされるのは、Locale Installer でロケールがインストールされている場合のみです。



(注)

まず、Cisco Unified CallManager Locale Installer がクラスタ内のすべてのサーバにインストールされていることを確認してください。Locale Installer をインストールすると、CAR の Web ページに最新の翻訳済みテキストが適用されるようになります。Cisco Unified CallManager Locale Installer の詳細については、『Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide』を参照してください。

複数のロケールをサポートしているのは、ユーザとマネージャのウィンドウのみです。管理者用のページは、英語で表示されます。

Cisco Unified CallManager の管理ページで、ユーザが優先使用するロケールを Cisco Unified CallManager データベース内に設定します。この作業は、ユーザを作成するときに、End User Configuration ウィンドウで行います。ユーザ名やユーザ ID などとともに、優先ロケールを指定します。この情報は、Cisco Unified CallManager データベースに格納されます。詳細については、『Cisco Unified CallManager アドミニストレーション ガイド』を参照してください。

この項では、CAR の国際化を構成している要素について説明します。

### ログイン ページ

クライアント (ブラウザ) がログイン情報を要求するときは、ログイン ウィンドウのヘッダーに、そのクライアントで最優先使用されるロケールが示されます。CAR システムは、CAR の UI がこのロケールをサポートしているかどうかを確認します。CAR の UI がこのロケールをサポートしていない場合や、このロケールがシステムにインストールされていない場合、ログイン ウィンドウは、Cisco CallManager のエンタープライズ パラメータで設定されている Cisco Unified CallManager システムのデフォルト ロケールで表示されます。CAR がこのデフォルト ロケールもサポートしていない場合や、当該のデフォルト ロケールがシステムにインストールされていない場合には、ロケールは English\_United\_States に設定されます。

### ログイン後のウィンドウでの CAR ページの認証と表示

どの言語でも、ユーザの資格情報は Cisco Unified CallManager データベースと照合して認証され、管理者以外のユーザ（ユーザまたはマネージャ）の CAR ウィンドウは、ユーザの優先ロケールで表示されます。CAR の UI がこのロケールをサポートしていない場合や、このロケールがシステムにインストールされていない場合は、Cisco Unified CallManager システムのデフォルト ロケールが使用されます。このロケールが CAR でサポートされていない場合や、システムにインストールされていない場合には、ページはブラウザの最優先ロケールで表示されます。ブラウザの優先ロケールもサポートされていない場合やインストールされていない場合には、ロケールは English\_United\_States に設定されます。UI ページ上の情報は、ラベルや数値書式なども含めて、すべてロケールに基づいて表示されます。管理者用のウィンドウは、常に英語で表示されます。

### レポート

CSV 形式と PDF 形式の両方で生成されるレポートは、管理者以外のユーザ（ユーザまたはマネージャ）の場合にはユーザの優先ロケールで表示されます。ただし、レポートのヘッダーに表示される企業名などの動的なデータは、データベースへの入力時に使用されたものと同じ言語で表示されます。ロケールは、ヘッダー、フッター、数値書式、および一部の統計データ（コール分類など）を表示するときの基準になります。管理者用のレポートは、英語で表示されます。

## Web ブラウザ

CAR プログラムでは、次の Web ブラウザをサポートしています。

- Netscape Communicator 7.1 以降
- Microsoft Internet Explorer 6.0 以降

ネットワーク内の任意のユーザ コンピュータから、Cisco Unified CallManager の管理ページを実行しているサーバを参照し、管理特権を持つアカウントでログインします。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページに多数のユーザが同時にログインすると、Web ページのパフォーマンスが低下する可能性があります。同時にログインするユーザおよび管理者の数は、制限するようにしてください。

# CDR Analysis and Reporting の設定チェックリスト

表 1-1 に、CDR Analysis and Reporting の設定手順の概要を示します。

表 1-1 CAR の設定チェックリスト

設定手順	関連する手順およびトピック
<b>ステップ 1</b> 適切なサーバ上で、CDR のサービスをアクティブにします。	<a href="#">CAR のアクティブ化 (P.2-2)</a>
<b>ステップ 2</b> CDR レコードがフラット ファイルに書き込まれるようにするには、Cisco CallManager のサービス パラメータ CDREnabled と CallDiagnosticsEnabled をイネーブルにする必要があります。	『 <a href="#">Cisco Unified CallManager アドミニストレーション ガイド</a> 』
<b>ステップ 3</b> CAR 管理者、マネージャ、およびユーザを Cisco Unified CallManager の管理ページでセットアップします。	<a href="#">CAR 管理者、マネージャ、およびユーザの設定 (P.2-4)</a>
<b>ステップ 4</b> レポートを生成するために、CAR システムの次のパラメータを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>メールサーバを設定します。</li> <li>ダイヤルプランを設定します。</li> <li>ゲートウェイを設定します。</li> <li>システム設定値を設定します。</li> </ul>	<a href="#">システムパラメータの設定 (P.3-2)</a>
<b>ステップ 5</b> ジッタ、遅延、および喪失パケットについて、最高、高、中、低と見なす値の範囲を指定します。	<a href="#">QoS 値の定義 (P.4-6)</a>
<b>ステップ 6</b> 必要な場合には、時間の経過に伴って加算されていくコールのコストに関して、基本的な料金レートを設定します。時間帯および音声品質ファクタを適用することで、コストをさらに適正化することができます。	<a href="#">定格エンジンの設定 (P.4-2)</a>
<b>ステップ 7</b> Automatic Report Generation/Alert Option ウィンドウを使用して、自動生成するレポートをイネーブルにします。	<a href="#">レポートの自動生成と警告の設定 (P.4-8)</a> <a href="#">自動生成レポートのスケジュール (P.1-12)</a>
<b>ステップ 8</b> システム スケジューラを設定して、CAR が CDR をロードするタイミングを、日次、週次、月次のレポートとともにスケジューリングします。	<a href="#">システム スケジューラの設定 (P.3-8)</a>
<b>ステップ 9</b> CAR データベースの自動消去のパラメータを設定します。設定できるのは、システムで CAR データに使用する CAR データベースの割合 (%)、および CAR データがデータベース サイズ制限を超えたときに、削除の対象となる CAR データの存続時間です。  データベースの自動消去はディセーブルにできます。システムのデフォルトでは、消去がイネーブルになっています。	<a href="#">自動データベース消去の設定 (P.3-15)</a>
<b>ステップ 10</b> 料金限度通知 (指定した 1 日間あたりの利用限度額をユーザが超過したことを示す)、および QoS 通知 (最高品質コールの割合が指定範囲を下回ったか、低品質コールの割合が指定した制限値を超えたことを示す) を設定します。	<a href="#">通知限度の設定 (P.4-11)</a>

## ■ 関連トピック

表 1-1 CAR の設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連する手順およびトピック
ステップ 11 ユーザがローカライズ済みのユーザ レポートやマネージャ レポートを利用することを希望している場合は、必要なロケールをインストールします。	『Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide』
ステップ 12 データベースと事前生成レポートを含めて CAR をバックアップするには、バックアップ ユーティリティで CAR ターゲットを設定していることを確認します。	『Disaster Recovery System アドミニストレーションガイド』

## 追加情報

P.1-18 の「関連トピック」を参照してください。

## 関連トピック

- CAR のレポートの概要 (P.1-7)
- ユーザ レポート (P.1-7)
- システム レポート (P.1-9)
- デバイス レポート (P.1-10)
- 自動生成レポートのスケジュール (P.1-12)
- CDR Analysis and Reporting の基本操作 (P.2-1)
- CAR システムの設定 (P.3-1)
- CAR レポートの設定 (P.4-1)
- CAR ユーザ レポートの設定 (P.5-1)
- CAR システム レポートの設定 (P.6-1)
- CAR デバイス レポートの設定 (P.7-1)
- CDR 検索の設定 (P.8-1)
- CDR/CMR レコードのエクスポートの設定 (P.9-1)
- CAR レポートの結果 (P.10-1)


## その他のシスコ マニュアル

- Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide
- Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド
- Cisco Unified CallManager Serviceability システム ガイド




# CDR Analysis and Reporting の基本操作

Cisco Unified CallManager Serviceability の CDR Analysis and Reporting ( CAR ) ツールは、QoS ( Quality of Service )、トラフィック、ユーザのコール量、課金、およびゲートウェイに関する情報のレポートを生成します。

 (注) CAR では、iDivert コール ( コールをボイス メッセージング システムに転送する機能 ) は処理されず、通常のコールとして扱われます。iDivert 機能を起動した後、コールの一部が正しいパーティに対して課金されないことがあります。

この章は次の内容で構成されています。

- [CAR のアクティブ化 \( P.2-2 \)](#)
- [CDR のサービス パラメータの設定 \( P.2-3 \)](#)
- [CAR 管理者、マネージャ、およびユーザの設定 \( P.2-4 \)](#)
- [CAR へのログイン \( P.2-5 \)](#)
- [CAR からのログアウト \( P.2-6 \)](#)
- [CAR マニュアルのオンライン ヘルプへのアクセス \( P.2-6 \)](#)
- [関連トピック \( P.2-6 \)](#)

 (注) CAR のレポートは、PDF 形式または CSV 形式で表示できます。PDF 形式では、CAR レポート内のレコード数が 5,000 に制限され、CSV 形式の場合は 20,000 レコードに制限されます。レコードの数がこれらの上限値を超える場合は、結果が切り捨てられていることを通知するメッセージが表示されます。切り捨てが発生することを避けるには、日付範囲を小さくしてレポートを生成します。PDF 形式を使用している場合は、代わりに CSV 形式を使用します。

## CAR のアクティブ化

CAR は一連の補完サービスで構成されており、これらのサービスは、Cisco Unified CallManager Serviceability の Service Activation ウィンドウでアクティブにすることができます。CAR を Cisco Unified CallManager Serviceability の Tools メニューから起動できるようにするには、次の手順に従って、CAR のサービスをあらかじめアクティブにしておく必要があります。

### 手順

---

**ステップ 1** Tools > Service Activation を選択します。

Service Activation ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Server ドロップダウン リスト ボックスから、クラスタの最初のノードを選択します。

選択したサーバのサービス名、サービス タイプ、およびサービスのアクティベーション ステータスがウィンドウに表示されます。



**(注)** CAR のサービスをアクティブにするのは、最初のノード上のみです。このノードは、Cisco Unified CallManager データベースの配置場所になります。

**ステップ 3** 次の CDR サービスの隣にあるチェックボックスをオンにします。

- Cisco CAR Scheduler
- Cisco CAR Web Service
- Cisco SOAP-CDROnDemand( オプション )HTTPS または SOAP インターフェイスを通じて CDR データにアクセスするサードパーティ製の課金アプリケーションを使用している場合は、このサービスをアクティブにします。



**ヒント** CDR サービスの隣にあるチェックボックスをオフにし、Save をクリックしてサービスを無効にします。Cisco CAR Web Service を無効にすると、Cisco Unified CallManager Serviceability の Tools メニューから、CAR が削除されます。

**ステップ 4** 必要な変更が完了したら、Save をクリックします。

---

### 追加情報

P.2-6 の「[関連トピック](#)」を参照してください。



## CDR のサービスパラメータの設定

CAR は、CAR および CDR のレポートを生成するために、CDR レコードと CMR レコードに含まれているデータを利用しています。CAR では、CDR リポジトリ ノード（最初のノード）上にあるフラットファイルから CDR レコードを入手できることが要件になります。CDR レコードがフラットファイルに書き込まれるようにするには、次の Cisco CallManager サービスパラメータを設定する必要があります。

- CDREnabled



(注) クラスタ内のすべてのサーバで、このパラメータをイネーブルにします。

- CallDiagnosticsEnabled



(注) サービスパラメータ CDREnabled と CallDiagnosticsEnabled のデフォルト値は、ディセーブルです。このため、CDR レコードを CAR で利用できるようにするには、これらのサービスパラメータをイネーブルにする必要があります。

サービスパラメータの設定については、『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』を参照してください。

## CAR 管理者、マネージャ、およびユーザの設定

どのユーザでも CAR 管理者になることができますが、Cisco Unified CallManager の管理ページで、当該のエンド ユーザを Cisco CAR 管理者ユーザグループ (Standard CAR Admin Users) に追加する必要があります。CAR 管理者として認識されたエンド ユーザは、CAR システムに対するフルコントロール権限を持っています。管理者はシステムとレポートに関連するすべてのパラメータを変更できます。CAR 管理者として認識されていないエンド ユーザは、指定された CAR レポートにのみアクセスできます。



### ヒント

CAR を使用するには、少なくとも 1 名の CAR 管理者が Cisco Unified CallManager データベースに存在している必要があります。

CAR にログインするには、管理特権を持っている CAR ユーザを CAR にあらかじめ 1 名以上設定しておく必要があります。CAR 管理者、マネージャ、およびユーザを設定するには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1** Cisco Unified CallManager の管理ページで、[ ユーザ管理 ] > [ エンド ユーザ ] を選択して、エンド ユーザを追加します。この作業を実行する方法については、『Cisco Unified CallManager アドミニストレーション ガイド』を参照してください。マネージャを作成する場合は、[ マネージャのユーザ ID (Manager User ID) ] フィールドに必ず値を入力してください。



### ヒント

CAR の使用を開始する前に、管理特権を持つ CAR ユーザを CAR に少なくとも 1 名設定しておくことをお勧めします。CAR 管理者を設定していない場合、および別の CAR 管理者を設定する場合は、次の手順に進みます。

- ステップ 2** [ ユーザ管理 ] > [ ユーザグループ ] を選択します。

[ ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups) ] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 3** Standard CAR Admin Users をクリックします。

[ ユーザグループの設定 (User Group Configuration) ] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 4** [ グループにエンド ユーザを追加 ] ボタンをクリックします。

- ステップ 5** グループに追加するユーザのチェックボックスをオンにし、[ 選択項目の追加 ] をクリックします。

ユーザが、[ グループ内のユーザ (Users in Group) ] グループボックスに表示されます。



### ヒント

CAR 管理特権を無効にするには、[ グループ内のユーザ (Users in Group) ] グループボックスに含まれているユーザのチェックボックスをオンにし、[ 選択項目の削除 ] をクリックします。警告メッセージが表示されたら、OK をクリックします。管理特権は、ただちに無効になります。

### 追加情報

P.2-6 の「関連トピック」を参照してください。

## CAR へのログイン

CAR にログインするには、次の手順を実行します。

### 始める前に

次の作業を実行します。

- CAR にログインする前に、最初のノード上で Cisco CAR Web Service と Cisco CAR Scheduler サービスが動作していることを確認します。これらのサービスをアクティブにすると、CDR Analysis and Reporting オプションが Cisco Unified CallManager Serviceability の Tools メニューに表示されます。サービスをアクティブにする方法については、P.2-2 の「CAR のアクティブ化」を参照してください。
- P.2-4 の「CAR 管理者、マネージャ、およびユーザの設定」の説明に従って、CAR 管理者、マネージャ、およびユーザを設定します。

### 手順

---

**ステップ 1** CAR にログインするには、次のいずれかの手順を実行します。

- CAR システムの管理者のみ：Cisco Unified CallManager Serviceability で、Tools > CDR Analysis and Reporting を選択します。
- CAR のユーザまたは管理者：Web ブラウザで、<https://<Server-ip/name>:8443/car/Logon.jsp> と入力します。

**ステップ 2** CAR のログイン ウィンドウが表示されたら、User Name フィールドにユーザ ID を入力します。

**ステップ 3** Password フィールドに、パスワードを入力します。

ユーザ ID またはパスワードが無効である場合は、「Invalid Logon. Either the User Name or the Password entered is invalid. Click here to try again.」というメッセージが表示されます。リンクをクリックし、ユーザ ID とパスワードをもう一度入力して、OK をクリックします。

CAR のウィンドウが表示されます。

---

### 追加情報

P.2-6 の「関連トピック」を参照してください。

## CAR からのログアウト

この項では、CAR からログアウトする方法について説明します。

### 手順

---

**ステップ 1** CAR のウィンドウで、**Logout** を選択します。

**ステップ 2** 「For security reasons, it is advisable to close the browser window on Logout. Do you want to close the browser window?」というプロンプトメッセージが表示されます。CAR のウィンドウ (ブラウザ) を閉じるには、**OK** をクリックします。[キャンセル] をクリックすると、CAR の Logon ウィンドウが表示されます。

---

### 追加情報

P.2-6 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## CAR マニュアルのオンライン ヘルプへのアクセス

CAR マニュアルのオンライン ヘルプにアクセスするには、**Help > Contents and Index** (目次) または **Help > For this page** (表示されているページ固有の情報) を選択します。

### 追加情報

P.2-6 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## 関連トピック

- [CAR のアクティブ化 \(P.2-2\)](#)
- [CAR 管理者、マネージャ、およびユーザの設定 \(P.2-4\)](#)
- [CAR へのログイン \(P.2-5\)](#)
- [CAR からのログアウト \(P.2-6\)](#)
- [CAR マニュアルのオンライン ヘルプへのアクセス \(P.2-6\)](#)
- [CDR Analysis and Reporting の概要 \(P.1-1\)](#)
- [CAR システムの設定 \(P.3-1\)](#)
- [CAR レポートの設定 \(P.4-1\)](#)
- [CAR ユーザ レポートの設定 \(P.5-1\)](#)
- [CAR システム レポートの設定 \(P.6-1\)](#)
- [CAR デバイス レポートの設定 \(P.7-1\)](#)
- [CDR 検索の設定 \(P.8-1\)](#)
- [CDR/CMR レコードのエクスポートの設定 \(P.9-1\)](#)
- [CAR レポートの結果 \(P.10-1\)](#)



## CAR システムの設定

---

CAR を使用してレポートの生成を開始する前に、システムを設定する必要があります。CAR では、ほとんどの値にデフォルト値が提供されていますが、この章で提供しているトピックを確認して、CAR のカスタマイズについて詳しく知っておいてください。

この章は次の内容で構成されています。

- [システム パラメータの設定 \(P.3-2\)](#)
- [システム スケジューラの設定 \(P.3-8\)](#)
- [システム データベースの設定 \(P.3-14\)](#)
- [システム ログ画面 \(P.3-17\)](#)
- [関連トピック \(P.3-19\)](#)

## システムパラメータの設定

デフォルト値を使用する必要がある場合、レポートを生成する前に、数多くのシステムパラメータをカスタマイズする必要があります。この項では、システムパラメータについて説明します。シスコではカスタマイズすることを推奨していますが、すべてのシステムパラメータにデフォルト値が用意されているため、カスタマイズは必須ではありません。

この項では、次のトピックを取り上げます。

- [メールサーバのパラメータの設定 \(P.3-2\)](#)
- [ダイヤルプランの設定 \(P.3-3\)](#)
- [CAR ダイヤルプランのデフォルト値の復元 \(P.3-4\)](#)
- [ゲートウェイの設定 \(P.3-5\)](#)
- [システム設定値の設定 \(P.3-7\)](#)

## メールサーバのパラメータの設定

電子メール警告とレポートを電子メールで送信するには、メールサーバの構成情報を指定する必要があります。CAR は、構成情報を使用して電子メールサーバに正常に接続します。

この項では、電子メールサーバの情報を指定する方法について説明します。

### 手順

---

**ステップ 1** System > System Parameters > Mail Parameters を選択します。

Mail Parameters ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Mail ID フィールドに、電子メール送信時に From フィールドで使用される電子メール ID を入力します。

**ステップ 3** Password フィールドに、電子メールシステムが動作しているサーバにアクセスするためのパスワードを入力します。



**(注)** CAR では、ユーザ ID とパスワードを認証しません。メールサーバ上で認証をディセーブルにするか、有効なユーザ ID とパスワードを入力する必要があります。

---

**ステップ 4** Confirm Password フィールドに、[ステップ 3](#) と同じパスワードを確認のために入力します。

**ステップ 5** Mail Domain フィールドに、電子メールシステムが動作しているサーバのドメイン名を入力します。

**ステップ 6** Mail Server Name フィールドに、電子メールシステムが動作しているサーバの名前または IP アドレスを入力します。

**ステップ 7** 変更を適用するために、Update ボタンをクリックします。

---

### 追加情報

[P.3-19 の「関連トピック」](#)を参照してください。

## ダイヤルプランの設定

CAR のデフォルトダイヤルプランは、北米番号計画 (NANP) です。コールの分類がレポート内で正しく表示されるようにするには、ダイヤルプランが適切に設定されていることを確認します。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページのデフォルトである NANP を変更した場合や、NANP の範囲外にいる場合は、Cisco Unified CallManager のダイヤルプランに従って、CAR でダイヤルプランを設定する必要があります。ダイヤルプランを設定するには、条件が少なくとも 1 つ存在する必要があります。ダイヤルプランについては、『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』および『Cisco Unified CallManager システムガイド』を参照してください。

ダイヤルプランを設定するには、発信コールを分類するためのパラメータを定義します。コールの分類には、国際、ローカル、長距離、オンネットなどがあります。たとえば、現在の地域の市内電話番号の長さが 6 桁である場合は、ダイヤルプランの行に次のように指定します。

Condition	No of Digits	Pattern	Call Type
=	6	!	Local

この項では、CAR のダイヤルプランの設定を更新する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** System > System Parameters > Dial Plan Configuration を選択します。

Dial Plan Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Toll Free Numbers フィールドに、ダイヤルプランに含まれる、無料で発信できる番号を入力します。

**ステップ 3** 次のフィールドを使用して、表に含まれている値を更新します。

- Condition : ルールの条件を選択します。No of Digits フィールドに指定した値に対して、> は大きいこと、< は小さいこと、= は等しいことを表します。
- No Of Digits : このルールの適用対象となる電話番号の桁数を選択します。桁数がルールと無関係である場合は、NA と指定します。
- Pattern : コール分類に使用される、次のパターンを入力します。
  - G : ルールで指定されているとおりに分類されることを表します (G は、P.3-5 の「[ゲートウェイの設定](#)」で指定するゲートウェイエリアコードのワイルドカードと同等です)。
  - T : CAR に設定されているフリーダイヤル番号を取得します。
  - ! : 複数の桁がある (1234 や 5551234 など、番号の長さが 1 より大きい) ことを表します。
  - X : 1 桁の番号を表します (0、1、9 など)。
- Call Type : 条件を満たしている場合のコールタイプを選択します。

**ステップ 4** 行をさらに追加するには、行を追加する場所の下にある行のチェックボックスをオンにし、**Add Rows** をクリックします。選択した行の上に、行が追加されます。行を削除するには、削除する行のチェックボックスをオンにして、**Delete Rows** リンクをクリックします。



(注) CAR では、ダイヤルされる番号を基準にしてコールを分類し、CDR に格納します。ダイヤルされる番号が (番号変換が原因で) CDR に書き込まれる番号と異なる場合は、CAR でダイヤルプランを設定するときに、番号が CDR にどのように記録されるかを基準にする必要があります。

**ステップ 5** 変更を適用するために、Update ボタンをクリックします。

#### 追加情報

P.3-19 の「関連トピック」を参照してください。

## CAR ダイヤルプランのデフォルト値の復元

デフォルトのダイヤルプランに CAR で変更を加えた場合は、北米番号計画 (NANP) に基づいたデフォルト値に戻すことができます。

表 3-1 に、デフォルトの NANP の値を示します。

表 3-1 CAR ダイヤルプランのデフォルト値

Condition	No of Digits	Pattern	Call Type
=	5	!	OnNet
=	7	!	Local
=	10	T!	Others
=	10	G!	Local
=	10	!	Long Distance
=	11	T!	Others
=	11	XG!	Local
=	11	!	Long Distance
>	3	011!	International

次に、表 3-1 の表にあるデフォルト値の説明を示します。

- 1 行目：ダイヤルされた桁数が 5 でパターンが ! (1 桁以上の数字、この場合は 5 桁の数字) である場合、コールは OnNet (オンネット) として分類されます。
- 2 行目：ダイヤルされた桁数が 7 でパターンが ! (1 桁以上の数字、この場合は 7 桁の数字) である場合、コールは Local (ローカル) として分類されます。
- 3 行目：ダイヤルされた桁数が 10 でパターンが T! (1 桁以上の数字、この場合は、フリーダイヤル番号コードで始まる 10 桁の数字) である場合、コールは Others (その他) として分類されます。
- 4 行目：ダイヤルされた桁数が 10 でパターンが G! (1 桁以上の数字、この場合は、ゲートウェイコードで始まる 10 桁の数字) である場合、コールは Local (ローカル) として分類されます。
- 5 行目：ダイヤルされた桁数が 10 でパターンが ! (1 桁以上の数字、この場合は 10 桁の数字) である場合、コールは Long Distance (長距離) として分類されます。(1 桁以上の数字、この場合は 10 桁の数字)、コールは Long Distance (長距離) として分類されます。



- 6行目：ダイヤルされた桁数が11でパターンがT! (1桁以上の数字、この場合は、フリーダイヤル番号コードで始まる11桁の数字)である場合、コールはOthers (その他)として分類されます。
- 7行目：ダイヤルされた桁数が11でパターンがXG! (1桁以上の数字、この場合は、1つの数字とそれに続くゲートウェイコードで始まる11桁の数字)である場合、コールはLocal (ローカル)として分類されます。
- 8行目：ダイヤルされた桁数が11でパターンが! (1桁以上の数字、この場合は11桁の数字)である場合、コールはLong Distance (長距離)として分類されます。(1桁以上の数字、この場合は11桁の数字)、コールはLong Distance (長距離)として分類されます。
- 9行目：ダイヤルされた桁数が3より大きく、011で始まる場合、コールはInternational (国際)として分類されます。

これらの条件を1つも満たしていない場合、コールはOthers (その他)として分類されます。この項では、CARでNANPダイヤルプランの値を復元する方法について説明します。

### 手順

**ステップ1** System > System Parameters > Dial Plan Configuration を選択します。

Dial Plan Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ2** Restore Defaults ボタンをクリックします。

復元内容は、午前0時に有効になります。変更内容をすぐに有効にするには、Cisco CAR Scheduler サービスを再起動します。サービスの再起動については、『Cisco Unified CallManager Serviceably アドミニストレーションガイド』を参照してください。

### 追加情報

P.3-19の「関連トピック」を参照してください。

## ゲートウェイの設定



### ヒント

Cisco Unified CallManager システムの既存ゲートウェイについて、CARでゲートウェイを設定します。また、ゲートウェイをCisco Unified CallManagerの管理ページに追加した場合は、その新しいゲートウェイをCARで設定します。ゲートウェイをCisco Unified CallManagerシステムから削除した場合、それらのゲートウェイ(および指定した設定値)は、CARから自動的に削除されます。

CARはエリアコード情報を使用して、コールがローカルか長距離かを判別します。CARが使用状況レポートを生成するために使用できる各ゲートウェイのポート数の情報を提供する必要があります。



### (注)

「G」は、ダイヤルプランの設定で 사용되는ゲートウェイエリアコードのワイルドカードとして機能します。

この項では、CAR でゲートウェイを設定する方法について説明します。

## 手順

**ステップ 1** System > System Parameters > Gateway Configuration を選択します。

Gateway Configuration ウィンドウが表示されます。



**(注)** Cisco Unified CallManager の管理ページでゲートウェイを設定していない場合は、システム用のゲートウェイを設定していないことを示すメッセージが表示されます。

**ステップ 2** 次のいずれかを実行します。

- すべてのゲートウェイのエリア コードを更新するには、Area Code フィールドにエリア コードを入力し、Set Area Code ボタンをクリックします。  
変更内容を保存するには Update をクリックする必要があることを示すメッセージが表示されます。OK をクリックします。
- 特定のゲートウェイ エリア コードを更新するには、設定する各ゲートウェイのエリア コードのフィールドに、そのゲートウェイのエリア コードを入力します。

**ステップ 3** Max No. of Ports フィールドに、設定する各ゲートウェイのポートの数を入力します。Max No of Ports の範囲は、1 ~ 1000 です。



**(注)** Cisco Unified CallManager の管理ページでゲートウェイを追加したときに、当該ゲートウェイについて指定した値が CAR で使用されます。したがって、ゲートウェイを Cisco Unified CallManager の管理ページで追加したときに指定した詳細情報によっては、ゲートウェイにすでにエリア コードが設定されている場合や、最大ポート数に 0 が設定されている場合があります。CAR では、0 は最大ポート数の値として許容されません。値 0 が指定されているすべてのゲートウェイについて、最大ポート数を変更するように求められます。

**ステップ 4** 変更を適用するために、Update ボタンをクリックします。

CAR では、設定済みの任意の（すべての）ゲートウェイを対象としてレポートを実行できます。

## 追加情報

P.3-19 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## システム設定値の設定

CAR ではデフォルトのシステム設定値が提供されていますが、システムパラメータの値を指定することで、システムをカスタマイズできます。

この項では、システムパラメータの値を指定する方法について説明します。

### 手順

---

**ステップ 1** System > System Parameters > System Preferences を選択します。

System Preferences ウィンドウが表示されます。Parameter Name リストに、使用可能なシステムパラメータのリストが表示されます。

**ステップ 2** Parameter Value フィールドに、表 3-2 の説明に従って適切な値を入力します。

表 3-2 システム設定のパラメータ

パラメータ	説明
COMPANY_NAME	レポートのヘッダー情報として使用される会社名を入力します。

**ステップ 3** Update ボタンをクリックします。

---

## システム スケジューラの設定

CAR のシステム スケジューラは、次の機能を提供します。

- CDR の日時スケジュールをロードする。
- CDR の日時スケジュールをディセーブルにする。
- 日報をスケジュールリングする。
- 週報をスケジュールリングする。
- 月次報告をスケジュールリングする。



(注)

CDR データをロードしているときは、Cisco Unified CallManager サーバのパフォーマンスが低下する場合があります。デフォルトのロード時刻を使用するか、Cisco Unified CallManager のパフォーマンスへの影響が最小限で済む時間帯にロードの実行をスケジュールリングすることをお勧めします。

### 追加情報

P.3-19 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## CDR のロード スケジュールの設定

デフォルトでは、CDR データは毎日午前 0 時～ 5 時にロードされます。この項では、ロードのスケジュールをカスタマイズする方法、カスタマイズした場合にデフォルトのロード スケジュールに戻す方法、および CDR のロードをディセーブルにする方法について説明します。

CDR のロードをディセーブルにするのは、通常は CDR のロードが発生している営業時間外の時間帯に、システムのインストールやアップグレードを実施しようとする場合です。CDR をロードすると Cisco Unified CallManager のリソースが減少するため、他の操作が完了するまで、CDR のロードを一時的に停止することができます。CDR のロードをディセーブルにすると、CDR データが更新されない状態になります。できる限り早く CDR のロードを再開するようにしてください。CAR ツールは、Cisco Unified CallManager での CDR の生成には影響を及ぼしません。



ヒント

手動で CAR データを削除し、データベースに CDR をリロードするには、P.3-14 の「[手動での CAR データベースの消去とリロード](#)」を参照してください。

### 手順

**ステップ 1** System > Scheduler > CDR Load を選択します。

CDR Load ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次の手順のいずれかを実行します。

- デフォルトのロード スケジュールを復元して、CDR データが毎日午前 0 時～ 5 時にロードされるようにするには、**Restore Defaults** ボタンをクリックします。  
変更内容は、午前 0 時に有効になります。変更内容をすぐに有効にするには、Control Center - Feature Services ウィンドウで Cisco CAR Scheduler サービスを一旦停止し再起動します。

- CDR データのロードをディセーブルにするには、**Disable Loader** チェックボックスをオンにし、**Update** ボタンをクリックします。

CDR のロードをイネーブルにするまで、CDR データが CAR にロードされなくなります。変更内容は、午前 0 時に有効になります。CAR Scheduler サービスを一旦停止し再起動すると、変更内容をすぐに有効にすることができます。

- CDR データのロードをイネーブルにするには、**Disable Loader** チェックボックスをオフにし、[ステップ 3](#) に進んでロードのパラメータを設定します。

**ステップ 3** Load CDR & CMR 領域で、[表 3-3](#) の説明に従ってフィールドの値を入力します。

**表 3-3 Load CDR & CMR の値**

フィールド	値
Time	CDR フラット ファイルからの CDR データのロードを CAR が開始する時刻を選択します。
Loading Interval	レコードをロードする間隔を選択します。間隔の範囲は、15 分ごと ~ 24 時間ごとです。
Duration	CDR データをロードする期間の長さを、分単位で入力します。CDR フラット ファイルのサイズによっては、CDR をロードしているときに CAR のパフォーマンスが低下する場合があります。ロードを許可する期間は限定できますが、限定した場合、設定した期間では CDR データが一部しかロードされない可能性があります。設定する期間制限値は、必ず実行間隔に合わせて調整してください。たとえば、CDR データを 15 分ごとにロードする場合は、ロード期間が 15 分を超えることはできません。

無制約ロードを使用すると、CDR データを持続的にロードする時間帯を設定できます。これは、指定した時間帯に CDR データが自動的にロードされるわけではありません。指定した時間帯に CDR データの無制約ロードが実行されるのは、Load CDR & CMR 領域の設定値に従って、当該の時間帯にロードが開始された場合のみです。このため、無制約ロードの時間帯にロードが開始された場合、ロードは無制約ロードの時間帯が終了するまで継続し、さらに Load CDR & CMR 領域の duration フィールドで設定した期間が終了するまで継続します。

無制約ロードは、スケジュール付きのロードで設定されたどの値よりも優先されます。CDR データの無制約ロードを実行しない場合は、From と To の値を 00:00 に設定します。

**ステップ 4** Uninhibited Loading of CDR 領域で、[表 3-4](#) の説明に従って次のフィールドの値を入力します。

**表 3-4 Uninhibited Loading of CDR の値**

フィールド	値
From	CDR データの継続的ロードを開始する時刻(時間と分)を選択します。
To	CDR データの継続的ロードを終了する時刻(時間と分)を選択します。

**ステップ 5** Update ボタンをクリックします。

指定した時刻、間隔、および期間に基づいて、CDR データがロードされるようになります。変更内容は、午前 0 時に有効になります。CAR Scheduler サービスを一旦停止し再起動すると、変更内容をすぐに有効にすることができます。

#### 追加情報

[P.3-19 の「関連トピック」](#)を参照してください。

## 日報のスケジューリング

日報スケジューラでは、CAR 日報の実行時刻と保管期間をスケジューリングします。



(注)

レポートの生成により Cisco Unified CallManager のパフォーマンスが低下することがあります。パフォーマンスへの影響が最小となる時間帯にレポートの生成をスケジュールしてください。

### 始める前に

Automatic Generation/Alert Option を使用して生成するレポートを指定します。詳細については、P.4-8 の「[レポートの自動生成と警告の設定](#)」を参照してください。

この項では、自動日報の実行時刻と保管期間をスケジューリングする方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** System > Scheduler > Daily を選択します。

Daily Scheduler ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Time ドロップダウン リスト ボックスから、日報を生成する時刻（時間と分）を選択します。

24 時間制で時間を表わします。つまり、0 は午前 0 時、1 ~ 11 は午前の該当する時間、12 ~ 23 は午後 1 時から 11 時までをそれぞれ示しています。

**ステップ 3** Life ドロップダウン リスト ボックスから、レポートの保管期間を 0 ~ 12 日の範囲で選択します。



ヒント

レポートの保管期間を 00 に設定すると、レポートは生成されません。

**ステップ 4** Update ボタンをクリックします。

Automatic Generation/Alert Option で生成間隔を Daily に設定し、イネーブルにしたレポートは、毎日指定した時刻に自動的に生成され、指定した日数が経過すると削除されます。

変更内容は、午前 0 時に有効になります。CAR Scheduler サービスを一旦停止し再起動すると、変更内容をすぐに有効にすることができます。



ヒント

デフォルト値に戻すには、Restore Defaults ボタンをクリックします。デフォルトでは、日報は毎日午前 1 時に実行され、2 日後に消去されます。

### 追加情報

[P.3-19 の「関連トピック」](#)を参照してください。

## 週報のスケジューリング

週報スケジューラでは、自動週報の実行日時と保管期間をスケジューリングします。



(注)

レポートの生成により Cisco Unified CallManager のパフォーマンスが低下することがあります。パフォーマンスへの影響が最小となる時間帯にレポートの生成をスケジュールしてください。

### 始める前に

Automatic Generation/Alert Option を使用して、生成するレポートを指定します。詳細については、P.4-8 の「[レポートの自動生成と警告の設定](#)」を参照してください。

この項では、自動週報の実行日時と保管期間をスケジューリングする方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** System > Scheduler > Weekly を選択します。

Weekly Scheduler ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Day of Week ドロップダウン リスト ボックスから、レポートを生成する曜日を選択します。

**ステップ 3** Time ドロップダウン リスト ボックスから、レポートを生成する時刻（時間と分）を選択します。

24 時間制で時間を表わします。つまり、0 は午前 0 時、1 ~ 11 は午前の該当する時間、12 ~ 23 は午後 1 時から 11 時までをそれぞれ示しています。

**ステップ 4** Life ドロップダウン リスト ボックスから、レポートの保管期間を 00 ~ 12 週の範囲で選択します。



**ヒント** レポートの保管期間に 00 を選択すると、レポートは生成されません。

**ステップ 5** Update ボタンをクリックします。

Automatic Generation/Alert Option で生成間隔を Weekly に設定し、イネーブルにしたレポートは、毎週指定した時刻に自動的に生成され、指定した週数が経過すると削除されます。

変更内容は、午前 0 時に有効になります。変更内容をすぐに有効にするには、Control Center - Feature Services ウィンドウで CAR Scheduler サービスを一旦停止し再起動します。



**ヒント** デフォルト値に戻すには、Restore Defaults ボタンをクリックします。デフォルトでは、週報は毎週日曜日の午前 4 時に実行され、4 週間後に消去されます。

### 追加情報

P.3-19 の「[関連トピック](#)」を参照してください。



## 月次報告のスケジュールリング

月次報告スケジューラでは、CAR 月次報告の実行日時と保管期間をスケジュールリングします。



(注)

レポートの生成により Cisco Unified CallManager のパフォーマンスが低下することがあります。パフォーマンスへの影響が最小となる時間帯にレポートの生成をスケジュールしてください。

### 始める前に

Automatic Generation/Alert Option を使用して、生成するレポートを指定します。詳細については、P.4-8 の「[レポートの自動生成と警告の設定](#)」を参照してください。

この項では、自動月次報告の実行日時と保管期間をスケジュールリングする方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** System > Scheduler > Monthly を選択します。

Monthly Scheduler ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Monthly Bill Generation 行にある Day of Month ドロップダウン リスト ボックスから、レポートを生成する日付を選択します。

この値を、特定の月に発生しない日付 (29、30、31 など) に設定した場合、レポートは当該の月の末日に生成されません。

**ステップ 3** Monthly Bill Generation 行にある Time ドロップダウン リスト ボックスから、レポートを生成する時刻 (時間と分) を選択します。

24 時間制で時間を表わします。つまり、0 は午前 0 時、1 ~ 11 は午前の該当する時間、12 ~ 23 は午後 1 時から 11 時までをそれぞれ示しています。

**ステップ 4** Monthly Bill Generation 行にある Life ドロップダウン リスト ボックスから、レポートの保管期間を 00 ~ 12 か月の範囲で選択します。



ヒント

00 を選択すると、レポートは生成されません。

**ステップ 5** Other Monthly Reports 行にある Day of Month ドロップダウン リスト ボックスから、レポートを生成する日付を選択します。

この値を、特定の月に発生しない日付 (29、30、31 など) に設定した場合、レポートは当該の月の末日に生成されません。



**ステップ 6** Other Monthly Reports 行にある Time ドロップダウン リスト ボックスから、レポートを生成する時刻（時間と分）を選択します。

24 時間制で時間を表わします。つまり、0 は午前 0 時、1 ~ 11 は午前の該当する時間、12 ~ 23 は午後 1 時から 11 時までをそれぞれ示しています。

**ステップ 7** Other Monthly Reports 行にある Life ドロップダウン リスト ボックスから、レポートの保管期間を 00 ~ 12 か月の範囲で選択します。



**ヒント** 00 を選択すると、レポートは生成されません。

**ステップ 8** Update ボタンをクリックします。

Automatic Generation/Alert Option で生成間隔を Monthly に設定し、イネーブルにしたレポートは、毎月指定した時刻に自動的に生成され、指定した月数が経過すると削除されます。

変更内容は、午前 0 時に有効になります。変更内容をすぐに有効にするには、Control Center - Feature Services ウィンドウで CAR Scheduler サービスを一旦停止し再起動します。



**ヒント** デフォルト値に戻すには、Restore Defaults ボタンをクリックします。デフォルトでは、月次請求書レポートは毎月 1 日の午前 3 時に実行され、2 か月後に消去されます。その他の月次報告は、毎月 1 日の午前 2 時に実行され、2 か月後に消去されます。

### 追加情報

P.3-19 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## システム データベースの設定

CAR では、CAR データベースのサイズが最大レコード数の何 % を超えたときに、通知するように設定できます。メッセージと最大レコード数を設定し、警告を発行する割合(%)を指定できます。

CAR データベースのサイズが、最高水準点と最低水準点の間で維持されるようにシステムを設定できます。これらの値は、Configure Automatic Database Purge ウィンドウで設定します。データベースのサイズが最低水準点に達すると、ユーザに警告が送信されます。データベースのサイズが最高水準点に達すると、削除の存続時間に基づいてレコードが削除され、電子メールが送信されます。

システム データベースの情報を設定するには、次の各項を参照してください。

- [手動での CAR データベースの消去とリロード \(P.3-14\)](#)
- [自動データベース消去の設定 \(P.3-15\)](#)
- [システム ログ画面 \(P.3-17\)](#)

### 手動での CAR データベースの消去とリロード

この項では、選択したレコードを CAR データベースから手動で消去する方法、およびすべての CAR データを削除して、データベースに新しい CAR データをリロードする方法について説明します。ダイヤルプランのアップデート、ユーザとデバイスとのアソシエーションの変更、コール レートの変更などの後に、データベースをリロードしてコールを分類し直す必要が生じることがあります。

#### 手順

**ステップ 1** System > Database > **Manual Purge** を選択します。

Manual Database Purge ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次の操作のいずれかを選択します。

- 既存の CAR データを削除して CAR データベースをリロードするには、**Reload All Call Detail Records** ボタンをクリックします。

レコードの削除によって、システムのパフォーマンスに影響が及ぶ場合があることを通知するメッセージが表示されます。リロード プロセスを続行するには、**OK** をクリックします。

5 分以内に CAR データベースへの CDR のロードが開始され、最大で 6 時間継続されます。リロードの進捗状況を監視するには、[P.3-17 の「イベント ログの生成」](#)の説明に従って、CDR Load イベント ログを生成します。

システムに新しいレコードがロードされた後は、[P.3-8 の「CDR のロード スケジュールの設定」](#)で設定したスケジュールに従ってレコードがロードされます。デフォルトでは、CDR データは毎日午前 0 時から午前 5 時までロードされます。

- 選択した CAR レコードを手動で消去するには、[ステップ 3](#)に進みます。

**ステップ 3** Select Table フィールドで、データベース内の消去の対象になるテーブルを選択します。

手動消去が許可されているテーブル、テーブルに含まれているレコードの合計数、テーブルに含まれている最新および最古のレコードを表示するには、**Table Information** ボタンをクリックします。

Table Information ウィンドウが表示されます。Manual Database Purge ウィンドウに戻るには、**Close** ボタンをクリックします。

**ステップ 4** Delete Records フィールドで、次のいずれかのオプション ボタンをクリックして、消去対象のレコードを特定するための日付を選択します。

- Older than
- Between

削除する CAR レコードの日付範囲を選択します。

**ステップ 5** 指定した日付より古いレコード、または指定した日付範囲に含まれているレコードをすべて削除するには、**Purge** ボタンをクリックします。

プロンプトに、指定したレコードを完全に削除しようとしていることが示されます。

**ステップ 6** レコードを消去するには、**OK** ボタンをクリックします。消去操作を取り消すには、**[キャンセル]** ボタンをクリックします。

**OK** をクリックすると、選択したテーブルからレコードが消去されます。レコードが正常に削除されると、テーブルから削除されたレコードの数がステータス メッセージに示されます。

#### 追加情報

P.3-19 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## 自動データベース消去の設定

この項では、CAR データベースの自動消去をスケジューリングおよびディセーブルにする方法について説明します。デフォルトでは、データベースの自動消去がイネーブルになっています。

#### 手順

**ステップ 1** **System > Database > Configure Automatic Purge** を選択します。

Configure Automatic Database Purge ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 自動消去をイネーブルにする場合は、**Disable CAR Purge** チェックボックスがオフになっていることを確認します。



**(注)** 自動消去をディセーブルにする場合は、**Disable CAR Purge** チェックボックスをオンにします。

**ステップ 3** Low Water Mark ドロップダウン リスト ボックスから、6 GB の CAR データベースのうち、システムが CAR データに使用する割合の下限値 (%) を選択します。データベースのサイズがこの水準に達すると、CAR ファイルの消去が停止します。



**ヒント** CAR データベースのサイズが最低水準点に達した場合、システムが通知します。電子メール警告の設定については、P.4-10の「電子メールによる警告のイネーブル化とディセーブル化」を参照してください。

**ステップ4** High Water Mark ドロップダウン リスト ボックスから、6 GB の CAR データベースのうち、システムが CAR データに使用する割合の上限値 (%) を選択します。データベースのサイズがこの水準を超えると、CAR ファイルの消去が開始されます。

**ステップ5** Automatic Database Purge 領域にある Delete CAR Records older than フィールドに、データベースから消去する CAR レコードの保管期間を日数で入力します。データベースのサイズが最高水準点に達すると、指定した日数よりも古いレコードが削除されます。

**ステップ6** Update ボタンをクリックします。

変更内容は、午前0時に有効になります。変更内容をすぐに有効にするには、Cisco CAR Scheduler サービスを再起動します。

CAR Scheduler は、この手順で設定された最低水準点と最高水準点を毎日確認し、データベースのサイズが最高水準点に達した場合は、指定された保管期間に基づいてレコードを削除します。削除が発生するのは、P.3-10の「日報のスケジューリング」で説明したように、日報の生成が設定されている時刻と同時です。CAR は、CDR をロードする前に、指定された保管期間に基づいてレコードを削除します。



**(注)** このウィンドウにあるフィールドの値をデフォルトに戻すには、Restore Defaults ボタンをクリックします。デフォルトでは、自動消去がイネーブルになっています。

#### 追加情報

P.3-19の「関連トピック」を参照してください。

## システム ログ画面

CAR は、さまざまなアクティビティのステータスを追跡できるログを提供します。CAR Scheduler が開始するイベント、たとえば、自動生成レポート、CDR のロード、レポート削除、データベースの内容消去などが、イベント ログによって追跡されます。

### 追加情報

P.3-19 の「関連トピック」を参照してください。

## イベント ログの生成

イベント ログは、CAR Scheduler が制御するアクティビティのステータスについて、レポートを提供します。イベント ログ レポートには、タスクが開始されたかどうか、正常に完了したかどうか、進行中であるかどうかを示されます。

この項では、イベント ログ レポートを生成する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** System > Log Screens > Event Log を選択します。

Event Log ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 毎日 1 回実行されるジョブを選択するには、Daily オプション ボタンをクリックします。週 1 回実行されるジョブを選択するには、Weekly オプション ボタンをクリックします。月 1 回実行されるジョブを選択するには、Monthly オプション ボタンをクリックします。

**ステップ 3** List of Jobs 領域で、情報を取得するタスクを選択します。

**ステップ 4** 選択したタスクを Selected Jobs 領域に追加するには、右矢印アイコンをクリックします。

**ステップ 5** Selected Jobs 領域からタスクを削除するには、削除するタスクを選択し、左矢印アイコンをクリックします。

**ステップ 6** 実行頻度の異なるタスクを追加するには、ステップ 2 ~ ステップ 4 を繰り返します。たとえば、日報と、月 1 回または週 1 回のタスクを含んだレポートを一緒に指定することができます。

**ステップ 7** レポートに含めるステータスを選択します。表 3-5 の説明に従って、ステータスを少なくとも 1 つ 選択する必要があります。



(注) システムのデフォルトでは、すべてのジョブ ステータスが選択されています。

表 3-5 イベント ログ レポートのステータス

ステータス	説明
Completed	このチェックボックスをオンにすると、完了したタスクがイベント ログ レポートに記録されます。
In Progress	このチェックボックスをオンにすると、処理中のタスクがイベント ログ レポートに記録されます。
Unsuccessful	このチェックボックスをオンにすると、失敗したタスクがイベント ログ レポートに記録されます。

**ステップ 8** From と To の値を選択して、日付範囲を選択します。

**ステップ 9** イベント ログ レポートを生成するには、OK ボタンをクリックします。

イベント ログに、選択したタスクに関する情報が表示されます。

表 3-6 で、イベント ログ レポートの出力について説明します。

表 3-6 イベント ログ レポートの出力パラメータ

パラメータ	説明
SI No	シリアル番号
Jobs	タスクの名前
Start Time	タスクが開始された時刻
End Time	タスクが終了した時刻
Status	失敗、処理中、完了のいずれか
Date	タスクがスケジューリングされた日付

**ステップ 10** 画面を右クリックし、[印刷] を選択して、ログを印刷します。

### 追加情報

P.3-19 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## 関連トピック

- [メールサーバのパラメータの設定 \(P.3-2\)](#)
- [ダイヤルプランの設定 \(P.3-3\)](#)
- [CAR ダイヤルプランのデフォルト値の復元 \(P.3-4\)](#)
- [CDR のロード スケジュールの設定 \(P.3-8\)](#)
- [日報のスケジューリング \(P.3-10\)](#)
- [週報のスケジューリング \(P.3-11\)](#)
- [月次報告のスケジューリング \(P.3-12\)](#)
- [システム データベースの設定 \(P.3-14\)](#)
- [自動データベース消去の設定 \(P.3-15\)](#)
- [システム ログ画面 \(P.3-17\)](#)
- [イベント ログの生成 \(P.3-17\)](#)
- [レポートの自動生成と警告の設定 \(P.4-8\)](#)
- [通知限度の設定 \(P.4-11\)](#)
- [ゲートウェイ別 QoS の設定 \(P.6-6\)](#)
- [ゲートウェイ詳細レポートの設定 \(P.7-2\)](#)
- [ゲートウェイ要約レポートの設定 \(P.7-4\)](#)
- [ゲートウェイ使用状況レポートの設定 \(P.7-6\)](#)

■ 関連トピック





# CAR レポートの設定

次のパラメータを定義するには、レポートの設定を使用します。

- コールの評価パラメータ：接続時間、時刻、音声品質



**(注)** コールの評価パラメータは、CAR のロード中に値が生成されます。CAR データベース内の古い CDR レコードに対して、これらのパラメータの新しい値を使用する場合は、すべての CDR を CAR データベースにリロードする必要があります。

- Quality of Service (QoS; サービス品質)
- 警告付きレポートの自動生成
- 通知限度

この章は次の内容で構成されています。

- [定格エンジンの設定 \(P.4-2\)](#)
- [QoS 値の定義 \(P.4-6\)](#)
- [レポートの自動生成と警告の設定 \(P.4-8\)](#)
- [通知限度の設定 \(P.4-11\)](#)
- [関連トピック \(P.4-12\)](#)

## 始める前に

CAR を使用してレポートの生成を開始する前に、システムを設定する必要があります。[P.3-1 の「CAR システムの設定」](#)を参照してください。

## 定格エンジンの設定

CAR を使用すると、時間の経過に伴って加算されていくコールのコストに対して、基本的な料金レートを設定できます。時間帯および音声品質ファクタを適用することで、コストをさらに適正化することができます。通常、この機能は加入者にサービス料金を請求することが必要になるサービスプロバイダーが使用します。組織によっては、アカウントリングや予算編成の目的でこの情報を使用し、組織内のユーザと部門の課金コストを決定することもできます。

これらの評価パラメータを使用するレポートとしては、個別の課金情報、部門の課金情報、料金別の上位 N 件、接続時間別の上位 N 件、コール数別の上位 N 件があります。



(注)

料金ベースやブロックのデフォルト値を変更しない場合は、ブロックあたりのデフォルト基本料金が 0 になるため、コストは常に 0 になります。

コールの料金は、コールの基本料金、時刻に応じた乗数、および音声品質に応じた乗数を乗算したもので構成されます。コールの基本料金は、**Report Config > Rating Engine > Duration** ウィンドウで設定できます。次のリストを参照してください。

- 基本料金 = コスト (装置の数) × 「ブロックの数」セクションで指定した接続時間ブロックに適用される。
- ブロックの数 = コールの接続時間の合計数 (秒単位)、基本料金の適用対象になる。

時刻に応じた乗数は、**Report Config > Rating Engine > Time of Day** ウィンドウで設定できます。この設定値の基準になるのは、コールの接続時刻です。

音声品質に応じた乗数は、**Report Config > Rating Engine > Voice Quality** ウィンドウで設定できます。

## 基本レートと接続時間の設定

コールのコストの基準を確立するには、すべてのコールについて基本レートを指定する必要があります。たとえば、現在のサービスプロバイダーが 1 分につき 6 セントのレートで 10 秒ごとに課金している場合は、すべてのコールに課される基本レートを、10 秒につき 1 セントとして設定します。

この項では、基本料金と接続時間の値を確立する方法について説明します。



(注)

デフォルトの基本料金値を使用する場合は、レポートにコストが提示されません。システムにはデフォルト値が設定されていますが、このデフォルトのままにした場合、Rating Engine はディセーブルのままになり、コストを提示しません。

### 手順

**ステップ 1** **Report Config > Rating Engine > Duration** を選択します。

Call Duration ウィンドウが表示されます。

**ステップ2** To (seconds) フィールドに、基本料金の適用対象となる秒数を入力します。たとえば、6 秒ごとに課金される場合は、6 をこのフィールドに入力します。コールの接続時間にかかわらず、1 分間ごとの単純レートで課金される場合は、60 をこのフィールドに入力して、料金が接続時間(分)全体に基づいて計算されるようにします。

**ステップ3** Base Charge/Block フィールドに、To (seconds) フィールドに指定した秒数に課される基本コストを入力します。たとえば、1 分あたり 6 セントの料金を 6 秒ごとに課される場合は、0.006 をこのフィールドに入力します。接続時間(分)全体に対して 1 分間につき 7 セントの料金を課される場合(細分課金なし)は、0.07 をこのフィールドに入力します。

上の例では、6 秒ごとに課金されていてコストが 6 秒ごとに 0.006 である場合、7 秒間のコールのコストは 0.012 になります。根拠は、6 秒ごとに 0.006 のコストがかかり、0 ~ 6 秒までのブロックが 2 個発生していることです。

同様に、接続時間(分)全体に対して課金され、コストが 1 分間につき 7 セントである場合、3 分間のコールには 21 セントかかります。根拠は、60 秒ごとに 7 セントのコストがかかり、1 分間のブロックが 3 個発生していることです。

**ステップ4** Update ボタンをクリックします。



**ヒント** デフォルト設定に戻すには、**Restore Defaults** ボタンをクリックします。コールの料金やブロックをデフォルトの 0 に戻すと、コール コストの特定に使用されるその他の係数は、実質上ディセーブルになります。

#### 追加情報

[P.4-12 の「関連トピック」](#)を参照してください。

## コール コストへの時刻の算入

コールのコストをさらに細かく定義するには、特定の時間帯に応じた乗数を指定します。たとえば、昼間のコールに対して加入者に割増料金を課す場合は、Call Duration ウィンドウで指定した 1 ブロックあたりの基本料金に対して、乗数を適用できます。

この項では、コールのコストが割増になる特定の時間帯を規定する方法について説明します。



**(注)** 時刻によるコール コストの割増がない場合は、デフォルト値を使用できます。デフォルトの乗数は 1 になっているため、時刻によるコール コストの割増は発生しません。

#### 手順

**ステップ1** Report Config > Rating Engine > Time of Day を選択します。

Time of Day ウィンドウが表示されます。

**ステップ2** 行を追加するには、Add Rows リンクをクリックします。

システムは、00:00:00 ~ 23:59:59 の行を追加します。

## ■ 定格エンジンの設定

**ステップ 3** 行をさらに追加するには、新しい行を追加する場所の下にある行のチェックボックスをオンにし、**Add Rows** リンクをクリックします。



**(注)** 行を削除するには、削除する行のチェックボックスをオンにして、**Delete Rows** リンクをクリックします。

**ステップ 4** From と To の時刻範囲に、時、分、秒を 24 時間制で入力します。デフォルトの時刻範囲は、24 時間 (00:00:00 ~ 23:59:59) です。1 つの時刻範囲 (午前 8 時 ~ 午後 5 時) を設定するには、3 つの時刻範囲 (最初の 00:00:00 ~ 07:59:59、2 番目の 08:00:00 ~ 16:59:59、3 番目の 17:00:00 以降) を規定する必要があります。



**(注)** 時刻をコール コストに算入する場合は、12 時間制ではなく軍用時間 (24 時間制) を使用する必要があります。

**ステップ 5** Multiplication Factor を入力します。この値は、指定した時刻範囲にコールが発生した場合に、1 ブロックあたりの基本料金に掛ける数値を指定するものです。たとえば、午前 8 時 ~ 午後 5 時の間に発生したコールの料金を倍にする割増料金を課す場合、乗数は 2.00 になります。乗数が 1.00 である場合は、コールのコストに影響しません。

**ステップ 6** 時刻および乗数を追加するには、**Update** ボタンをクリックします。



**ヒント** デフォルト設定に戻すには、**Restore Defaults** ボタンをクリックします。

### 追加情報

P.4-12 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## コール コストへの音声品質の算入

コールのコストをさらに細かく定義するには、コールの音声品質に応じた乗数を指定します。たとえば、最高の音声品質のコールを利用する加入者に割増料金を課す場合は、Call Duration ウィンドウで指定した 1 ブロックあたりの基本料金に対して、音声品質に応じたさまざまな乗数を適用できます。1.00 以外の乗数を使用すると、さまざまな音声品質のコールを区別する場合にも役立ちます。

この項では、特定の音声品質のコールに対して追加コストを課す場合に、コール コストを規定する方法について説明します。



**(注)** 音声品質を高めるためにコール コストを増やしたくない場合は、デフォルト値を使用できます。デフォルトの乗数は 1.00 になっているため、音声品質によるコール コストの割増は発生しません。

## 手順

**ステップ 1** Report Config > Rating Engine > Voice Quality を選択します。

Voice Quality ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Multiplication Factor フィールドに、指定した音声品質カテゴリのコールが発生した場合に 1 ブロックあたりの基本料金に掛ける数値を入力します。音声品質カテゴリ (Good、Acceptable、Fair、Poor) については、P.4-6 の「QoS 値の定義」で説明しています。

## 例

音声品質 (Good): 乗数 1.2

音声品質 (Acceptable): 乗数 1.0

音声品質 (Fair): 乗数 1.0

音声品質 (Poor): 乗数 0.8

最高品質のコールには、高品質コールや中品質コールの 1.2 倍の料金が課されます。低品質のコールには、高品質コールや中品質コールの 0.8 倍の料金が課されます。



**(注)** 最高品質コールの乗数  $\geq$  高品質コールの乗数  $\geq$  中品質コールの乗数  $\geq$  低品質コールの乗数にしてください。

**ステップ 3** 音声品質に応じた乗数を設定するには、Update ボタンをクリックします。



**ヒント** デフォルト設定に戻すには、Restore Defaults ボタンをクリックします。

## 追加情報

P.4-12 の「関連トピック」を参照してください。

## QoS 値の定義

CAR は、QoS レポートを生成します。これらのレポートで提示されるデータを格付けするために、CAR では、音声品質について設定した事前定義の値を使用します。ジッタ、遅延、および喪失パケットについて、最高、高、中、低に該当する値の範囲を指定します。コールが、この4つの音声品質カテゴリについて設定したどの基準も満たさない場合、そのコールは NA（該当なし）に分類されます。

パラメータの値を無視するには、NA と入力します。たとえば、ジッタなどの QoS パラメータを NA にして、QoS を高として定義します。これは、遅延と喪失パケットの値のみに基づいて QoS が決まることを意味します。3つのパラメータの値を、すべて NA にすることはできません。Infinity は、それぞれのパラメータの最大値を表します。ジッタの値が 500 ~ Infinity である場合は低品質と見なす、というルールを指定すると、ジッタが 500 を超えるコールは低品質として分類されます。



(注) 「NA」および「Infinity」という分類では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。

この項では、QoS の値を定義する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** Report Config > Define QoS を選択します。

Define Quality of Service ウィンドウが表示されます。表 4-1 に、QoS のデフォルト値を示します。

表 4-1 QoS のデフォルト値

QoS パラメータ	デフォルト
Lost Packets	Good : 0.00 ~ 15.00 Acceptable : 15.01 ~ 30.00 Fair : 30.01 ~ 45.00 Poor : 45.01 ~ Infinity
Jitter	Good : 0 ~ 20 Acceptable : 21 ~ 100 Fair : 101 ~ 150 Poor : 151 ~ Infinity
Latency	デフォルト値なし

**ステップ 2** 行を追加するには、新しい行を追加する場所の下にある行のチェックボックスをオンにし、Add Rows リンクをクリックします。

チェックボックスをオンにした行の上に新しい行が追加され、チェックボックスはオフになります。

これらの行は、QoS レポートで状態を最高、高、中、低に格付けするときに、CAR で使用される値を表します。設定する値ごとに、上限値と下限値を From カラムと To カラムに入力します。



(注) 行を削除するには、削除する行のチェックボックスをオンにして、Delete Rows リンクをクリックします。

**ステップ 3** 設定した値ごとに、Quality of Service を選択します。

**ステップ 4** Update ボタンをクリックします。



---

**ヒント** デフォルトの QoS 値に戻すには、**Restore Defaults** ボタンをクリックします。

---

#### 追加情報

P.4-12 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## レポートの自動生成と警告の設定

CAR は、スケジュールに基づいて自動的にレポートを生成します。レポート生成には、日次、週次、月次の要約レポート、QoS レポート、トラフィック レポート、デバイスやルート プランの使用状況レポートなど、定期的に確認する必要のあるレポートを含めることができます。



(注)

ゲートウェイ、ルートグループ、ルートリスト、およびルートパターンが多数ある大規模な構成では、すべての使用状況レポート(ゲートウェイの使用状況、回線グループの使用状況、ルートグループの使用状況、ルートリストの使用状況、およびルートパターンの使用状況)をイネーブルにすると、システムの CPU 使用率が上昇し、レポートの生成時間が長くなります。また、システムのパフォーマンスにも影響します。自動生成は、ゲートウェイの使用状況についてのみイネーブルにすることをお勧めします。これは、通常、大規模なシステムでもゲートウェイの数は少ないためです。どの使用状況レポートも、15 個以下のゲートウェイ、ルートグループ、ルートリスト、またはルートグループを選択して、すべてオンデマンドで生成することができます。レポートを自動生成するプロセスは、次の 2 つの手順で構成されます。

- まず、生成しようとするレポートがデフォルトでイネーブルになっていない場合は、イネーブルにします。P.4-8 の「[レポート自動生成のイネーブル化とカスタマイズ](#)」を参照してください。
- 次に、レポートを生成する日時をスケジュールリングします(CAR では、デフォルトのスケジュールを提供しています。デフォルトのスケジュールをそのまま使用できる場合は、自動生成するレポートをイネーブルにするだけで済みます)。P.3-8 の「[システム スケジュールの設定](#)」を参照してください。

CAR は、さまざまなイベントについて電子メール警告を提供します。システムで電子メール警告をイネーブルにするプロセスは、2 つの手順で構成されます。

- まず、電子メール警告をイネーブルにします。デフォルトでは、すべてではなく一部のレポートでイネーブルになっています。P.4-10 の「[電子メールによる警告のイネーブル化とディセーブル化](#)」を参照してください。
- 次に、警告基準を満たしたときに送信される電子メールを設定します。

### 追加情報

P.4-12 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## レポート自動生成のイネーブル化とカスタマイズ

この項では、1 つまたはすべてのレポートの自動生成をイネーブルまたはディセーブルにする方法について説明します。また、レポートパラメータをカスタマイズしてメーリング オプションを有効にすることで、レポートが作成されたときにそれらを電子メールで送信することもできます。

デフォルトでイネーブルになっているレポートについては、P.1-12 の「[自動生成レポートのスケジュール](#)」で説明しています。

### 手順

**ステップ 1** Report Config > Automatic Generation/Alert を選択します。

Automatic Report Generation/Alert Option ウィンドウが表示されます。



**ステップ2** Reports [Report Generation Interval] ボックスで、システム スケジューラで定義したスケジュールに基づいて自動生成するレポートを選択します。P.3-8 の「システム スケジューラの設定」を参照してください。

**ステップ3** Status フィールドで、Enabled または Disabled を選択します。

**ステップ4** レポートをカスタマイズする場合、および生成されたレポートを電子メールで送信する場合は、Customize Parameters ボタンをクリックします。

Customize Parameters ウィンドウが表示されます。



**(注)** 各レポートのカスタマイズオプションは、レポートのタイプに応じてそれぞれ異なります。

**ステップ5** システムに電子メールで送信するレポートのタイプに応じて、CSV オプション ボタンまたは PDF オプション ボタンを選択します。

**ステップ6** レポートがすべての CAR 管理者にメールで送信されるようにするには、Mailing Option チェックボックスをオンにします。

**ステップ7** 指定した値を保存するには、Update ボタンをクリックします。

Customize Parameters ウィンドウが閉じます。

**ステップ8** その他のレポートをイネーブルにする場合やカスタマイズする場合は、ステップ4～ステップ7を繰り返します。

**ステップ9** Update ボタンをクリックします。

変更内容は、午前0時に有効になります。CAR Scheduler サービスを一旦停止し再起動すると、変更内容をすぐに有効にすることができます。

#### 追加情報

P.4-12 の「関連トピック」を参照してください。

## 電子メールによる警告のイネーブル化とディセーブル化

この項では、警告がユーザにメールで送信されるようにする方法について説明します。



(注) QoS 通知および料金限度通知については、[P.4-11 の「通知限度の設定」](#)を参照してください。

### 手順

---

**ステップ 1** Report Config > Automatic Generation/Alert を選択します。

Automatic Report Generation/Alert ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Alerts by Mail box ボックスで、イネーブルまたはディセーブルにする警告を選択します。

**ステップ 3** Status フィールドで、Enabled または Disabled を選択します。

**ステップ 4** Update ボタンをクリックします。

**ステップ 5** 電子メールによる警告をイネーブルまたはディセーブルにするには、[ステップ 2 ~ ステップ 4](#) を繰り返します。

変更内容は、午前 0 時に有効になります。CAR Scheduler サービスを一旦停止し再起動すると、変更内容をすぐに有効にすることができます。

---

### 追加情報

[P.4-12 の「関連トピック」](#)を参照してください。

## 通知限度の設定

QoS および 1 日あたりの料金については、限度を指定できます。これらの上限値を超えた場合、管理者に電子メールで警告が送信されます。この警告は、Cisco Unified CallManager の管理ページで CAR 管理者として指定されたすべてのユーザに送信されます。P.2-4 の「[CAR 管理者、マネージャ、およびユーザの設定](#)」を参照してください。

この項では、QoS および 1 日あたりの料金に通知限度を指定する方法について説明します。

### 手順

---

**ステップ 1** Report Config > Notification Limits を選択します。

Set Limits for Notification ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Daily QoS Parameters 領域に、最高品質コールと低品質コールのしきい値を入力します。

しきい値は、すべてのコールにおける割合 (%) の形で適用されます。このしきい値を超えると、管理者に電子メール警告が送信されます。最高品質コールのデフォルトは、20 % 未満です。これは、最高品質コールが 1 日間のすべてのコールの 20 % 未満であった場合、警告が送信されることを意味します。低品質コールのデフォルトは、30 % 超過です。これは、低品質コールが 1 日間のすべてのコールの 30 % を超えた場合、警告が送信されることを意味します。

**ステップ 3** Daily Charge Limit 領域に、(ドル、フラン、ポンドなどの)通貨を単位とする数値を入力します。システム内のいずれかのユーザの料金がこの値を超えた場合は、管理者に電子メール警告が送信されます。

**ステップ 4** Update ボタンをクリックします。

変更内容は、ただちに有効になります。新しい値は、次回に警告が送信されるときに使用されます。

---

### 追加情報

P.4-12 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## 関連トピック

- システム パラメータの設定 (P.3-2)
- レポート自動生成のイネーブル化とカスタマイズ (P.4-8)
- メール サーバのパラメータの設定 (P.3-2)
- 電子メールによる警告のイネーブル化とディセーブル化 (P.4-10)
- メール サーバのパラメータの設定 (P.3-2)
- システム スケジューラの設定 (P.3-8)
- 定格エンジンの設定 (P.4-2)
- QoS 値の定義 (P.4-6)
- システム データベースの設定 (P.3-14)
- 基本レートと接続時間の設定 (P.4-2)
- コール コストへの時刻の算入 (P.4-3)
- コール コストへの音声品質の算入 (P.4-4)



## CAR ユーザ レポートの設定

CAR には次の 3 レベルのユーザに対応したレポート機能があります。

- 管理者：ロード バランシング、システム パフォーマンス、およびトラブルシューティングに役立つシステム レポートを生成します。
- マネージャ：予算編成またはセキュリティを目的とする場合や、コールの音声品質を判断する場合のコール モニタリングに役立つユーザ、部門、および QoS に関するレポートを生成します。
- ユーザ：自分のコールに関する課金情報レポートを生成します。

この章は次の内容で構成されています。

- [課金情報の設定 \(P.5-2\)](#)
- [上位 N 件の設定 \(P.5-5\)](#)
- [Cisco IP Manager Assistant \(IPMA\) 使用状況レポートの設定 \(P.5-11\)](#)
- [Cisco IP Phone サービス レポート \(P.5-14\)](#)
- [レポートのメール送信 \(P.5-15\)](#)
- [ユーザの検索 \(P.5-17\)](#)
- [関連トピック \(P.5-18\)](#)



(注)

ユーザの職責によっては、この章で説明する各レポートへのアクセス権が与えられていない場合があります。

## 課金情報の設定

個別の課金情報は、管理者の指定した日付範囲におけるコール情報を提供します。システムが自動的に生成したレポートを表示することもできれば、新しいレポートを生成することもできます。CAR 管理者だけがレポートの自動生成をスケジュールできます。管理者である場合、詳細については P.3-8 の「システム スケジューラの設定」を参照してください。

部門の課金情報は、コール情報と QoS 評価を提供します。マネージャである場合は、マネージャへのレポート対象となるすべてのユーザ、または選択した特定のユーザによって発信されたコールについて、要約レポートまたは詳細レポートを生成できます。

CAR 管理者である場合は、システム内の一部またはすべてのユーザが発信したコールについて、要約レポートまたは詳細レポートを生成できます。このレポートは、すべてのコールをシステム全体のユーザ レベルごとに追跡するのに役立ちます。

この項では、次の手順について説明します。

- [個別の課金情報の設定 \(P.5-2\)](#)
- [部門の課金情報の設定 \(P.5-3\)](#)

### 個別の課金情報の設定

この項では、ユーザ、マネージャ、および管理者に関する要約情報や詳細情報を、表示またはメールで送信する方法について説明します。

#### 手順

**ステップ 1** 次のいずれかを実行します。

- ユーザまたはマネージャである場合は、**Bills > Individual** を選択します。
- CAR 管理者である場合は、**User Reports > Bills > Individual** を選択します。

Individual Bill ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Report Type フィールドで、Summary または Detail を選択します。

要約レポートは、選択した期間のすべてのコールの要約を提供します（発信されたコールの合計数および発生した料金）。詳細レポートは、選択した期間のすべてのコールのコール タイプを提供します（Internal、Local、Long Distance、International、または On Net）。

**ステップ 3** Available Reports フィールドで、自動生成されたレポートを選択し（使用可能な場合）、[ステップ 6](#)に進みます。または、デフォルトの Generate New Report を使用して、[ステップ 4](#)に進みます。



**(注)** CAR 管理者としてログインしている場合だけ、自動生成されたレポートを選択できます。マネージャまたはユーザとしてログインしている場合は、自動生成されたレポートはドロップダウン リスト ボックスに表示されません。

CAR 管理者としてログインしている場合だけ、生成済みのレポートを選択できます。CAR 管理者以外のユーザ（マネージャ レベルのユーザと個々のユーザ）は、スクロール ダウン リストにある生成済みレポートを表示できません。

- ステップ4** コール情報を表示する期間の日付範囲を選択します。
- ステップ5** Comma Separated Value ( CSV; カンマ区切り形式 ) 形式でレポートする場合は、Report Format エリアで CSV を選択します。Portable Document Format( PDF )形式でレポートする場合は、Report Format エリアで PDF を選択します。
- ステップ6** View Report ボタンをクリックします。
- レポートが表示されます。
- ステップ7** レポートをメールで送信する場合は、Send Report ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-15 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

#### 追加情報

P.5-18 の「関連トピック」を参照してください。

## 部門の課金情報の設定



#### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混在している時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

この項では、部門の課金に関する要約情報や詳細情報を生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。手順

- ステップ1** 次のいずれかを実行します。
- マネージャである場合は、Bills > Department を選択します。
  - CAR 管理者である場合は、User Reports > Bills > Department を選択します。
- Department Bill ウィンドウが表示されます。
- ステップ2** Report Type フィールドで、Summary または Detail を選択します。
- 要約レポートは、選択した期間のすべてのコールの要約を提供します ( 発信されたコールの合計数および発生した料金 )。詳細レポートは、選択した期間のすべてのコールのコール タイプを提供します ( Internal、Local、Long Distance、International、または On Net )。
- ステップ3** Available Reports フィールドで、自動生成レポートを選択し ( 使用可能な場合 )、ステップ13 に進みます。または、デフォルトの Generate New Report を使用して、ステップ4 に進みます。



- (注) CAR 管理者としてログインしている場合だけ、自動生成されたレポートを選択できます。マネージャとしてログインしている場合は、自動生成されたレポートはドロップダウン リストボックスに表示されません。

- ステップ 4** コール情報を表示する期間の日付範囲を選択します。
- ステップ 5** マネージャである場合は、[ステップ 6](#) に進みます。CAR 管理者である場合は、[ステップ 10](#) に進みます。
- ステップ 6** すべての直接レポートを選択するには、Select All Reportees チェックボックスをオンにします。
- List of Reportees に、直接レポートが示されます。
- ステップ 7** レポート対象者を個別に選択するには、List of Reportees に示されているレポートを選択します。
- ステップ 8** Add ボタンをクリックします。
- 部門の課金情報に含まれるのは、Selected Reportees にリストされているユーザのみです。
- ステップ 9** 特定ユーザのレポート対象者を表示するには、ユーザを選択して Down ボタンをクリックします。
- 選択したユーザに対するすべてのレポート対象者が表示されます。
- ステップ 10** CAR 管理者である場合は、Select All Users チェックボックスをオンにし、すべてのユーザを含めます。マネージャである場合は、[ステップ 12](#) に進みます。
- ステップ 11** 個々のユーザを選択するには、レポートに含めるユーザのユーザ ID を User ID フィールドに入力します。Add ボタンをクリックします。
- また、提供されている検索機能を使用することもできます。検索機能の使用方法については、[P.5-17](#) の「[ユーザの検索](#)」を参照してください。
- ステップ 12** Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、Report Format エリアで CSV を選択します。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、Report Format エリアで PDF を選択します。
- ステップ 13** View Report ボタンをクリックします。
- レポートが表示されます。
- ステップ 14** レポートをメールで送信する場合は、Send Report ボタンをクリックします。レポートを送信するには、[P.5-15](#) の「[レポートのメール送信](#)」で説明されている手順に従います。

---

#### 追加情報

[P.5-18](#) の「[関連トピック](#)」を参照してください。



## 上位 N 件の設定

料金別の上位 N 件は、指定した日付範囲の間に課金が多かった上位のユーザを最高のものから順番にレポートします。マネージャである場合は、指定した期間中に、マネージャへのレポート対象となるユーザが発信したすべてのコールで課金の大きいものが、最高のものから順番にリストされます。CAR 管理者である場合、このレポートには、指定した期間中にシステム上のすべてのユーザが発信したすべてのコールで課金の大きいものが、最高のものから順番に示されます。それぞれの上位 N 件レポートに 2 ~ 3 のオプションを指定することで、上位 N 件のユーザ、送信先、コール、または内線を表示できます。

接続時間別の上位 N 件は、指定する期間中にコールの接続時間が長かった上位のユーザを最長のものから順番にレポートします。マネージャの場合、レポートには選択した日付範囲の間にコール時間が長かった、マネージャへのレポート対象者になっている上位のユーザが最長のものから順番にリストされます。CAR 管理者の場合、レポートには選択した日付範囲の間にコール時間が長かった上位のユーザが最長のものから順番にリストされます。

コール数別の上位 N 件は、指定する期間中に発着信回数が多かった上位のコールをユーザ別に最多のものから順番にレポートします。マネージャの場合、レポートには選択した日付範囲の間にコール数が多かった上位のコールがユーザ別に最多のものから順番にリストされます。CAR 管理者の場合、レポートには回数が多かった上位のコールがシステム内のユーザごとに最多のものから順番にリストされます。

この項では、次のトピックを取り上げます。

- [料金別の上位 N 件の設定 \(P.5-5\)](#)
- [接続時間別上位 N 件の設定 \(P.5-7\)](#)
- [コール数別上位 N 件の設定 \(P.5-9\)](#)

## 料金別の上位 N 件の設定

この項では、コストを基準として分類した上位 N 件のコールについて、レポートを生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。



### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混在している時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

### 手順

**ステップ 1** 次のいずれかを実行します。

- マネージャである場合は、**Top N > By Charge** を選択します。
- CAR 管理者である場合は、**User Reports > Top N > By Charge** を選択します。

Top N Charge ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Select Call Types 領域で、レポートに含めるコール タイプのチェックボックスをオンにします。これらのチェックボックスが表示されるのは、[ステップ 4](#) の説明に従って、Available Reports ドロップダウン リスト ボックスから Generate New Report を選択した場合のみです。[表 5-1](#) で、コール タイプについて説明します。

表 5-1 料金別上位 N 件のコールタイプ

コールタイプ	説明
Internal	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、同じ Cisco Unified CallManager ネットワーク内で終了する（ゲートウェイを使用しない）クラスタ内コール
Local	Public Switched Telephone Network（PSTN；公衆電話交換網）を経由して、市外局番を付けずに指定した番号や、ローカルエリアコードのいずれかを含む番号にルーティングされる市内電話
Long Distance	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される長距離電話
International	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される国際電話
On Net	Cisco Unified CallManager クラスタの 1 つで発信され、別のクラスタで終端する発信クラスタ間コール
Others	フリーダイヤル番号や 911 などの緊急呼び出しを含むその他のすべての発信コール

**ステップ 3** Report Type フィールドで、表 5-2 の説明に従ってレポートタイプを選択します。

表 5-2 料金別上位 N 件のレポートタイプ

レポートタイプ	説明
By Individual Users	このレポートには、課金の多かった上位のユーザが最高のものから順番にリストされます。
By Destinations	このレポートには、課金の多かった上位の送信先が最多のものから順番にリストされます。
By All Calls	このデフォルトレポートには、課金の多かった上位のコールが最多のものから順番にリストされます。



**(注)** 料金別上位 N 件の送信先レポートには、課金の多かった上位の送信先が最高のものから順番に示されます。同じ送信先番号へのコールでもコール分類が異なる場合は（たとえば、一部は Internal で他の一部は Incoming）、これらのレポートでは個別に処理され一覧されます。

**ステップ 4** Available Reports フィールドで、自動生成レポートを選択し（使用可能な場合）、ステップ 8 に進みます。または、デフォルトの Generate New Report を使用して、ステップ 5 に進みます。



**(注)** CAR 管理者としてログインしている場合だけ、自動生成されたレポートを選択できます。マネージャとしてログインしている場合は、自動生成されたレポートはドロップダウン リストボックスに表示されません。

**ステップ 5** レポートに表示するレコードの数を No of Records フィールドに入力します。デフォルト値は 5 です。

**ステップ 6** レポートを生成する期間の日付範囲を選択します。

**ステップ7** Report Format エリアで、CSV を選択します。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、Report Format エリアで PDF を選択します。

**ステップ8** View Report ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ9** レポートをメールで送信する場合は、Send Report ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-15 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

### 追加情報

P.5-18 の「関連トピック」を参照してください。

## 接続時間別上位 N 件の設定

この項では、接続時間を基準として分類した上位 N 件のコールに関するレポートを生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。



### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混在している時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

### 手順

**ステップ1** 次のいずれかを実行します。

- マネージャである場合は、Top N > By Duration を選択します。
- CAR 管理者である場合は、User Reports > Top N > By Duration を選択します。

Top N Duration ウィンドウが表示されます。

**ステップ2** Select Call Types 領域で、レポートに含めるコールタイプのチェックボックスをオンにします。これらのチェックボックスが表示されるのは、ステップ4の説明に従って、Available Reports ドロップダウンリストボックスから Generate New Report を選択した場合のみです。表 5-3 で、コールタイプについて説明します。

表 5-3 接続時間別上位 N 件のコールタイプ

コールタイプ	説明
Internal	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、同じ Cisco Unified CallManager ネットワーク内で終了する（ゲートウェイを使用しない）クラスタ内コール
Local	Public Switched Telephone Network (PSTN; 公衆電話交換網) を経由して、市外局番を付けずに指定した番号や、ローカルエリアコードのいずれかを含む番号にルーティングされる市内電話

表 5-3 接続時間別上位 N 件のコールタイプ (続き)

コールタイプ	説明
Long Distance	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される長距離電話
International	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される国際電話
On Net	Cisco Unified CallManager クラスターの 1 つで発信され、別のクラスターで終端する発信クラスター間コール
Incoming	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入ってきた着信コール
Tandem	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入り、さらに Cisco Unified CallManager ネットワークから発信されゲートウェイ経由で転送された発信コール
Others	フリーダイヤル番号や 911 などの緊急呼び出しを含むその他のすべての発信コール

**ステップ 3** Report Type フィールドで、表 5-4 の説明に従ってレポートタイプを選択します。

表 5-4 接続時間別上位 N 件のレポートタイプ

レポートタイプ	説明
By Individual Users	このレポートには、接続時間の長かった上位のユーザが最長のものから順番にリストされます。
By Destinations	このレポートには、接続時間の長かった上位の送信先が最長のものから順番にリストされます。
By All Calls	このレポートには、接続時間の長かった上位のコールが最長のものから順番にリストされます。



**(注)** 接続時間別上位 N 件の送信先レポートには、コールの接続時間が長かった上位の送信先が最高のもので順番に示されます。同じ送信先番号へのコールでもコール分類が異なる場合は (たとえば、一部は Internal で他の一部は Incoming) これらのレポートでは個別に処理され一覧されません。

**ステップ 4** Available Reports フィールドで、自動生成レポートを選択し (使用可能な場合) **ステップ 8** に進みます。または、デフォルトの Generate New Report を使用して、**ステップ 5** に進みます。



**(注)** CAR 管理者としてログインしている場合だけ、自動生成されたレポートを選択できます。マネージャとしてログインしている場合は、自動生成されたレポートはドロップダウン リストボックスに表示されません。

**ステップ 5** レポートに表示するレコードの数を No of Records フィールドに入力します。デフォルト値は 5 です。

**ステップ 6** レポートを生成する期間の日付範囲を選択します。

**ステップ 7** Report Format エリアで、CSV を選択します。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、Report Format エリアで PDF を選択します。

**ステップ 8** View Report ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ 9** レポートをメールで送信する場合は、Send Report ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-15 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

### 追加情報

P.5-18 の「関連トピック」を参照してください。

## コール数別上位 N 件の設定

この項では、回数を基準として分類した上位 N 件のコールについて、レポートを生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。



### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混在している時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

### 手順

**ステップ 1** 次のいずれかを実行します。

- マネージャである場合は、**Top N > By Number of Calls** を選択します。
- CAR 管理者である場合は、**User Reports > Top N > By Number of Calls** を選択します。

Top N Number of Calls ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Select Call Types 領域で、レポートに含めるコール タイプのチェックボックスをオンにします。これらのチェックボックスが表示されるのは、**ステップ 4** の説明に従って、Available Reports ドロップダウン リスト ボックスから Generate New Report を選択した場合のみです。表 5-5 で、コールタイプについて説明します。

表 5-5 コール数別上位 N 件のコールタイプ

コールタイプ	説明
Internal	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、同じ Cisco Unified CallManager ネットワーク内で終了する（ゲートウェイを使用しない）クラスタ内コール
Local	Public Switched Telephone Network (PSTN; 公衆電話交換網) を経由して、市外局番を付けずに指定した番号や、ローカルエリアコードのいずれかを含む番号にルーティングされる市内電話

表 5-5 コール数別上位 N 件のコールタイプ (続き)

コールタイプ	説明
Long Distance	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される長距離電話
International	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される国際電話
On Net	Cisco Unified CallManager クラスターの 1 つで発信され、別のクラスターで終端する発信クラスター間コール
Incoming	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入ってきた着信コール
Tandem	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入り、さらに Cisco Unified CallManager ネットワークから発信されゲートウェイ経由で転送された発信コール
Others	フリーダイヤル番号や 911 などの緊急呼び出しを含むその他のすべての発信コール

**ステップ 3** Report Type フィールドで、表 5-6 の説明に従ってレポートタイプを選択します。

表 5-6 コール数別上位 N 件のレポートタイプ

レポートタイプ	説明
By Individual Users	このレポートには、コール数の多かった上位のユーザが最多のものから順番にリストされます。
By Extensions	このレポートには、グループ (マネージャの場合) またはシステム (CAR 管理者の場合) でコールの発着信回数が多かった上位の内線が、最多のものから順番にリストされます。

**ステップ 4** Available Reports フィールドで、自動生成レポートを選択し (使用可能な場合)、ステップ 8 に進みます。または、デフォルトの Generate New Report を使用して、ステップ 5 に進みます。



(注) CAR 管理者としてログインしている場合だけ、自動生成されたレポートを選択できます。マネージャとしてログインしている場合は、自動生成されたレポートはドロップダウン リストボックスに表示されません。

**ステップ 5** レポートに表示するレコードの数を No of Records フィールドに入力します。デフォルト値は 5 です。

**ステップ 6** レポートを生成する期間の日付範囲を選択します。

**ステップ 7** Report Format エリアで、CSV を選択します。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、Report Format エリアで PDF を選択します。



**ステップ 8** View Report ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ 9** レポートをメールで送信する場合は、Send Report ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-15 の「[レポートのメール送信](#)」で説明されている手順に従います。

---

#### 追加情報

P.5-18 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## Cisco IP Manager Assistant (IPMA) 使用状況レポートの設定

Cisco Unified CallManager Assistant は、マネージャとアシスタントの両方に関するコール完了使用状況レポートを提供します。CAR 管理者だけが IPMA レポートを生成できます。Cisco IPMA メニューを使用すると、姓や名的一部分または全体を基準とした簡単な検索機能を使用して、マネージャまたはアシスタントのすべてまたは一部を選択できます。これらのレポートは、PDF 形式または CSV 形式でオンデマンドで生成し、電子メールで送信することができます。また、時刻範囲を選択して、詳細レベルまたは要約レベルのレポートを生成することもできます。

マネージャ レポートに含まれている可能性があるのは、マネージャが自分で処理したコールのみ、アシスタントがマネージャの代理で処理したコールのみ、またはこれらの両方の条件を満たすコールです。マネージャの要約レポートには、各タイプのコール数およびコールの合計数が、アシスタント（およびマネージャ）ごとの接続時間とともに示されます。マネージャの詳細レポートには、日付、発信時刻、発信元番号、送信先番号、コールの分類、および接続時間がコールごとにすべてのアシスタント（およびマネージャ）について示され、マネージャの最終的な接続時間合計が示されます。

アシスタント レポートに含まれている可能性があるのは、アシスタントが自分で処理したコールのみ、アシスタントがマネージャの代理で処理したコールのみ、またはこれらの両方の条件を満たすコールです。アシスタントの要約レポートには、各タイプのコール数およびコールの合計数が、マネージャ（およびアシスタント）ごとの接続時間とともに示されます。アシスタントの詳細レポートには、日付、発信時刻、発信元番号、送信先番号、コールの分類、および接続時間がコールごとにすべてのマネージャ（およびアシスタント）について示され、アシスタントの最終的な接続時間合計が示されます。

#### 追加情報

P.5-18 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## Cisco IPMA マネージャのコール使用状況の設定

この項では、Cisco IPMA マネージャのコール使用状況レポートを生成する方法について説明します。CAR 管理者だけが IPMA レポートを生成できます。



### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混在している時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

### 手順

**ステップ 1** User Reports > Cisco IPMA > Manager Call Usage を選択します。

Call Usage for Cisco IPMA Manager ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Report Type ドロップダウン リストから、Summary または Detail のどちらかを選択します。

**ステップ 3** Calls handled by ドロップダウン リスト ボックスから、Manager、Assistant for Manager、または Manager & Assistant for Manager を選択します。

**ステップ 4** コール情報を表示する期間の日付範囲を選択します。

**ステップ 5** Select Manager(s) ボックスで、Select All Manager(s) チェックボックスをオンにし、マネージャの ID を入力します。または、Select Manager(s) リンクをクリックしてマネージャの ID を検索し、ID を Manager Id フィールドに入力します。

**ステップ 6** Add をクリックします。

選択した ID が Selected Manager(s) ボックスに表示されます。

**ステップ 7** Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、Report Format エリアで CSV を選択します。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、Report Format エリアで PDF を選択します。View Report ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ 8** レポートをメールで送信する場合は、Send Report ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-15 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。



### (注)

マネージャを Selected Manager(s) リストから削除するには、ID を選択して Remove をクリックします。リストからすべてのマネージャを削除するには、Remove All をクリックします。

### 追加情報

P.5-18 の「関連トピック」を参照してください。



## Cisco IPMA アシスタントのコール使用状況の設定

この項では、アシスタントのコール使用状況レポートを生成する方法について説明します。CAR 管理者だけが IPMA レポートを生成できます。



### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混在している時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

### 手順

**ステップ 1** User Reports > Cisco IPMA > Assistant Call Usage を選択します。

Call Usage for Cisco IPMA Assistant ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Report Type ドロップダウン リストから、Summary または Detail のどちらかを選択します。

**ステップ 3** Calls handled by ドロップダウン リスト ボックスから、Assistant、Assistant for Manager、または Assistant & Assistant for Manager を選択します。

**ステップ 4** コール情報を表示する期間の日付範囲を選択します。

**ステップ 5** Select Assistant(s) ボックスで、Select All Assistant(s) チェックボックスをオンにし、アシスタントの ID を入力します。または、Select Assistant(s) リンクをクリックしてアシスタントの ID を検索し、ID を Assistant Id フィールドに入力します。

**ステップ 6** Add をクリックします。

選択した ID が Selected Assistant(s) ボックスに表示されます。

**ステップ 7** Comma Separated Value ( CSV; カンマ区切り形式 ) 形式でレポートする場合は、Report Format エリアで CSV を選択します。Portable Document Format( PDF )形式でレポートする場合は、Report Format エリアで PDF を選択します。

**ステップ 8** View Report ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ 9** レポートをメールで送信する場合は、Send Report ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-15 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。



**(注)** アシスタントを Selected Assistant(s) リストから削除するには、ID を選択して **Remove** をクリックします。リストからすべてのアシスタントを削除するには、**Remove All** をクリックします。

### 追加情報

P.5-18 の「関連トピック」を参照してください。

## Cisco IP Phone サービス レポート

CAR 管理者だけが Cisco IP Phone サービス レポートを生成できます。選択した Cisco IP Phone サービス、選択した各サービスに登録されているユーザの数、および選択した各サービスの使用率を示すレポートを生成できます。

特定の Cisco IP Phone サービスの使用状況を示すレポートを生成するには、次の手順に従います。



### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混在している時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

### 手順

**ステップ 1** User Reports > Cisco IP Phone Services を選択します。

Cisco IP Phone Services ウィンドウに、システム内に設定されているすべての Cisco IP Phone サービスのリストが表示されます。

**ステップ 2** List of Cisco IP Phone Services 領域で、レポートに含めるサービスを選択します。

**ステップ 3** 右矢印アイコンをクリックして、選択したサービスを Selected Cisco IP Phone Services ボックスに追加します。

このボックスにリストされているすべてのサービスが、生成するレポートに含まれます。

**ステップ 4** Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、Report Format エリアで CSV を選択します。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、Report Format エリアで PDF を選択します。View Report ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ 5** レポートをメールで送信する場合は、Send Report ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-15 の「[レポートのメール送信](#)」で説明されている手順に従います。

### 追加情報

[P.5-18 の「関連トピック」](#)を参照してください。

## レポートのメール送信

CAR では、すべてのレポートを電子メールで送信することができます。CAR の任意のレポート ウィンドウから、レポートをメールで送信できます。また、まずレポートを表示してから、その後で送信することもできます。

### 始める前に

レポートを電子メールで送信するには、まず、有効な Mail Parameters を設定します。Mail Parameters を使用すると、システム内の電子メール サーバを使用して、CAR で電子メールを送信できるようになります。詳細については、P.3-2 の「[メールサーバのパラメータの設定](#)」を参照してください。また、生成するレポートの詳細も設定します。次の各項を参照してください。

- [課金情報の設定 \(P.5-2\)](#)
- [上位 N 件の設定 \(P.5-5\)](#)
- [Cisco IP Phone サービス レポート \(P.5-14\)](#)
- [Cisco IP Manager Assistant \(IPMA\) 使用状況レポートの設定 \(P.5-11\)](#)
- [CAR システム レポートの設定 \(P.6-1\)](#)
- [CAR デバイス レポートの設定 \(P.7-1\)](#)
- [CDR 検索の設定 \(P.8-1\)](#)

この項では、CAR レポートをメールで送信する方法について説明します。

### 手順

---

**ステップ 1** 任意の CAR レポート ウィンドウで、またはレポートを表示した後に、**Send Report** ボタンをクリックします。

Mail To ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** レポートの送信先となるユーザの電子メール ID を入力します。

**ステップ 3** To ボタンをクリックすると、ユーザを検索できます。

User Search ウィンドウが表示されます。

**ステップ 4** First Name フィールドと Last Name フィールドにユーザの姓や名を入力し、**Search** ボタンをクリックします。

同じページに User Search Results ウィンドウが表示され、入力した検索基準に一致するすべてのユーザがリストされます。

**ステップ 5** レポートの送信先にするユーザの行で、**Select** リンクをクリックします。

選択したユーザが、Mail To ウィンドウの To フィールドに追加されます。このレポートのコピーの送信先にするユーザのリストに、ユーザをさらに追加するには、この手順を繰り返します。

**ステップ 6** ユーザをすべて追加したら、User Search ウィンドウの **Close** ボタンをクリックします。

Search Users ウィンドウにリストされているユーザが、Mail To ウィンドウの To フィールドにコピーされます。

## ■ レポートのメール送信

- ステップ7** ユーザを Cc フィールドに追加するには、Cc ボタンをクリックし、[ステップ4](#) ~ [ステップ6](#) で説明した手順に従います。
- ステップ8** Subject フィールドに、メッセージの題名を入力します (オプション)。
- ステップ9** Message 領域に、メッセージを入力します (オプション)。
- ステップ10** レポートを送信するには、Send ボタンをクリックします。
- 

**追加情報**

[P.5-18](#) の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## ユーザの検索

CAR の多くのレポートでは、ユーザを検索できるように検索機能を提供しています。検索をサポートしている CAR レポートは、次のとおりです。

- ユーザレポート：部門の課金情報、個別の課金情報、料金別上位 N 件、接続時間別上位 N 件、コール数別上位 N 件、Cisco IPMA、および Cisco IP Phone サービス
- システムレポート：QoS 詳細、内線別のトラフィック要約
- 生成可能なレポートは、すべて Send Report ボタンでメール送信することができます。

### 始める前に

P.5-17 の「[ユーザの検索](#)」に示したいずれかのウィンドウを使用している必要があります。

この項では、ユーザを検索する方法について説明します。

### 手順

---

**ステップ 1** Search Users リンクをクリックします。

User Search ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** First Name フィールドと Last Name フィールドにユーザの姓や名を入力し、Search ボタンをクリックします。

同じウィンドウに User Search Results ウィンドウが表示され、入力した検索基準に一致するすべてのユーザがリストされます。

**ステップ 3** 必要なユーザの行で、Select リンクをクリックします。

選択したユーザが、User Search ウィンドウの List of Users に追加されます。ユーザをさらに追加するには、この手順を繰り返します。

**ステップ 4** ユーザをすべて追加したら、User Search ウィンドウの Close ボタンをクリックします。

---

### 追加情報

P.5-18 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## 関連トピック

- [CAR ユーザレポートの設定 \(P.5-1\)](#)
- [CAR システム レポートの設定 \(P.6-1\)](#)
- [CAR システムの設定 \(P.3-1\)](#)
- [CAR デバイス レポートの設定 \(P.7-1\)](#)
- [CDR 検索の設定 \(P.8-1\)](#)
- [Cisco IP Phone サービス レポートの結果 \(P.10-8\)](#)
- [Cisco IP Manager Assistant \(IPMA\) 使用状況レポートの設定 \(P.5-11\)](#)
- [Cisco IPMA マネージャのコール使用状況の設定 \(P.5-12\)](#)
- [Cisco IPMA アシスタントのコール使用状況の設定 \(P.5-13\)](#)
- [コール数別上位 N 件レポートの結果 \(P.10-5\)](#)
- [料金別の上位 N 件の設定 \(P.5-5\)](#)
- [接続時間別上位 N 件の設定 \(P.5-7\)](#)
- [料金別または接続時間別上位 N 件レポートの結果 \(P.10-4\)](#)
- [コール数別上位 N 件の設定 \(P.5-9\)](#)
- [課金情報の要約レポートの結果 \(P.10-2\)](#)
- [課金情報の詳細レポートの結果 \(P.10-3\)](#)
- [個別の課金情報の設定 \(P.5-2\)](#)



# CAR システム レポートの設定

CAR には次の 3 レベルのユーザに対応したレポート機能があります。

- 管理者：ロード バランシング、システム パフォーマンス、およびトラブルシューティングに役立つシステム レポートを生成します。
- マネージャ：予算編成またはセキュリティを目的とする場合や、コールの音声品質を判断する場合のコール モニタリングに役立つユーザ、部門、および QoS に関するレポートを生成します。
- ユーザ：自分のコールに関する課金情報レポートを生成します。

この章は次の内容で構成されています。

- [QoS レポートの設定 \(P.6-2\)](#)
- [QoS パラメータの設定 \(P.6-6\)](#)
- [トラフィック レポートの設定 \(P.6-10\)](#)
- [迷惑呼詳細レポートの設定 \(P.6-15\)](#)
- [優先コール要約の設定 \(P.6-16\)](#)
- [システム概要の設定 \(P.6-22\)](#)
- [CDR エラーの設定 \(P.6-23\)](#)
- [QoS パラメータの演算子 \(P.6-24\)](#)
- [関連トピック \(P.6-24\)](#)



(注)

ユーザの職責によっては、この章で説明する各レポートへのアクセス権が与えられていない場合があります。

## QoS レポートの設定

CAR 管理者だけが QoS 詳細レポートを生成します。このレポートは、指定した期間中に Cisco Unified CallManager ネットワークで発着信されたコールについて、QoS 評価を詳細に示します。

QoS 要約レポートは、マネージャまたは CAR 管理者が生成します。このレポートは、指定したコール分類および期間に関して、QoS グレードの分布を表す 2 次元の円グラフを提供します。また、コールを QoS ごとに要約した表も提供します。CDR と CMR に含まれているコール詳細、および P.4-6 の「QoS 値の定義」で指定した QoS パラメータが、コールに特定の音声品質カテゴリを割り当てるときの基準になります。

システムが自動的に生成したレポートを表示することもできれば、新しいレポートを生成することもできます。CAR 管理者だけがレポートの自動生成をスケジュールできます。詳細については、P.3-8 の「システム スケジューラの設定」を参照してください。

次の各項では、QoS 詳細レポートと要約レポートを設定する方法について説明します。

- [QoS 詳細レポートの設定 \(P.6-2\)](#)
- [QoS 要約レポートの設定 \(P.6-4\)](#)

## QoS 詳細レポートの設定



### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混在している時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

この項では、システムの QoS に関する詳細情報を生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** System Reports > QoS > Detail を選択します。

QoS Detail ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Select Call Types 領域で、レポートに含めるコール タイプのチェックボックスをオンにします。表 6-1 で、コール タイプについて説明します。

表 6-1 QoS 詳細レポートのコール タイプ

コール タイプ	説明
Internal	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、同じ Cisco Unified CallManager ネットワーク内で終了する（ゲートウェイを使用しない）クラスタ内コール
Local	Public Switched Telephone Network（PSTN; 公衆電話交換網）を経由して、市外局番を付けずに指定した番号や、ローカル エリア コードのいずれかを含む番号にルーティングされる市内電話
Long Distance	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送られる長距離電話



表 6-1 QoS 詳細レポートのコール タイプ (続き)

コール タイプ	説明
International	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送られる国際電話
On Net	Cisco Unified CallManager クラスタの 1 つで発信され、別のクラスタで終端する発信クラスタ間コール
Incoming	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入ってきた着信コール
Tandem	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入り、さらに Cisco Unified CallManager ネットワークから発信されゲートウェイ経由で転送された発信コール
Others	フリーダイヤル番号や 911 などの緊急呼び出しを含むその他のすべての発信コール

- ステップ 3** Select QoS 領域で、レポートに含める音声品質カテゴリのチェックボックスをオンにします。  
P.4-6 の「QoS 値の定義」で設定するパラメータが、すべての音声品質カテゴリの基準になります。

表 6-2 QoS 詳細レポートの音声品質

音声品質	説明
Good	これらのコールの QoS は、可能な範囲で最高の品質を示します。
Acceptable	これらのコールの QoS は、多少低下しているが、まだ許容範囲内に含まれます。
Fair	これらのコールの QoS は、低下しているが、まだ使用可能範囲内に含まれます。
Poor	これらのコールの QoS は、十分な品質とは言えません。
NA	これらのコールは、既定の QoS カテゴリのどの基準にも一致しません。

- ステップ 4** QoS 情報を表示する期間の日付範囲を選択します。

- ステップ 5** Select Users フィールドで、すべてのユーザを選択するか、特定のユーザを検索します。すべてのユーザを選択するには、Select All Users チェックボックスをオンにします。個々のユーザを選択するには、ユーザ ID を User Id フィールドに入力し、Add ボタンをクリックします。



- (注)** また、提供されている検索機能を使用することもできます。P.5-17 の「ユーザの検索」を参照してください。

- ステップ 6** Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、Report Format エリアで CSV を選択します。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、Report Format エリアで PDF を選択します。

- ステップ 7** View Report ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ 8** レポートをメールで送信する場合は、**Send Report** ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-15 の「**レポートのメール送信**」で説明されている手順に従います。

#### 追加情報

P.6-24 の「**関連トピック**」を参照してください。

## QoS 要約レポートの設定



#### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混在している時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

この項では、システムの QoS に関する要約情報を生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

#### 手順

**ステップ 1** 次の手順のいずれかを実行します。

- マネージャである場合は、**QoS > Summary** を選択します。
- CAR 管理者である場合は、**System Reports > QoS > Summary** を選択します。

QoS Summary ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Available Reports フィールドで、自動生成レポートを選択し（使用可能な場合）、**ステップ 6** に進みます。または、デフォルトの Generate New Report を使用して、**ステップ 3** に進みます。



**(注)** CAR 管理者としてログインしている場合だけ、自動生成されたレポートを選択できます。マネージャとしてログインしている場合は、自動生成されたレポートはドロップダウン リストボックスに表示されません。

**ステップ 3** Select Call Types 領域で、レポートに含めるコール タイプのチェックボックスをオンにします。表 6-3 で、コール タイプについて説明します。

表 6-3 QoS 要約レポートのコール タイプ

コール タイプ	説明
Internal	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、同じ Cisco Unified CallManager ネットワーク内で終了する（ゲートウェイを使用しない）クラスタ内コール
Local	Public Switched Telephone Network（PSTN; 公衆電話交換網）を経由して、市外局番を付けずに指定した番号や、ローカル エリア コードのいずれかを含む番号にルーティングされる市内電話

表 6-3 QoS 要約レポートのコール タイプ (続き)

コール タイプ	説明
Long Distance	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される長距離電話
International	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される国際電話
On Net	Cisco Unified CallManager クラスターの 1 つで発信され、別のクラスターで終端する発信クラスター間コール
Incoming	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入ってきた着信コール
Tandem	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入り、さらに Cisco Unified CallManager ネットワークから発信されゲートウェイ経由で転送された発信コール
Others	フリーダイヤル番号や 911 などの緊急呼び出しを含むその他のすべての発信コール

**ステップ 4** [ステップ 2](#) で Generate New Report を選択した場合は、レポートを生成する期間の日付範囲を入力します。

**ステップ 5** Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、Report Format エリアで CSV を選択します。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、Report Format エリアで PDF を選択します。

**ステップ 6** View Report ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ 7** レポートをメールで送信する場合は、Send Report ボタンをクリックします。レポートを送信するには、[P.5-15](#) の「[レポートのメール送信](#)」で説明されている手順に従います。

#### 追加情報

[P.6-24](#) の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## QoS パラメータの設定

CAR 管理者だけがゲートウェイ別 QoS レポートを生成します。このレポートは、選択したゲートウェイにおいて、指定した期間に、選択した QoS 基準を満たしたコールの割合 (%) を示します。

CAR 管理者だけがコールタイプ別 QoS レポートを生成します。このレポートは、選択したタイプのすべてのコールについて、指定した期間中のジッタ、遅延、および喪失パケットの情報を提供します。

次の各項では、ゲートウェイ別およびコールタイプ別の QoS パラメータを設定する方法について説明します。

- [ゲートウェイ別 QoS の設定 \(P.6-6\)](#)
- [コールタイプ別 QoS の設定 \(P.6-8\)](#)

## ゲートウェイ別 QoS の設定



### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混在している時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

この項では、選択したすべてのゲートウェイについて、QoS 情報を生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

### 始める前に

[P.3-5 の「ゲートウェイの設定」](#)の手順に従って、ゲートウェイを設定します。

### 手順

**ステップ 1** System Reports > QoS > By Gateways を選択します。

QoS based on Gateways ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Generate Reports フィールドで、[表 6-4](#)の説明に従って期間を選択します。

表 6-4 Generate Report フィールド

パラメータ	説明
Hour of Day	<a href="#">ステップ 6</a> で指定した期間に QoS 基準を満たしたコールの割合 (%) を選択したゲートウェイごとに表示します。時間ごとの割合 (%) を示しています。
Day of Week	<a href="#">ステップ 6</a> で指定した期間に QoS 基準を満たしたコールの割合 (%) を選択したゲートウェイごとに表示します。曜日ごとの割合 (%) を示しています。
Day of Month	<a href="#">ステップ 6</a> で指定した期間に QoS 基準を満たしたコールの割合 (%) を選択したゲートウェイごとに表示します。該当月の日ごとの割合 (%) を示しています。

- ステップ3** Jitter フィールドで、使用する演算子を選択し、ジッタの値を入力します。演算子の説明については、P.6-24の「QoS パラメータの演算子」を参照してください。
- ステップ4** Latency フィールドで、使用する演算子を選択し、遅延の値を入力します。演算子の説明については、P.6-24の「QoS パラメータの演算子」を参照してください。
- ステップ5** Lost Packets フィールドで、使用する演算子を選択し、喪失パケット数の値を入力します。演算子の説明については、P.6-24の「QoS パラメータの演算子」を参照してください。
- ステップ6** コール情報を表示する期間の日付範囲を選択します。
- ステップ7** レポートに含めるゲートウェイのタイプを選択するには、次のいずれかの作業を行います。

- システム内に設定されているすべてのゲートウェイを表示するには、ウィンドウの左側のコラムで Gateway Types をクリックします。
- ツリー構造を展開し、選択可能なゲートウェイのタイプを表示するには、Gateway Types の隣にあるアイコンをクリックします。
- ゲートウェイ タイプではなく、特定のルート パターン / ハント パイロットを使用するゲートウェイを選択するには、ウィンドウの左側のコラムで Route Patterns/Hunt Pilots をクリックします。ツリー構造が展開され、設定済みのルート パターン / ハント パイロットに関連付けられているゲートウェイが表示されます。
- ツリー構造を展開し、選択可能なルート パターン / ハント パイロットを表示するには、Route Patterns/Hunt Pilots の隣にあるアイコンをクリックします。



**(注)** ウィンドウの左側のコラムで Route Patterns/Hunt Pilots ボックスにルート パターン / ハント パイロットの名前の一部を入力して、特定のルート パターン / ハント パイロットを検索することもできます。CAR が、検索文字列に一致するルート パターン / ハント パイロットを検索します。

- ステップ8** リストから、ゲートウェイ タイプを選択します。

ゲートウェイ名が List of Gateways ボックスに表示されます。



**(注)** List of Gateways ボックスには、選択したゲートウェイ タイプに設定されたゲートウェイを最大 200 まで表示できます。

- ステップ9** List of Gateways ボックスで、レポートに含めるゲートウェイを選択します。



**(注)** 1 度に最大 15 のゲートウェイに関するレポートを生成できます。

- ステップ10** 下矢印アイコンをクリックして、選択したゲートウェイを Selected Gateways リスト ボックスに移動します。

選択したゲートウェイが、Selected Gateways ボックスに表示されます。

**ステップ 11** Comma Separated Value ( CSV; カンマ区切り形式 ) 形式でレポートする場合は、Report Format エリアで CSV を選択します。Portable Document Format( PDF )形式でレポートする場合は、Report Format エリアで PDF を選択します。

**ステップ 12** View Report ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ 13** レポートをメールで送信する場合は、Send Report ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-15 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

#### 追加情報

P.6-24 の「関連トピック」を参照してください。

## コールタイプ別 QoS の設定

この項では、特定のタイプのすべてのコールについて、QoS 情報を生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。



#### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混在している時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

#### 手順

**ステップ 1** System Reports > QoS > By Call Types を選択します。

QoS based on Call Types ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Generate Reports フィールドで、表 6-5 の説明に従って期間を選択します。

表 6-5 Generate Report フィールド

パラメータ	説明
Hour of Day	ステップ 7 で指定した期間に QoS 基準を満たしたコールの割合 (%) をコールタイプごとに表示します。時間ごとの割合 (%) を示しています。
Day of Week	ステップ 7 で指定した期間に QoS 基準を満たしたコールの割合 (%) をコールタイプごとに表示します。曜日ごとの割合 (%) を示しています。
Day of Month	ステップ 7 で指定した期間に QoS 基準を満たしたコールの割合 (%) をコールタイプごとに表示します。該当月の日ごとの割合 (%) を示しています。

**ステップ 3** Jitter フィールドで、使用する演算子を選択し、ジッタの値を入力します。演算子の説明については、P.6-24 の「QoS パラメータの演算子」を参照してください。

**ステップ 4** Latency フィールドで、使用する演算子を選択し、遅延の値を入力します。演算子の説明については、P.6-24 の「QoS パラメータの演算子」を参照してください。

- ステップ 5** Lost Packets フィールドで、使用する演算子を選択し、喪失パケット数の値を入力します。演算子の説明については、P.6-24 の「QoS パラメータの演算子」を参照してください。
- ステップ 6** Select Call Types 領域で、レポートに含めるコール タイプのチェックボックスをオンにします。表 6-6 で、コール タイプについて説明します。

表 6-6 コール タイプ別 QoS パラメータ

コール タイプ	説明
Internal	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、同じ Cisco Unified CallManager ネットワーク内で終了する（ゲートウェイを使用しない）クラスタ内コール
Local	Public Switched Telephone Network（PSTN; 公衆電話交換網）を経由して、市外局番を付けずに指定した番号や、ローカル エリア コードのいずれかを含む番号にルーティングされる市内電話
Long Distance	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される長距離電話
International	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される国際電話
On Net	Cisco Unified CallManager クラスタの 1 つで発信され、別のクラスタで終端する発信クラスタ間コール
Incoming	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入ってきた着信コール
Tandem	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入り、さらに Cisco Unified CallManager ネットワークから発信されゲートウェイ経由で転送された発信コール
Others	フリーダイヤル番号や 911 などの緊急呼び出しを含むその他のすべての発信コール

- ステップ 7** コール情報を表示する期間の日付範囲を選択します。
- ステップ 8** Comma Separated Value（CSV; カンマ区切り形式）形式でレポートする場合は、Report Format エリアで CSV を選択します。Portable Document Format（PDF）形式でレポートする場合は、Report Format エリアで PDF を選択します。
- ステップ 9** View Report ボタンをクリックします。
- レポートが表示されます。
- ステップ 10** レポートをメールで送信する場合は、Send Report ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-15 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

### 追加情報

P.6-24 の「関連トピック」を参照してください。



## トラフィックレポートの設定

CAR 管理者だけがトラフィック要約レポートを生成できます。レポートは、指定した期間のコール量に関する情報を提供します。選択したコールタイプと QoS 音声品質カテゴリだけが含まれます。



### ヒント

このレポートは、発生しているコールの数を時間または日単位で特定するために使用します。このレポートは、容量計画において高トラフィックパターンと低トラフィックパターンを識別するために役立ちます。

CAR 管理者だけが内線別トラフィック要約レポートを生成できます。レポートは、指定した期間および内線のセットのコール量に関する情報を提供します。選択したコールタイプと内線だけが含まれます。



### ヒント

このレポートを使用すると、部門やその他の基準、たとえばロビーの電話機や会議室の電話機などを基準として、特定のユーザグループによるコール使用状況を追跡できます。このレポートは、毎週1回生成するように設定できます。このレポートは、指定したユーザの使用率レベルを集計することで、使用率の高いユーザまたはグループを判別するために役立ちます。

次の各項では、トラフィック要約レポートと内線別トラフィック要約レポートを設定する方法について説明します。

- [トラフィック要約の設定 \(P.6-10\)](#)
- [内線別のトラフィック要約の設定 \(P.6-12\)](#)

## トラフィック要約の設定

CAR 管理者だけがトラフィック要約レポートを生成します。レポートは、指定した期間のコール量に関する情報を提供します。

システムが自動的に生成したレポートを表示することもできれば、新しいレポートを生成することもできます。詳細については、[P.3-8 の「システムスケジューラの設定」](#)を参照してください。



### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混在している時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

この項では、システムのトラフィックに関する要約情報を生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** System Reports > Traffic > Summary を選択します。

Traffic Summary ウィンドウが表示されます。



**ステップ 2** Generate Report フィールドで、表 6-7 の説明に従って期間を選択します。

表 6-7 Generate Report フィールド

パラメータ	説明
Hour of Day	ステップ 4 で指定する期間、ステップ 5 で指定するコール タイプ、ステップ 6 で指定する QoS 値に基づいて、特定の時間帯におけるシステムの平均コール数を表示します。
Day of Week	ステップ 4 で指定する期間、ステップ 5 で指定するコール タイプ、ステップ 6 で指定する QoS 値に基づいて、特定の曜日におけるシステムの平均コール数を表示します。
Day of Month	ステップ 4 で指定する期間、ステップ 5 で指定するコール タイプ、ステップ 6 で指定する QoS 値に基づいて、特定の日付におけるシステムの平均コール数を表示します。

**ステップ 3** Available Reports フィールドで、自動生成レポートを選択し（使用可能な場合）、ステップ 8 に進みます。または、デフォルトの Generate New Report を使用して、ステップ 4 に進みます。

**ステップ 4** レポートを生成する期間の日付範囲を選択します。

**ステップ 5** Select Call Types 領域で、レポートに含めるコール タイプのチェックボックスをオンにします。表 6-8 で、コール タイプについて説明します。

表 6-8 トラフィック要約のコール タイプ

コール タイプ	説明
Internal	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、同じ Cisco Unified CallManager ネットワーク内で終了する（ゲートウェイを使用しない）クラスタ内コール
Local	Public Switched Telephone Network（PSTN; 公衆電話交換網）を経由して、市外局番を付けずに指定した番号や、ローカル エリア コードのいずれかを含む番号にルーティングされる市内電話
Long Distance	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される長距離電話
International	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される国際電話
On Net	Cisco Unified CallManager クラスタの 1 つで発信され、別のクラスタで終端する発信クラスタ間コール
Incoming	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入ってきた着信コール
Others	フリーダイヤル番号や 911 などの緊急呼び出しを含むその他のすべての発信コール



(注) グラフや表が示しているコールは、1日あたりの平均コール数で構成されています。生成されるデータが比較的小さく、選択した日付範囲が広い場合は、レポートに非常に小さな値が示され、その値は0として扱われるため、グラフが表示されません。たとえば、曜日 (Day of Week) レポートはある月曜日から次の月曜日までの8日間を対象にして生成され、月曜日について示されるデータは両方の月曜日の平均コール数を表わしています (各月曜日の全コール数の合計を2で割った値)。同様に時間帯 (Hour of Day) レポートで 05-06 に表示されるデータは、そのレポートの対象として選択した日付範囲の 05 時から 06 時までの間の1日あたりの平均コール数を示しています。

**ステップ6** Select QoS 領域で、レポートに含める音声品質カテゴリのチェックボックスをオンにします。P.4-6 の「QoS 値の定義」で設定するパラメータが、すべての音声品質カテゴリの基準になります。

表 6-9 QoS 詳細レポートの音声品質

音声品質	説明
Good	これらのコールの QoS は、可能な範囲で最高の品質を示します。
Acceptable	これらのコールの QoS は、多少低下しているが、まだ許容範囲内に含まれます。
Fair	これらのコールの QoS は、低下しているが、まだ使用可能範囲内に含まれます。
Poor	音声品質が低である場合は、これらのコールの QoS が十分とは言えないことを示します。
NA	これらのコールは、既定の QoS カテゴリのどの基準にも一致しません。

**ステップ7** Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、Report Format エリアで CSV を選択します。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、Report Format エリアで PDF を選択します。

**ステップ8** View Report ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ9** レポートをメールで送信する場合は、Send Report ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-15 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

#### 追加情報

P.6-24 の「関連トピック」を参照してください。

## 内線別のトラフィック要約の設定

CAR 管理者だけが内線別のトラフィック要約レポートを生成します。レポートは、指定した期間および内線のセットのコール量に関する情報を提供します。

この項では、ユーザの内線に基づいてトラフィック要約レポートを生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

**注意**

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混在している時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。




**手順**

**ステップ 1** System Reports > Traffic > Summary By Extension を選択します。

Traffic Summary based on Extension(s) ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Generate Report フィールドで、表 6-10 の説明に従って期間を選択します。

**表 6-10 Generate Report フィールド**

パラメータ	説明
Hour of Day	<p>選択した日付範囲の特定の時間帯における選択した内線番号のシステム内での平均コール数を表示します。</p> <p> (注) 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。</p>
Day of Week	<p>選択した日付範囲の特定の曜日における選択した内線番号のシステム内での平均コール数を表示します。</p> <p> (注) 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。</p>
Day of Month	<p>選択した日付範囲の特定の日付における選択した内線番号のシステム内での平均コール数を表示します。</p> <p> (注) 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。</p>

**ステップ 3** Select Call Types 領域で、レポートに含めるコール タイプのチェックボックスをオンにします。表 6-11 で、コール タイプについて説明します。

**表 6-11 内線別のトラフィック要約のコール タイプ**

コール タイプ	説明
Internal	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、同じ Cisco Unified CallManager ネットワーク内で終了する (ゲートウェイを使用しない) クラスタ内コール
Local	Public Switched Telephone Network (PSTN; 公衆電話交換網) を経由して、市外局番を付けずに指定した番号や、ローカル エリア コードのいずれかを含む番号にルーティングされる市内電話
Long Distance	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送られる長距離電話
International	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送られる国際電話

表 6-11 内線別のトラフィック要約のコールタイプ (続き)

コールタイプ	説明
On Net	Cisco Unified CallManager クラスタの 1 つで発信され、別のクラスタで終端する発信クラスタ間コール
Incoming	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入ってきた着信コール
Others	フリーダイヤル番号や 911 などの緊急呼び出しを含むその他のすべての発信コール



(注) グラフや表が示しているコールは、1日あたりの平均コール数で構成されています。生成されるデータが比較的小さく、選択した日付範囲が広い場合は、レポートに非常に小さな値が示され、その値は0として扱われるため、グラフが表示されません。たとえば、曜日 (Day of Week) レポートはある月曜日から次の月曜日までの8日間を対象にして生成され、月曜日について示されるデータは両方の月曜日の平均コール数を表わしています (各月曜日の全コール数の合計を2で割った値)。同様に時間帯 (Hour of Day) レポートで 05-06 に表示されるデータは、そのレポートの対象として選択した日付範囲の 05 時から 06 時までの間の1日あたりの平均コール数を示しています。

**ステップ 4** Select Extension(s) グループ ボックスで、すべての内線を選択するか、ユーザを基準として内線番号を検索します。



(注) 「!」や「X」などのワイルドカードパターンを入力して内線を検索できます。「!」は、各桁が0～9で構成されるn桁の数字を表し、「X」は0～9の範囲の1桁の数字を表します。

すべての内線を選択するには、Select All Extensions チェックボックスをオンにします。ユーザを基準として内線を選択するには、ユーザの内線番号を Extension フィールドに入力し、Add Extension ボタンをクリックします。また、P.5-17の「ユーザの検索」の説明に従って、提供されている検索機能を使用することもできます。

**ステップ 5** Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、Report Format エリアで CSV を選択します。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、Report Format エリアで PDF を選択します。

**ステップ 6** View Report ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ 7** レポートをメールで送信する場合は、Send Report ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-15の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

#### 追加情報

P.6-24の「関連トピック」を参照してください。

## 迷惑呼詳細レポートの設定

CAR 管理者だけが迷惑呼詳細レポートを生成します。このレポートは、迷惑呼の詳細を表示します。この項では、迷惑呼詳細レポートを生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。



### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混在している時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

### 手順

**ステップ 1** System Reports > Malicious Call Details を選択します。

Malicious Call Details ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** From Date ドロップダウン リスト ボックスで、迷惑呼詳細を表示する範囲の開始年月日を選択します。

**ステップ 3** To Date ドロップダウン リスト ボックスで、迷惑呼詳細を表示する範囲の終了年月日を選択します。

**ステップ 4** Comma Separated Value ( CSV; カンマ区切り形式 ) 形式でレポートする場合は、Report Format エリアで CSV を選択します。Portable Document Format( PDF )形式でレポートする場合は、Report Format エリアで PDF を選択します。

**ステップ 5** レポートを表示するため、View Report をクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ 6** レポートを電子メール受信者にメールで送信するには、P.5-15 の「レポートのメール送信」を参照してください。

### 追加情報

P.6-24 の「関連トピック」を参照してください。

### その他のマニュアル

- 『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』

## 優先コール要約の設定

CAR 管理者だけが優先コール要約レポートを生成します。このレポートは、管理者の選択する優先順位値に基づいてコール要約を表示します。

この項では、優先コール要約レポートを生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。



### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混在している時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。




### 手順

**ステップ 1** System Reports > Precedence Call Summary を選択します。

Call Summary by Precedence ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Generate Reports フィールドで、表 6-12 の説明に従って期間を選択します。

表 6-12 Generate Report フィールド

パラメータ	説明
Hour of Day	<p>選択した日付範囲の特定の時間帯における選択した内線番号のシステム内での平均コール数を表示します。</p> <p> (注) 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。</p>
Day of Week	<p>選択した日付範囲の特定の曜日における選択した内線番号のシステム内での平均コール数を表示します。</p> <p> (注) 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。</p>
Day of Month	<p>選択した日付範囲の特定の日付における選択した内線番号のシステム内での平均コール数を表示します。</p> <p> (注) 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。</p>

**ステップ 3** Select Precedence Levels フィールドで、レポートに含める優先レベルのチェックボックスをオンにします。または、Select All をクリックして、すべての優先レベルのチェックボックスをオンにします。



(注) 優先レベルのチェックボックスをオフにするには、Clear All をクリックします。

- ステップ 4** From Date ドロップダウン リスト ボックスで、優先コール要約情報を表示する範囲の開始年月日を選択します。
- ステップ 5** To Date ドロップダウン リスト ボックスで、優先コール要約情報を表示する範囲の終了年月日を選択します。
- ステップ 6** Comma Separated Value ( CSV; カンマ区切り形式 ) 形式でレポートする場合は、Report Format エリアで CSV を選択します。Portable Document Format( PDF )形式でレポートする場合は、Report Format エリアで PDF を選択します。
- ステップ 7** レポートを表示するため、**View Report** をクリックします。
- レポートが表示されます。
- ステップ 8** レポートを電子メール受信者にメールで送信するには、[P.5-15 の「レポートのメール送信」](#)を参照してください。
- 

#### 追加情報

[P.6-24 の「関連トピック」](#)を参照してください。

## クライアント証明書コード レポートの設定

CAR 管理者だけがクライアント証明書コード レポートを生成できます。選択した各クライアント証明書コードに関連するコールについて、発信元番号と送信先番号、発信日時、接続時間(秒) および分類を示すレポートを生成できます。

次の手順では、特定のクライアント証明書コードの使用状況を示すレポートを生成する方法について説明します。



### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混在している時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

### 手順

**ステップ 1** System Reports > FAC CMC > Client Matter Code を選択します。

Call Details for Client Matter Code ウィンドウに、システム内に設定されているすべてのクライアント証明書コードのリストが表示されます。

**ステップ 2** List of Client Matter Codes ボックスで、レポートに含めるコードを選択します。



(注) クライアント証明書コードは、100 個まで選択できます。

**ステップ 3** 選択したコードを Selected Client Matter Codes ボックスに追加するには、下矢印ボタンをクリックします。

レポートには、このボックスにリストされているすべてのコード(データを取得できるもの)が含まれます。

**ステップ 4** From Date と To Date のプルダウン リスト ボックスで、クライアント証明書コード情報を表示する日付範囲を入力します。

**ステップ 5** Report Format では、CSV ( Comma Separated Value ( CSV; カンマ区切り形式 )) でレポートを生成する場合は CSV オプション ボタンを選択し、Portable Document Format ( PDF ) でレポートを生成する場合は PDF オプション ボタンを選択します。

**ステップ 6** View Report をクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ 7** レポートをメールで送信する場合は、Send Report ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-15 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

### 追加情報

P.6-24 の「関連トピック」を参照してください。



## 許可コード名レポートの設定

CAR 管理者だけが許可コード名レポートを生成できます。選択した各許可コード名に関連するコールについて、発信元番号と送信先番号、発信日時、接続時間（秒）、分類、許可コード名、および認証レベルを示すレポートを生成できます。



**(注)** セキュリティを確保するため、許可コードは表示されず、代わりに許可コード名（説明）が表示されます。

次の手順では、特定の許可コード名の使用状況を示すレポートを生成する方法について説明します。



### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混在している時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

### 手順

**ステップ 1** System Reports > FAC CMC > Authorization Code Name を選択します。

Call Details for Authorization Code Name ウィンドウに、システム内に設定されているすべての許可コード名のリストが表示されます。

**ステップ 2** List of Authorization Code Names ボックスで、レポートに含めるコード名を選択します。



**(注)** コード名は、30 個まで選択できます。

**ステップ 3** 選択したコード名を Selected Authorization Code Names ボックスに追加するには、下矢印ボタンをクリックします。

レポートには、このボックスにリストされているすべてのコード名（データを取得できるもの）が含まれます。

**ステップ 4** From Date と To Date のプルダウン リスト ボックスで、許可コード名情報を表示する日付範囲を入力します。

**ステップ 5** Report Format では、CSV（Comma Separated Value（CSV；カンマ区切り形式））でレポートを生成する場合は CSV オプション ボタンを選択し、Portable Document Format（PDF）でレポートを生成する場合は PDF オプション ボタンを選択します。

**ステップ 6** View Report をクリックします。

レポートが表示されます。

## ■ 許可コード名レポートの設定

**ステップ7** レポートをメールで送信する場合は、**Send Report** ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-15 の「[レポートのメール送信](#)」で説明されている手順に従います。

---

**追加情報**

P.6-24 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## 認証レベル レポートの設定

CAR 管理者だけが認証レベル レポートを生成できます。選択した各認証レベルに関連するコールについて、発信元番号と送信先番号、発信日時、接続時間（秒）、および分類を示すレポートを生成できます。

次の手順では、特定の認証レベルの使用状況を示すレポートを生成する方法について説明します。



### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混在している時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

### 手順

**ステップ 1** System Reports > FAC CMC > Authorization Level を選択します。

Call Details by Authorization Level ウィンドウに、システム内に設定されているすべての認証レベルのリストが表示されます。

**ステップ 2** List of Authorization Levels ボックスで、レポートに含めるレベルを選択します。

**ステップ 3** 選択したレベルを Selected Authorization Levels ボックスに追加するには、下矢印ボタンをクリックします。

レポートには、このボックスにリストされているすべてのレベル（データを取得できるもの）が含まれます。



**(注)** 生成されるのは、ルート パターンに関連付けられている FAC 認証レベル レポートのみです。

**ステップ 4** From Date と To Date のプルダウン リスト ボックスで、認証レベル情報を表示する日付範囲を入力します。

**ステップ 5** Report Format では、CSV (Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式)) でレポートを生成する場合は CSV オプション ボタンを選択し、Portable Document Format (PDF) でレポートを生成する場合は PDF オプション ボタンを選択します。

**ステップ 6** View Report をクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ 7** レポートをメールで送信する場合は、Send Report ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-15 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

### 追加情報

P.6-24 の「関連トピック」を参照してください。

## システム概要の設定

CAR 管理者だけがシステム概要レポートを生成します。このレポートは、一連のシステム レポート全体を1つのレポートで提供します。

システムが自動的に生成したレポートを表示することもできれば、新しいレポートを生成することもできます。CAR 管理者だけがレポートの自動生成をスケジュールできます。詳細については、P.3-8の「[システム スケジューラの設定](#)」を参照してください。



### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混在している時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

この項では、Cisco Unified CallManager システムに関する要約情報を生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** System Reports > System Overview を選択します。

System Overview ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Available Reports フィールドで、自動生成レポートを選択し（使用可能な場合）、[ステップ 6](#)に進みます。または、デフォルトの Generate New Report を使用して、[ステップ 3](#)に進みます。

**ステップ 3** レポートを生成する期間の日付範囲を選択します。

**ステップ 4** List of Reports で、生成するレポートを強調表示し、右矢印アイコンをクリックして選択します。

選択したレポートが、Selected Reports リスト ボックスに表示されます。



### ヒント

キーボードの Ctrl キーを押しながらレポートをクリックしていくと、複数のレポートを一度に強調表示できます。

**ステップ 5** Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、Report Format エリアで CSV を選択します。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、Report Format エリアで PDF を選択します。

**ステップ 6** View Report ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ 7** レポートをメールで送信する場合は、Send Report ボタンをクリックします。レポートを送信するには、[P.5-15](#)の「[レポートのメール送信](#)」で説明されている手順に従います。

### 追加情報

[P.6-24](#)の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## CDR エラーの設定

CAR 管理者だけが CDR エラー レポートを生成します。このレポートは、CAR の Billing\_Error テーブルに含まれているエラー レコードの数に関する統計情報、およびエラーの理由を提供します。

この項では、CDR エラーに関する情報を生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。



### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混在している時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

### 手順

**ステップ 1** System Reports > CDR Error を選択します。

CDR Error ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** レポートを生成する期間の日付範囲を選択します。

**ステップ 3** Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、Report Format エリアで CSV を選択します。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、Report Format エリアで PDF を選択します。

**ステップ 4** View Report ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ 5** レポートをメールで送信する場合は、Send Report ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-15 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

### 追加情報

P.6-24 の「関連トピック」を参照してください。

## QoS パラメータの演算子

表 6-13 で、QoS パラメータの演算子について説明します。

表 6-13 QoS パラメータの演算子

演算子	説明
>=	指定した値よりも大きいか等しいジッタ、遅延、または喪失パケットに関してデータを生成するには、この演算子を選択します。
=	指定した値と等しいジッタ、遅延、または喪失パケットに関してデータを生成するには、この演算子を選択します。
<=	指定した値よりも小さいか等しいジッタ、遅延、または喪失パケットに関してデータを生成するには、この演算子を選択します。
N.A.	ジッタ、遅延、または喪失パケットのデータを排除するには、この演算子を選択します。
Between	ある値ともう 1 つの値の間にあるジッタ、遅延、または喪失パケットに関してデータを生成するには、この演算子を選択します。この演算子を選択すると、2 番目のフィールドが表示され、開始値と終了値を設定することができます。

### 追加情報

P.6-24 の「関連トピック」を参照してください。

## 関連トピック

- CDR エラー レポートの結果 (P.10-16)
- システム概要レポートの結果 (P.10-15)
- レポート自動生成のイネーブル化とカスタマイズ (P.4-8)
- 優先コールの要約レポートの結果 (P.10-14)
- CDR Analysis and Reporting の概要 (P.1-1)
- トラフィック要約レポートの結果 (P.10-12)
- トラフィック要約の設定 (P.6-10)
- 内線別のトラフィック要約の設定 (P.6-12)
- コールタイプ別 QoS レポートの結果 (P.10-11)
- QoS パラメータの演算子 (P.6-24)
- ゲートウェイ別 QoS の設定 (P.6-6)
- ゲートウェイ別 QoS レポートの結果 (P.10-10)
- QoS パラメータの演算子 (P.6-24)
- コールタイプ別 QoS の設定 (P.6-8)
- QoS 詳細レポートの設定 (P.6-2)
- QoS 要約レポートの結果 (P.10-10)
- QoS 値の定義 (P.4-6)
- QoS 詳細レポートの結果 (P.10-9)
- QoS 要約レポートの設定 (P.6-4)



## CAR デバイス レポートの設定

---

CAR には、管理者、マネージャ、および個々のユーザの 3 つのレベルのユーザに対応したレポート機能があります。管理者だけがデバイス レポートを生成します。

デバイス レポートは、会議ブリッジ、ボイスメール サーバ、ゲートウェイなどの Cisco Unified CallManager 関連デバイスについて、負荷およびパフォーマンスを追跡します。

この章は次の内容で構成されています。

- [ゲートウェイ レポートの設定 \(P.7-2\)](#)
- [ルート プラン使用状況レポートの設定 \(P.7-9\)](#)
- [会議コールの詳細の設定 \(P.7-15\)](#)
- [会議ブリッジの使用状況レポートの設定 \(P.7-16\)](#)
- [ボイス メッセージングの使用状況レポートの設定 \(P.7-18\)](#)
- [関連トピック \(P.7-20\)](#)

## ゲートウェイ レポートの設定

ゲートウェイの場合は、次のデバイス レポートを設定します。

- [ゲートウェイ詳細レポートの設定 \(P.7-2\)](#)
- [ゲートウェイ要約レポートの設定 \(P.7-4\)](#)
- [ゲートウェイ使用状況レポートの設定 \(P.7-6\)](#)

### ゲートウェイ詳細レポートの設定

CAR 管理者だけがゲートウェイ詳細レポートを生成します。ゲートウェイ詳細レポートは、特定のゲートウェイの問題を追跡するために使用します。

この項では、選択したゲートウェイに関する詳細情報を生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。



#### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混在している時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

#### 手順

**ステップ 1** Device Reports > Gateway > Detail を選択します。

Gateway Detail ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** レポートに含めることができるゲートウェイのリストを List of Gateways ボックスに表示するには、次のいずれかの操作を行います。

- すべてのゲートウェイを List of Gateways ボックスに表示するには、ウィンドウの左側のカラムで **Gateway Types** をクリックします。
- 特定のゲートウェイ タイプのゲートウェイを List of Gateways ボックスに表示するには、ウィンドウの左側のカラムで **Gateway Types** の隣にあるアイコンをクリックします。ツリー構造が展開され、ゲートウェイ タイプのリストが表示されます。リストからゲートウェイ タイプを選択すると、List of Gateways ボックスにゲートウェイ名が表示されます。



**(注)** List of Gateways ボックスには、選択したゲートウェイ タイプに設定されたゲートウェイを最大 200 まで表示できます。

- 設定済みのルート パターン/ハントパイロットに関連付けられているすべてのゲートウェイを表示するには、ウィンドウの左側のカラムで **Route Patterns/Hunt Pilots** をクリックします。
- ゲートウェイ タイプではなく、特定のルート パターンを使用するゲートウェイを表示するには、ウィンドウの左側のカラムで **Route Patterns/Hunt Pilots** の隣にあるアイコンをクリックします。ツリー構造が展開され、ルート パターン/ハント リストのリストが表示されます。リストからルート パターン/ハント パイロットを選択すると、ゲートウェイ名が List of Gateways ボックスに表示されます。





(注) ウィンドウの左側のカラムで Route Patterns/Hunt Pilots ボックスにルートパターン/ハントリストの名前の一部を入力して、特定のルートパターン/ハントリストを検索することもできます。CAR が、検索文字列に一致するルートパターン/ハントリストを検索します。

**ステップ 3** List of Gateways ボックスで、レポートに含めるゲートウェイを選択します。



(注) 1 度に最大 15 のゲートウェイに関するレポートを生成できます。

**ステップ 4** 選択されたゲートウェイを Selected Gateways リスト ボックスに移動するには、下矢印アイコンをクリックします。

選択したゲートウェイが Selected Gateways ボックスに表示されます。

**ステップ 5** Select Call Types 領域で、レポートに含めるコール タイプのチェックボックスをオンにします。表 7-1 で、コール タイプについて説明します。

表 7-1 コール タイプ別のゲートウェイの詳細

コール タイプ	説明
Local	Public Switched Telephone Network (PSTN; 公衆電話交換網) を経由して、市外局番を付けずに指定した番号や、ローカル エリア コードのいずれかを含む番号にルーティングされる市内電話
Long Distance	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される長距離電話
International	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される国際電話
On Net	Cisco Unified CallManager クラスターの 1 つで発信され、別のクラスターで終端する発信クラスター間コール
Incoming	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入ってきた着信コール
Tandem	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入り、さらに Cisco Unified CallManager ネットワークから発信されゲートウェイ経由で転送された発信コール
Others	フリーダイヤル番号や 911 などの緊急呼び出しを含むその他のすべての発信コール

**ステップ 6** Select QoS 領域で、レポートに含める音声品質カテゴリのチェックボックスをオンにします。P.4-6 の「QoS 値の定義」で設定するパラメータが、すべての音声品質カテゴリの基準になります。

## ■ ゲートウェイレポートの設定

表 7-2 ゲートウェイ詳細の音声品質

音声品質	説明
Good	これらのコールの QoS は、可能な範囲で最高の品質を示します。
Acceptable	これらのコールの QoS は、多少低下しているが、まだ許容範囲内に含まれます。
Fair	これらのコールの QoS は、低下しているが、まだ使用可能範囲内に含まれていることを示します。
Poor	これらのコールの QoS は、十分な品質とは言えません。
NA	これらのコールは、既定の QoS カテゴリのどの基準にも一致しません。

**ステップ 7** コール情報を表示する期間の日付範囲を選択します。



**(注)** 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。

**ステップ 8** Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、Report Format エリアで CSV を選択します。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、Report Format エリアで PDF を選択します。

**ステップ 9** View Report ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ 10** レポートをメールで送信する場合は、Send Report ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-15 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

### 追加情報

P.7-20 の「関連トピック」を参照してください。

## ゲートウェイ要約レポートの設定

CAR 管理者だけがゲートウェイ要約レポートを生成します。このレポートは、ゲートウェイを経由したすべてのコールの要約を提供します。この情報は、ゲートウェイを通過するコールのトラフィックと QoS を監視するために使用できます。

システムが自動的に生成したレポートを表示することもできれば、新しいレポートを生成することもできます。CAR 管理者だけがレポートの自動生成をスケジュールできます。詳細については、P.3-1 の「CAR システムの設定」を参照してください。



### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混在している時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

この項では、ゲートウェイに関する要約情報を生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** Device Reports > Gateway > Summary を選択します。

Gateway Summary ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Available Reports フィールドで、自動生成レポートを選択し（使用可能な場合）、[ステップ 6](#)に進みます。または、デフォルトの Generate New Report を使用して、[ステップ 3](#)に進みます。

**ステップ 3** Select Call Types 領域で、レポートに含めるコール タイプのチェックボックスをオンにします。[表 7-3](#)で、コール タイプについて説明します。

表 7-3 コール タイプ別のゲートウェイの詳細

コール タイプ	説明
Incoming	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入ってきた着信コール
Tandem	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入り、さらに Cisco Unified CallManager ネットワークから発信されゲートウェイ経由で転送された発信コール
Outgoing	Cisco IP Phone から発信され、ゲートウェイ内で終端するすべての発信コール。

**ステップ 4** Generate New Report を選択した場合は、レポートを生成する期間の日付範囲を選択します。

**ステップ 5** Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、Report Format エリアで CSV を選択します。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、Report Format エリアで PDF を選択します。

**ステップ 6** View Report ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ 7** レポートをメールで送信する場合は、Send Report ボタンをクリックします。レポートを送信するには、[P.5-15](#)の「[レポートのメール送信](#)」で説明されている手順に従います。

### 追加情報

[P.7-20](#)の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## ゲートウェイ使用状況レポートの設定

CAR 管理者だけがゲートウェイ使用状況レポートを生成します。このレポートは、所定の期間におけるゲートウェイの概算使用率を提示するもので、正確な使用状況ではありません。たとえば、システムが 11 ~ 12 時間目のゲートウェイ使用状況を計算するときは、(5 分間にゲートウェイを使用したコール数 \* 100) / (任意の時刻にゲートウェイを使用することができる最大コール数) になります。ゲートウェイを使用することで任意の時刻に使用できる最大コール数は、CAR の Gateway Configuration ウィンドウで設定した、ゲートウェイの最大ポート数と等しくなります。1 時間全体を 5 分刻みで分割したサンプルごとに使用状況を計算し、その 1 時間における使用状況の最大値が、11 ~ 12 時間目の使用状況としてレポートに表示されます。同様に、1 日間の使用状況を取得する場合は、1 日間が各 5 分間のサンプルに分割され、使用状況の最大値が計算されます。1 日の中の時間単位で、または毎週または毎月の指定した日数単位で使用状況を調べることができます。レポートは選択されたゲートウェイごとに生成されます。

システムが自動的に生成したレポートを表示することもできれば、新しいレポートを生成することもできます。CAR 管理者だけがレポートの自動生成をスケジュールできます。詳細については、P.3-1 の「CAR システムの設定」を参照してください。



### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混在している時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

この項では、ゲートウェイ使用状況レポートを生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** Device Reports > Gateway > Utilization を選択します。

Gateway Utilization ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Generate Reports フィールドで、表 7-4 の説明に従って期間を選択します。

表 7-4 Generate Report フィールド

パラメータ	説明
Hour of Day	ステップ 8 で指定する期間の 24 時間期間内の各時間の累積結果を表示します。
Day of Week	ステップ 8 で指定する期間内でレポートの対象とする曜日を表示します。
Day of Month	ステップ 8 で指定する期間内でレポートの対象とするその月の日数を表示します。

**ステップ 3** Available Reports フィールドで、自動生成レポートを選択し（使用可能な場合）、ステップ 10 に進みます。または、デフォルトの Generate New Report を使用して、ステップ 4 に進みます。

**ステップ4** レポートに含めることができるゲートウェイのリストを List of Gateways ボックスに表示するには、次のいずれかの操作を行います。

- すべてのゲートウェイを List of Gateways ボックスに表示するには、ウィンドウの左側のカラムで **Gateway Types** をクリックします。
- 特定のゲートウェイ タイプのゲートウェイを List of Gateways ボックスに表示するには、ウィンドウの左側のカラムで **Gateway Types** の隣にあるアイコンをクリックします。ツリー構造が展開され、ゲートウェイ タイプのリストが表示されます。リストからゲートウェイ タイプを選択すると、List of Gateways ボックスにゲートウェイ名が表示されます。



**(注)** List of Gateways ボックスには、選択したゲートウェイ タイプに設定されたゲートウェイを最大 200 まで表示できます。

- 設定済みのルートパターン/ハントパイロットに関連付けられているすべてのゲートウェイを表示するには、ウィンドウの左側のカラムで **Route Patterns/Hunt Pilots** をクリックします。
- ゲートウェイ タイプではなく、特定のルート パターンを使用するゲートウェイを表示するには、ウィンドウの左側のカラムで **Route Patterns/Hunt Pilots** の隣にあるアイコンをクリックします。ツリー構造が展開され、ルートパターン/ハントリストのリストが表示されます。リストからルートパターン/ハントパイロットを選択すると、ゲートウェイ名が List of Gateways ボックスに表示されます。



**(注)** ウィンドウの左側のカラムで Route Patterns/Hunt Pilots ボックスにルートパターン/ハントリストの名前の一部を入力して、特定のルートパターン/ハントリストを検索することもできます。CAR が、検索文字列に一致するルートパターン/ハントリストを検索します。

**ステップ5** リストからゲートウェイ タイプを選択します。

ゲートウェイ名が List of Gateways ボックスに表示されます。



**(注)** List of Gateways ボックスには、選択したゲートウェイ タイプに設定されたゲートウェイを最大 200 まで表示できます。

**ステップ6** List of Gateways ボックスで、レポートに含めるゲートウェイを選択します。



**(注)** 1 度に最大 15 のゲートウェイに関するレポートを生成できます。

**ステップ7** 下矢印アイコンをクリックして、選択したゲートウェイを Selected Gateways リスト ボックスに移動します。

選択したゲートウェイが Selected Gateways ボックスに表示されます。

## ■ ゲートウェイレポートの設定

**ステップ 8** Generate New Report を選択した場合は、コール情報を表示する期間の日付範囲を入力します。



(注) 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。

**ステップ 9** Comma Separated Value ( CSV; カンマ区切り形式 ) 形式でレポートする場合は、Report Format エリアで CSV を選択します。Portable Document Format( PDF )形式でレポートする場合は、Report Format エリアで PDF を選択します。

**ステップ 10** View Report ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ 11** レポートをメールで送信する場合は、Send Report ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-15 の「[レポートのメール送信](#)」で説明されている手順に従います。

#### 追加情報

P.7-20 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## ルートプラン使用状況レポートの設定

ルートプランの場合は、次のデバイスレポートを設定します。

- [ルートおよび回線グループの使用状況レポートの設定 \(P.7-9\)](#)
- [ルート/ハントリストの使用状況レポートの設定 \(P.7-11\)](#)
- [ルートパターン/ハントパイロットの使用状況レポートの設定 \(P.7-13\)](#)

## ルートおよび回線グループの使用状況レポートの設定

CAR 管理者だけがルートおよび回線グループの使用状況レポートを生成します。このレポートは、ルートおよび回線グループの最大使用率(ルートおよび回線グループに含まれているすべてのゲートウェイの累積使用状況)の概算を提示します。使用状況はゲートウェイの使用状況と同じ方法で計算されますが、この計算では、ルートグループに含まれているすべてのゲートウェイと、回線グループに含まれているすべての回線の累積使用状況が示されます。1日の中の時間単位で、または毎週または毎月の指定した日数単位で使用状況を調べることができます。レポートは、選択したルートおよび回線グループごとに生成されます。

システムが自動的に生成したレポートを表示することもできれば、新しいレポートを生成することもできます。CAR 管理者だけがレポートの自動生成をスケジュールできます。詳細については、[P.3-1](#)の「[CAR システムの設定](#)」を参照してください。



### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混在している時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

この項では、ルートおよび回線グループの使用状況レポートを生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** Device Reports > Route Plan > Route and Line Group Utilization を選択します。

Route and Line Group Utilization ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Generate Reports フィールドで、[表 7-5](#)の説明に従って期間を選択します。

**表 7-5** Generate Report フィールド

パラメータ	説明
Hour of Day	<a href="#">ステップ 8</a> で指定する期間の 24 時間期間内の各時間の累積結果を表示します。
Day of Week	<a href="#">ステップ 8</a> で指定する期間内でレポートの対象とする曜日を表示します。
Day of Month	<a href="#">ステップ 8</a> で指定する期間内でレポートの対象とするその月の日数を表示します。

## ■ ルートプラン使用状況レポートの設定

**ステップ 3** Available Reports フィールドで、自動生成レポートを選択し（使用可能な場合）、**ステップ 10**に進みます。または、デフォルトの Generate New Report を使用して、**ステップ 4**に進みます。

**ステップ 4** 特定のルート パターンを使用しているルートおよび回線グループのみを選択するには、ウィンドウの左側のカラムで **Route Patterns/Hunt Pilots** をクリックします。

ツリー構造が展開され、選択したルート パターン / ハント リストが表示されます。



**(注)** ウィンドウの左側のカラムで Route Patterns/Hunt Pilots ボックスにルートパターン / ハントリストの名前の一部を入力して、特定のルートパターン / ハントリストを検索することもできます。CAR が、検索文字列に一致するルートパターン / ハントリストを検索します。

**ステップ 5** リストから、ルートパターン / ハントリストを選択します。

このルートパターン / ハントリストのルートおよび回線グループが、List of Route/Line Groups ボックスに表示されます。



**(注)** List of Route/Line Groups ボックスには、ルートグループが 200 個まで表示されます。

**ステップ 6** List of Route/Line Groups ボックスで、レポートに含めるルート / 回線グループを選択します。



**(注)** 1 度に最大 15 のルート / 回線グループに関するレポートを生成できます。

**ステップ 7** 選択されたゲートウェイを Selected Route/Line Groups リスト ボックスに移動するには、下矢印アイコンをクリックします。

選択したルート / 回線グループが Selected Route/Line Groups ボックスに表示されます。

**ステップ 8** Generate New Report を選択した場合は、コール情報を表示する期間の日付範囲を入力します。



**(注)** 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。

**ステップ 9** Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、Report Format エリアで CSV を選択します。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、Report Format エリアで PDF を選択します。

**ステップ 10** View Report ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ 11** レポートをメールで送信する場合は、Send Report ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-15 の「**レポートのメール送信**」で説明されている手順に従います。



**追加情報**

P.7-20 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

**ルート/ハント リストの使用状況レポートの設定**

CAR 管理者だけがルート/ハント リストの使用状況レポートを生成します。ルート/ハント リストの使用状況レポートは、所定の期間におけるルート/ハント リストの最大使用率（ルート/ハント リストに含まれているすべてのゲートウェイの累積使用状況）の概算を提示するもので、正確な使用状況ではありません。計算されるのは、ルート リストに含まれているすべてのゲートウェイ、およびハント リストに含まれているすべての回線の累積使用状況です。

1 日の中の時間単位で、または毎週または毎月の指定した日数単位で使用状況を調べることができます。レポートは、選択したルート/ハント リストごとに生成されます。

システムが自動的に生成したレポートを表示することもできれば、新しいレポートを生成することもできます。CAR 管理者だけがレポートの自動生成をスケジュールできます。詳細については、P.3-8 の「[システム スケジューラの設定](#)」を参照してください。

**注意**

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混在している時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

この項では、ルート/ハント リストの使用状況レポートを生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

**手順**

**ステップ 1** Device Reports > Route Plan > Route/Hunt List Utilization を選択します。

Route/Hunt List Utilization ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Generate Report フィールドで、[表 7-6](#) の説明に従って期間を選択します。

**表 7-6 Generate Report フィールド**

パラメータ	説明
Hour of Day	<a href="#">ステップ 8</a> で指定する期間の 24 時間期間内の各時間の累積結果を表示します。
Day of Week	<a href="#">ステップ 8</a> で指定する期間内でレポートの対象とする曜日を表示します。
Day of Month	<a href="#">ステップ 8</a> で指定する期間内でレポートの対象とするその月の日数を表示します。

**ステップ 3** Available Reports フィールドで、自動生成レポートを選択し（使用可能な場合）、[ステップ 10](#) に進みます。または、デフォルトの Generate New Report を使用して、[ステップ 4](#) に進みます。

## ■ ルートプラン使用状況レポートの設定

**ステップ 4** レポートに含めるルート / ハント リストを選択するには、ウィンドウの左側のカラムで **Route Patterns/Hunt Pilots** をクリックします。ツリー構造が展開され、選択したルートパターン / ハントパイロットが表示されます。



**(注)** ウィンドウの左側のカラムで Route Patterns/Hunt Pilots ボックスにルートパターン / ハントリストの名前の一部を入力して、特定のルートパターン / ハントリストを検索することもできます。CAR が、検索文字列に一致するルートパターン / ハントリストを検索します。

**ステップ 5** リストから、ルート / ハント リストを選択します。

ルート / ハント リストの名前が、List of Route/Hunt Lists ボックスに表示されます。



**(注)** List of Route/Hunt Lists ボックスには、ルート / ハント リストが 200 個まで表示されます。

**ステップ 6** List of Route/Hunt Lists ボックスで、レポートに含めるルート / ハント リストを選択します。



**(注)** 1 度に最大 15 のルート / ハント リストに関するレポートを生成できます。

**ステップ 7** 選択されたルート / ハント リストを Selected Route/Hunt Lists ボックスに移動するには、下矢印アイコンをクリックします。

選択したルート / ハント リストが Selected Route/Hunt Lists ボックスに表示されます。

**ステップ 8** Generate New Report を選択した場合は、コール情報を表示する期間の日付範囲を入力します。



**(注)** 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。

**ステップ 9** Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、Report Format エリアで CSV を選択します。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、Report Format エリアで PDF を選択します。

**ステップ 10** View Report ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ 11** レポートをメールで送信する場合は、Send Report ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-15 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

#### 追加情報

P.7-20 の「関連トピック」を参照してください。

## ルートパターン/ハントパイロットの使用状況レポートの設定

CAR 管理者だけがルートパターン/ハントパイロットの使用状況レポートを生成します。このレポートは、所定の期間におけるルートパターン/ハントパイロットの最大使用率（ルートパターン/ハントパイロットに含まれているすべてのゲートウェイの累積使用状況）の概算を提示するもので、正確な使用状況ではありません。計算されるのは、ルートパターンに含まれているすべてのゲートウェイ、およびハントパイロットに含まれているすべての回線の使用状況です。1日の中の時間単位で、または毎週または毎月の指定した日数単位で使用状況を調べることができます。レポートは、選択したルートパターン/ハントパイロットごとに生成されます。

システムが自動的に生成したレポートを表示することもできれば、新しいレポートを生成することもできます。CAR 管理者だけがレポートの自動生成をスケジュールできます。詳細については、P.3-8の「システムスケジューラの設定」を参照してください。



**注意**

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混在している時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

この項では、ルートパターン/ハントパイロットの使用状況レポートを生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** Device Reports > Route Plan > Route Pattern/Hunt Pilot Utilization を選択します。

Route Pattern/Hunt Pilot Utilization ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Generate Report フィールドで、表 7-7 の説明に従って期間を選択します。

**表 7-7 Generate Report フィールド**

パラメータ	説明
Hour of Day	ステップ 8 で指定する期間の 24 時間期間内の各時間の累積結果を表示します。
Day of Week	ステップ 8 で指定する期間内でレポートの対象とする曜日を表示します。
Day of Month	ステップ 8 で指定する期間内でレポートの対象とするその月の日数を表示します。

**ステップ 3** Available Reports フィールドで、自動生成レポートを選択し（使用可能な場合）、ステップ 10 に進みます。または、デフォルトの Generate New Report を使用して、ステップ 4 に進みます。

**ステップ 4** レポートに含めるルートパターン/ハントリストを選択するには、ウィンドウの左側のコラムで Route Patterns/Hunt Pilots をクリックします。

ツリー構造が展開され、選択したルートパターン/ハントリストが表示されます。

## ■ ルート ブラン使用状況レポートの設定



(注) ウィンドウの左側のコラムで Route Patterns/Hunt Pilots ボックスにルート パターン / ハント リストの名前の一部を入力して、特定のルート パターン / ハント リストを検索することもできます。CAR が、検索文字列に一致するルート パターン / ハント リストを検索します。

**ステップ 5** リストから、ルート パターン / ハント パイロットを選択します。

ルート パターン / ハント パイロットの名前が、List of Route Patterns/Hunt Pilots ボックスに表示されます。



(注) List of Route Patterns/Hunt Pilots ボックスには、ルート パターン / ハント リストが 200 個まで表示されます。

**ステップ 6** List of Route Patterns/Hunt Pilots ボックスで、レポートに含めるルート パターン / ハント リストを選択します。



(注) 1 度に最大 15 のルート パターン / ハント パイロットに関するレポートを生成できます。

**ステップ 7** 下矢印アイコンをクリックして、選択したルート パターン / ハント パイロットを Selected Route Patterns/Hunt Pilots リスト ボックスに移動します。

選択したルート パターン / ハント パイロットが Selected Route Patterns/Hunt Pilots ボックスに表示されます。

**ステップ 8** Generate New Report を選択した場合は、コール情報を表示する期間の日付範囲を入力します。



(注) 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。

**ステップ 9** Comma Separated Value ( CSV; カンマ区切り形式 ) 形式でレポートする場合は、Report Format エリアで CSV を選択します。Portable Document Format( PDF )形式でレポートする場合は、Report Format エリアで PDF を選択します。

**ステップ 10** View Report ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ 11** レポートをメールで送信する場合は、Send Report ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-15 の「[レポートのメール送信](#)」で説明されている手順に従います。

### 追加情報

P.7-20 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## 会議コールの詳細の設定

CAR 管理者だけが会議コールの詳細レポートを生成します。会議コールの詳細レポートを使用すると、会議コールの詳細情報を生成および表示できます。



### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混在している時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

この項では、会議コールの詳細レポートを生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** Device Reports > Conference Bridge > Call Details を選択します。

Conference Call Details ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Report Type プルダウン メニューで、Summary または Detail のどちらかを選択します。

**ステップ 3** Available Reports フィールドで、自動生成レポートを選択し（使用可能な場合）、[ステップ 7](#)に進みます。または、デフォルトの Generate New Report を使用して、[ステップ 4](#)に進みます。

**ステップ 4** Select Conference Types で、[表 7-8](#)の説明に従って、レポートに含める会議タイプのチェックボックスをオンにします。

**表 7-8 Conference Calls Detail のフィールド**

パラメータ	説明
Ad-Hoc	アドホック会議では、会議の司会者が、特定の参加者のみを会議に参加させることができます。
Meet-Me	Meet-Me 会議では、ユーザが会議にダイヤルインすることができます。

**ステップ 5** Generate New Report を選択した場合は、会議コールの詳細を表示する期間の日付範囲を入力します。



**(注)** 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。

**ステップ 6** Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、Report Format エリアで CSV を選択します。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、Report Format エリアで PDF を選択します。

**ステップ 7** View Report ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

- ステップ 8** レポートをメールで送信する場合は、Send Report ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-15 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

### 追加情報

P.7-20 の「関連トピック」を参照してください。

## 会議ブリッジの使用状況レポートの設定

CAR 管理者だけが会議ブリッジの使用状況レポートを生成します。このレポートは、所定の期間における会議ブリッジの最大使用率（システム内のすべての会議ブリッジの累積使用状況）の概算を提示するもので、正確な使用状況ではありません。たとえば、システムが 11 ~ 12 時間目の会議ブリッジ使用状況を計算するときは、1 時間を 5 分刻みでサンプリングします。それぞれの 5 分間の使用状況は、(5 分間に会議ブリッジを使用したコール数 \* 100) / (任意の時刻に会議ブリッジが処理できる最大コール数) になります。1 時間全体を 5 分刻みで分割したサンプルごとに使用状況を計算し、その 1 時間における使用状況の最大値が、11 ~ 12 時間目の使用状況としてレポートに表示されます。1 日の中の時間単位で、または毎週または毎月の指定した日数単位で使用状況を調べることができます。レポートは、会議ブリッジごとに生成されます。

システムが自動的に生成したレポートを表示することもできれば、新しいレポートを生成することもできます。CAR 管理者だけがレポートの自動生成をスケジュールできます。詳細については、P.3-8 の「システム スケジューラの設定」を参照してください。



### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混在している時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

この項では、会議ブリッジ タイプごとの会議ブリッジの使用状況レポートを生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

### 手順

- ステップ 1** Device Reports > Conference Bridge > Utilization を選択します。

Conference Bridge Utilization ウィンドウが表示されます。

- ステップ 2** Generate Report フィールドで、表 7-9 の説明に従って期間を選択します。

表 7-9 Generate Report フィールド

パラメータ	説明
Hour of Day	ステップ 6 で指定する期間の 24 時間期間内の各時間の累積結果を表示します。
Day of Week	ステップ 6 で指定する期間内でレポートの対象とする曜日を表示します。
Day of Month	ステップ 6 で指定する期間内でレポートの対象とするその月の日数を表示します。

**ステップ3** Available Reports フィールドで、自動生成レポートを選択し（使用可能な場合）、[ステップ8](#)に進みます。または、デフォルトの Generate New Report を使用して、[ステップ4](#)に進みます。

**ステップ4** 左側のパネルの Conference Bridge Types カラムから、使用状況レポートに含める会議ブリッジのタイプを選択します。

選択した特定のタイプの会議ブリッジが、List of Devices ボックスに表示されます。

**ステップ5** レポートに含める会議ブリッジをすべて選択したら、下矢印をクリックして、それらを Selected Devices ボックスに追加します。

**ステップ6** Generate New Report を選択した場合は、コール情報を表示する期間の日付範囲を入力します。



**(注)** 日付と時間の範囲は1か月以内にする必要があります。

**ステップ7** Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、Report Format エリアで CSV を選択します。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、Report Format エリアで PDF を選択します。

**ステップ8** View Report ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ9** レポートをメールで送信する場合は、Send Report ボタンをクリックします。レポートを送信するには、[P.5-15](#)の「[レポートのメール送信](#)」で説明されている手順に従います。

---

### 追加情報

[P.7-20](#)の「[関連トピック](#)」を参照してください。



## ボイス メッセージングの使用状況レポートの設定

CAR 管理者だけがボイス メッセージングの使用状況レポートを生成します。このレポートは、所定の期間におけるボイス メッセージング デバイスの最大使用率の概算を提示するもので、正確な使用状況ではありません。たとえば、システムが 11 ~ 12 時間目のボイス メッセージング デバイス使用状況を計算するときは、1 時間を 5 分刻みでサンプリングします。それぞれの 5 分間の使用状況は、(5 分間にボイス メッセージング デバイスを使用したコール数 \*100)/(任意の時刻にボイス メッセージング デバイスが処理できる最大コール数)になります。1 時間全体を 5 分刻みで分割したサンプルごとに使用状況を計算し、その 1 時間における使用状況の最大値が、11 ~ 12 時間目の使用状況としてレポートに表示されます。同様に、1 日間の使用状況を取得する場合は、1 日間の各 5 分間のサンプルに分割され、使用状況の最大値が計算されます。1 日の中の時間単位で、または毎週または毎月の指定した日数単位で使用状況を調べることができます。レポートは、ボイス メッセージング サーバごとに生成されます。

システムが自動的に生成したレポートを表示することもできれば、新しいレポートを生成することもできます。CAR 管理者だけがレポートの自動生成をスケジュールできます。詳細については、P.3-8 の「システム スケジューラの設定」を参照してください。



(注)

CAR のボイス メッセージングの使用状況レポートでサポートしているのは、Cisco uOne、Unity、および Octel ボイスメール ゲートウェイのみです。



注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混在している時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

この項では、ボイス メッセージングの使用状況レポートを生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** Device Reports > Voice Messaging > Utilization を選択します。

Voice Messaging Utilization ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Generate Report フィールドで、表 7-10 の説明に従って期間を選択します。

表 7-10 Generate Report フィールド

パラメータ	説明
Hour of Day	ステップ 12 で指定する期間の 24 時間期間内の各時間の累積結果を表示します。
Day of Week	ステップ 12 で指定する期間内でレポートの対象とする曜日を表示します。
Day of Month	ステップ 12 で指定する期間内でレポートの対象とするその月の日数を表示します。

**ステップ 3** Available Reports フィールドで、自動生成レポートを選択し(使用可能な場合)、ステップ 14 に進みます。または、デフォルトの Generate New Report を使用して、ステップ 4 に進みます。



**ステップ 4** ボイス メッセージング DN を選択するには、左側のパネルの Voice Messaging DNs をクリックします。

設定済みのボイス メッセージング DN のリストが表示されます。

**ステップ 5** DN のリストから、ボイス メッセージング DN を選択します。

選択した DN が List of DN/Ports リスト ボックスに表示されます。

**ステップ 6** Select Voice Messaging DN/Ports で、下矢印アイコンをクリックします。

選択した DN が Selected DN/Ports リスト ボックスに表示されます。

**ステップ 7** レポートに含める DN をすべて選択するまで、[ステップ 5](#) と [ステップ 6](#) を繰り返します。

**ステップ 8** ボイス メッセージング ポートを選択するには、左側のパネルの Voice Messaging Ports をクリックします。

設定済みのボイス メッセージング ポートのリストが表示されます。

**ステップ 9** ポートのリストから、ボイス メッセージング ポートを選択します。

選択したポートが List of DN/Ports リスト ボックスに表示されます。

**ステップ 10** Select Voice Messaging DN/Ports で、下矢印アイコンをクリックします。

選択したポートが Selected DN/Ports リスト ボックスに表示されます。

**ステップ 11** レポートに含めるポートをすべて選択するまで、[ステップ 9](#) と [ステップ 10](#) を繰り返します。

**ステップ 12** Generate New Report を選択した場合は、コール情報を表示する期間の日付範囲を入力します。



**(注)** 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。

**ステップ 13** Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、Report Format エリアで CSV を選択します。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、Report Format エリアで PDF を選択します。

**ステップ 14** View Report ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

**ステップ 15** レポートをメールで送信する場合は、Send Report ボタンをクリックします。レポートを送信するには、[P.5-15](#) の「[レポートのメール送信](#)」で説明されている手順に従います。

#### 追加情報

[P.7-20](#) の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## 関連トピック

- [ボイス メッセージング使用状況レポートの結果 \(P.10-20\)](#)
- [会議ブリッジ使用状況レポートの結果 \(P.10-20\)](#)
- [会議コール詳細レポートの結果 \(P.10-19\)](#)
- [ゲートウェイおよびルート使用状況レポートの結果 \(P.10-18\)](#)
- [ゲートウェイ詳細レポートの結果 \(P.10-17\)](#)



# CDR 検索の設定

CAR には、管理者、マネージャ、および個々のユーザの 3 つのレベルのユーザに対応したレポート機能があります。CAR 管理者だけが CDR 検索を使用できます。

この章は次の内容で構成されています。

- [ユーザの内線による CDR の検索の設定 \(P.8-2\)](#)
- [ゲートウェイによる CDR の検索の設定 \(P.8-3\)](#)
- [コール終了原因による CDR の検索の設定 \(P.8-5\)](#)
- [コール終了の詳細の表示 \(P.8-6\)](#)
- [コールの優先レベルによる CDR の検索の設定 \(P.8-7\)](#)
- [迷惑呼による CDR の検索の設定 \(P.8-9\)](#)
- [関連トピック \(P.8-10\)](#)

## 始める前に

Cisco CallManager のサービス パラメータ CDR Enabled Flag と Call Diagnostics Enabled を true(イネーブル)に設定して、システムが CDR データと CMR データを生成できるようにしてください。システムのデフォルトでは、これらのサービス パラメータはディセーブルになっています。これらのサービス パラメータの詳細については、『*Cisco Unified CallManager アドミニストレーション ガイド*』を参照してください。

すべての CAR レポートが CDR データを使用します。レポートの生成材料となる CDR データは、必ず最新のものにしてください。デフォルトでは、CDR データは毎日午前 0 時から午前 5 時までロードされます。ただし、ロードする時刻、間隔、期間は必要に応じて設定できます。詳細については、[P.3-8 の「システム スケジューラの設定」](#)を参照してください。

## ユーザの内線による CDR の検索の設定

CAR 管理者だけがユーザの内線による CDR の検索機能を使用します。

この項では、ユーザまたは内線を基準として CDR データの詳細を表示する方法について説明します。ユーザ名および内線を基準として、CDR データを検索できます。同じ検索でユーザと内線を両方とも指定すると、検索範囲を絞ることができます。



### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混在している時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

### 手順

**ステップ 1** CDR > Search > By User/Extension を選択します。

CDR Search by User Extension ウィンドウが表示されます。



(注) 「!」や「X」などのワイルドカードパターンを入力して内線を検索できます。「!」は、各桁が 0 ~ 9 で構成される n 桁の数字を表し、「X」は 0 ~ 9 の範囲の 1 桁の数字を表します。

**ステップ 2** 次のいずれかを実行します。

- 内線を基準として CDR を検索するには、内線番号を Add Extension フィールドに入力し、**Add Extension** ボタンをクリックします。
- ユーザを基準として CDR を検索するには、**Search Extension(s) based on User(s)** リンクをクリックし、姓または名の最初の何文字かを First Name フィールドや Last Name のフィールドの一方または両方に入力して、**Search** ボタンをクリックします。結果が表示されたら、レポートに含める結果の隣にある **Select** リンクをクリックします。**Close** ボタンをクリックします。

内線が Selected Extension(s) ボックスに表示されます。



(注) 項目をレポート条件ボックスから削除するには、**Remove Extension(s)** ボタンをクリックします。**Remove All Extensions** ボタンをクリックすると、レポート条件ボックスからすべての項目を削除できます。

**ステップ 3** 指定したユーザまたは内線の CDR データを表示する期間の日付範囲を選択します。

**ステップ 4** OK ボタンをクリックします。

CDR-CMR Search Results ウィンドウが表示されます。検索結果が 100 レコードを超える場合は、結果を切り捨てることを示すメッセージが表示されます。

**ステップ 5** CMR データを表示するには、**Others** ボタンをクリックします。CDR および CMR の両方のデータフィールドを表示するには、**View** ボタンをクリックします。

**ステップ 6** レポートを電子メール受信者にメールで送信するには、P.5-15 の「レポートのメール送信」の手順に従います。

#### 追加情報

P.8-10 の「関連トピック」を参照してください。

## ゲートウェイによる CDR の検索の設定

CAR 管理者だけがゲートウェイによる CDR の検索機能を使用します。

この項では、特定のゲートウェイ タイプを基準として、または選択したルート パターンを使用するゲートウェイを基準として CDR データを検索する方法について説明します。



#### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混在している時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

#### 手順

**ステップ 1** CDR > Search > By Gateway を選択します。

CDR Search by Gateway ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次のいずれかを実行します。

- システム内に設定されているすべてのゲートウェイを表示するには、ウィンドウの左側のコラムで **Gateway Types** をクリックします。
- ツリー構造を展開し、選択可能なゲートウェイのタイプを表示するには、Gateway Types の隣にあるアイコンをクリックします。
- ゲートウェイ タイプではなく、特定のルート パターン / ハント パイロットを使用するゲートウェイを選択するには、ウィンドウの左側のコラムで **Route Patterns/Hunt Pilots** をクリックします。設定済みのルート パターン / ハント パイロットに関連付けられているゲートウェイが表示されます。
- ツリー構造を展開し、選択可能なルート パターン / ハント パイロットを表示するには、Route Patterns/Hunt Pilots の隣にあるアイコンをクリックします。



#### (注)

ウィンドウの左側のコラムで Route Patterns/Hunt Pilots ボックスにルート パターン / ハント パイロットの名前の一部を入力して、特定のルート パターン / ハント リストを検索することもできます。CAR が、検索文字列に一致するルート パターン / ハント リストを検索します。

## ■ ゲートウェイによる CDR の検索の設定

**ステップ 3** リストからゲートウェイ タイプを選択します。

ゲートウェイ名が List of Gateways ボックスに表示されます。



**(注)** List of Gateways ボックスには、選択したゲートウェイ タイプに設定されたゲートウェイを最大 200 まで表示できます。

**ステップ 4** List of Gateways ボックスで、レポートに含めるゲートウェイを選択します。



**(注)** 1 度に最大 15 のゲートウェイに関するレポートを生成できます。

**ステップ 5** 選択されたゲートウェイを Selected Gateways リスト ボックスに移動するには、下矢印アイコンをクリックします。

選択したゲートウェイが、Selected Gateways ボックスに表示されます。

**ステップ 6** CDR データを検索する期間の日付および時間の範囲を選択します。

**ステップ 7** OK ボタンをクリックします。

CDR-CMR Results ウィンドウが表示されます。検索結果が 100 レコードを超える場合は、結果を切り捨てることを示すメッセージが表示されます。

**ステップ 8** CMR データを表示するには、**Others** ボタンをクリックします。CDR および CMR の両方のデータフィールドを表示するには、**View** ボタンをクリックします。

**ステップ 9** レポートを電子メール受信者にメールで送信するには、[P.5-15](#) の「**レポートのメール送信**」の手順に従います。

---

#### 追加情報

[P.8-10](#) の「**関連トピック**」を参照してください。

## コール終了原因による CDR の検索の設定

CAR 管理者だけがコール終了原因による CDR の検索機能を使用します。

この項では、コールの終了原因に関する情報を検索する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** CDR > Search > By Cause for Call Termination を選択します。

Cause for Call Termination ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** コールの終了原因を検索するには、コールの終了原因のリストで、原因を強調表示します。



**ヒント** キーボードの Ctrl キーを押しながら原因をクリックしていくと、複数の原因を選択できます。Shift キーを押しながらすべての原因をクリックしていった、リスト内のすべての原因を選択することもできます。

**ステップ 3** 必要な原因が強調表示された状態で、Selected Call Termination Causes ボックスの上にある下矢印アイコンをクリックします。

選択した原因が Selected Call Termination Causes リスト ボックスに表示されます。

**ステップ 4** CDR データを検索する期間の日付および時間の範囲を選択します。

**ステップ 5** OK をクリックします。

Call Termination Details ウィンドウに、レポートが生成されたときのレポート基準とともに、所定の期間に発信されたコールの合計数、および選択した原因コードごとのコール レッグの数とコール レッグの割合 (%) が表示されます。

**ステップ 6** CDR を表示するには、P.8-6 の「[コール終了の詳細の表示](#)」を参照してください。

### 追加情報

P.8-10 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## コール終了の詳細の表示

この項では、コール終了の詳細を表示する方法について説明します。

### 始める前に

P.8-5 の「[コール終了原因による CDR の検索の設定](#)」の手順に従って、Call Termination Details ウィンドウを表示します。

### 手順

- 
- ステップ 1** Select CDRs フィールドで、表示する個々の CDR の横にあるチェックボックスをオンにします。リストに含まれているすべての CDR を表示する場合は、Select CDRs チェックボックスをオンにします。表示する CDR の選択が終了したら、View CDRs をクリックします。

CDR-CMR Search Results ウィンドウが表示されます。

このウィンドウから **Others** リンクと **View** リンクをクリックすると、メディア情報および CDR-CMR ダンプレコードを表示できます。CDR 検索結果レポートの見方については、P.10-21 の「[CDR の検索の結果について](#)」を参照してください。

- ステップ 2** レポートを電子メールで送信するには、Send Report をクリックし、P.5-15 の「[レポートのメール送信](#)」で説明している手順に従います。
- 

### 追加情報

P.8-10 の「[関連トピック](#)」を参照してください。



## コールの優先レベルによる CDR の検索の設定

CAR 管理者だけがコールの優先レベルによる CDR の検索機能を使用します。

この項では、コールの優先順位を基準としてコールを検索する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** CDR > Search > By Call Precedence Level を選択します。

CDR Search by Precedence Levels ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Select Precedence Levels で、表 8-1 の説明に従って、検索するコール優先レベルのチェックボックスをオンにします。

表 8-1 コールの優先レベル

音声品質	説明
Flash Override	MLPP コールにおける最高の優先順位設定。
Flash	MLPP コールにおける上から 2 番目の優先順位設定。
Immediate	MLPP コールにおける上から 3 番目の優先順位設定。
Priority	MLPP コールにおける上から 4 番目の優先順位設定。
Routine	MLPP コールにおける最低の優先順位設定。



(注) すべての優先レベルのチェックボックスをオンにするには、**Select All** をクリックします。すべてのチェックボックスをオフにするには、**Clear All** をクリックします。

**ステップ 3** From Date フィールドで、CDR 検索範囲の開始点となる日時を選択します。

**ステップ 4** To Date フィールドで、CDR 検索範囲の終了点となる日時を選択します。

**ステップ 5** OK をクリックします。

Call Precedence Details ウィンドウが表示され、コールの優先レベルと値、コール レッグの数、およびコール レッグの割合 (%) が示されます。

**ステップ 6** Select CDRs column カラムで、確認する CDR のチェックボックスをオンにします。

**ステップ 7** View CDRs をクリックします。

CDR-CMR Search by Precedence Levels - CDR-CMR Search Results ウィンドウが表示されます。検索結果が 100 レコードを超える場合は、結果を切り捨てることを示すメッセージが表示されます。

**ステップ 8** CMR データを表示するには、**Others** ボタンをクリックします。CDR および CMR の両方のデータフィールドを表示するには、**View** ボタンをクリックします。

**ステップ 9** レポートを電子メール受信者にメールで送信するには、**Send Report** をクリックし、[P.5-15 の「レポートのメール送信」](#)の手順に従います。

---

#### 追加情報

[P.8-10 の「関連トピック」](#)を参照してください。

## 迷惑呼による CDR の検索の設定

CAR 管理者だけが迷惑呼による CDR の検索機能を使用します。

この項では、迷惑呼を検索する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** CDR > Search > Malicious Calls を選択します。

CDR Search for Malicious calls ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次のいずれかを実行します。

- Select Extension(s) ボックスで、Extension フィールドに内線を入力し、Add Extension をクリックします。  
ユーザの内線が Selected Extension(s) ボックスに表示されます。
- ユーザの内線を検索するには、Search Extension(s) based on User(s) リンクをクリックし、姓または名の最初の何文字かを First Name フィールドや Last Name のフィールドの一方または両方に入力して、Search ボタンをクリックします。結果が表示されたら、レポートに含める結果の隣にある Select リンクをクリックします。ユーザに関連付けられている内線番号が、Selected Extension(s) ボックスに表示されます。Close ボタンをクリックします。



**(注)** 内線を削除するには、削除する内線を選択し、Remove Extension(s) をクリックします。すべての内線を削除するには、Remove All Extensions をクリックします。

**ステップ 3** CDR データを検索する期間の日付および時間の範囲を選択します。

**ステップ 4** OK をクリックします。

CDR-CMR Search Results ウィンドウが表示されます。検索結果が 100 レコードを超える場合は、結果を切り捨てることを示すメッセージが表示されます。

**ステップ 5** CMR データを表示するには、Others ボタンをクリックします。CDR および CMR の両方のデータフィールドを表示するには、View ボタンをクリックします。

**ステップ 6** レポートを電子メール受信者にメールで送信するには、P.5-15 の「レポートのメール送信」の手順に従います。

### 追加情報

P.8-10 の「関連トピック」を参照してください。

## 関連トピック

- [CDR の検索の結果について \( P.10-21 \)](#)
- [メディア情報 \( P.10-22 \)](#)
- [CDR および CMR のダンプ テーブル \( P.10-22 \)](#)
- [レポートのメール送信 \( P.5-15 \)](#)
- [ユーザの内線による CDR の検索の設定 \( P.8-2 \)](#)
- [ゲートウェイによる CDR の検索の設定 \( P.8-3 \)](#)
- [コール終了原因による CDR の検索の設定 \( P.8-5 \)](#)
- [コール終了の詳細の表示 \( P.8-6 \)](#)
- [コールの優先レベルによる CDR の検索の設定 \( P.8-7 \)](#)
- [迷惑呼による CDR の検索の設定 \( P.8-9 \)](#)



# CHAPTER 9

## CDR/CMR レコードのエクスポートの設定

---

この章では、CDR/CMR レコードをエクスポートする方法について説明します。

Cisco Unified CallManager CDR Analysis and Reporting の CDR メニューにある Export CDR/CMR を使用すると、コンピュータ上の選択した場所に、CDR/CMR ダンプ情報をエクスポートできます。CDR/CMR ダンプは、CSV 形式で作成されます。

次の手順では、CDR/CMR ダンプをファイルにエクスポートする方法について説明します。

### 手順

---

**ステップ 1** CDR Analysis and Reporting で、**CDR >Export CDR/CMR** を選択します。

Export CDR/CMR records ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** From Date と To Date のプルダウン メニューで、CDR/CMR ダンプの日付範囲を選択します。

**ステップ 3** Select records で、CDR チェックボックスと CMR チェックボックスのいずれかまたは両方をオンにします。

**ステップ 4** Export to File をクリックします。

Export CDR/CMR records Result ウィンドウが表示されます。P.9-2 の「[CDR/CMR レコードのエクスポート結果の表示](#)」を参照してください。

---

### 追加情報

P.9-3 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## CDR/CMR レコードのエクスポート結果の表示

次の手順では、CDR/CMR レコードのエクスポート結果を表示する方法について説明します。

### 始める前に

次の手順に進む前に、P.9-1 の「[CDR/CMR レコードのエクスポートの設定](#)」の手順をすべて実行してください。

### 手順

- ステップ 1** Export CDR/CMR record Results ウィンドウで、CDR Dump リンクまたは CMR Dump リンクのいずれかを右クリックします。

次のオプションで構成されるポップアップ ウィンドウが表示されます。

- Open : このオプションでは、CDR/CMR ダンプを含んだ Web ページを同じウィンドウ内に開くことができます。
- Open in a New Window : このオプションでは、CDR/CMR ダンプを含んだ Web ページを新しいウィンドウ内に開くことができます。
- Save Target As... : このオプションでは、CDR/CMR ダンプをコンピュータに保存できます。
- Print Target : このオプションでは、CDR/CMR ダンプを印刷できます。
- Copy Shortcut : このオプションでは、Web ページ ショートカットをコピーして、別のファイルに貼り付けることができます。
- Add to Favorites : このオプションでは、CDR/CMR ダンプを Favorites フォルダに追加することができます。
- Properties : このオプションは、CDR/CMR ダンプ ファイルのプロパティを表示します。

- ステップ 2** ポップアップ ウィンドウで、いずれかのオプションを選択します。

- ステップ 3** CDR/CMR ダンプをコンピュータに保存する場合は、ダンプの保存場所を選択し、Save をクリックします。ダウンロードが完了したら、ダウンロードした場所で見つけて、開くことができます。

- ステップ 4** CDR ダンプと CMR ダンプのいずれかまたは両方を削除するには、Delete File チェックボックスをオンにし、Back または Close のいずれかをクリックします。

ファイルが削除されます。



- (注)** Delete File チェックボックスをオンにしない場合（たとえば、CDR や CMR のダンプ ファイルを削除しないまま残す場合）、バックグラウンド プロセスによってファイルが毎日 1 回削除されます。CDR や CMR のダンプ ファイルはサイズが大きいため、ファイルをローカル ディスクにダウンロードし、サーバからは削除して、サーバ側のディスク使用量を抑えることをお勧めします。

### 追加情報

P.9-3 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

## 関連トピック

- [CDR/CMR レコードのエクスポートの設定 \(P.9-1\)](#)
- [CDR 検索の設定 \(P.8-1\)](#)
- [CDR Analysis and Reporting の設定チェックリスト \(P.1-17\)](#)
- [CDR/CMR レコードのエクスポート結果の表示 \(P.9-2\)](#)

■ 関連トピック





## CAR レポートの結果

この章では、CAR レポートに出力される情報について、レポートのタイプごとに説明します。

- [課金情報の要約レポートの結果 \(P.10-2\)](#)
- [課金情報の詳細レポートの結果 \(P.10-3\)](#)
- [料金別または接続時間別上位 N 件レポートの結果 \(P.10-4\)](#)
- [コール数別上位 N 件レポートの結果 \(P.10-5\)](#)
- [Cisco IPMA アシスタントのコールの使用状況 — 詳細 \(P.10-5\)](#)
- [Cisco IPMA アシスタントのコールの使用状況 — 要約 \(P.10-6\)](#)
- [Cisco IPMA マネージャのコールの使用状況：詳細 \(P.10-7\)](#)
- [Cisco IPMA マネージャのコールの使用状況 — 要約 \(P.10-8\)](#)
- [Cisco IP Phone サービス レポートの結果 \(P.10-8\)](#)
- [QoS 詳細レポートの結果 \(P.10-9\)](#)
- [QoS 要約レポートの結果 \(P.10-10\)](#)
- [ゲートウェイ別 QoS レポートの結果 \(P.10-10\)](#)
- [コールタイプ別 QoS レポートの結果 \(P.10-11\)](#)
- [トラフィック要約レポートの結果 \(P.10-12\)](#)
- [許可コード名のコール詳細 \(P.10-13\)](#)
- [認証レベルのコール詳細 \(P.10-13\)](#)
- [クライアント証明書コードの詳細 \(P.10-13\)](#)
- [迷惑呼の詳細レポートの結果 \(P.10-14\)](#)
- [優先コールの要約レポートの結果 \(P.10-14\)](#)
- [システム概要レポートの結果 \(P.10-15\)](#)
- [CDR エラー レポートの結果 \(P.10-16\)](#)
- [ゲートウェイ詳細レポートの結果 \(P.10-17\)](#)
- [ゲートウェイ要約レポートの結果 \(P.10-18\)](#)
- [ゲートウェイおよびルート使用状況レポートの結果 \(P.10-18\)](#)
- [会議コール詳細レポートの結果 \(P.10-19\)](#)
- [会議ブリッジ使用状況レポートの結果 \(P.10-20\)](#)
- [ボイス メッセージング使用状況レポートの結果 \(P.10-20\)](#)
- [CDR の検索の結果について \(P.10-21\)](#)
- [メディア情報 \(P.10-22\)](#)
- [CDR および CMR のダンプテーブル \(P.10-22\)](#)

## 課金情報の要約レポートの結果

レポートでは、情報をユーザ名別に分類し昇順でリストします。要約レポートには次のフィールドがあります（表 10-1 を参照）。

表 10-1 要約レポートのフィールド

フィールド	説明
コールの分類：コール カテゴリによってクラスが決まります。	
Internal	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、同じ Cisco Unified CallManager ネットワーク内で終了する（ゲートウェイを使用しない）クラスタ内コール
Local	Public Switched Telephone Network（PSTN；公衆電話交換網）を経由して、市外局番を付けずに指定した番号や、ローカルエリアコードのいずれかを含む番号にルーティングされる市内電話
Long Distance	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送られる長距離電話
International	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送られる国際電話
On Net	Cisco Unified CallManager クラスタの 1 つで発信され、別のクラスタで終端する発信クラスタ間コール
Others	フリーダイヤル番号や 911 などの緊急呼び出しを含むその他のすべての発信コール
QoS：Quality of Service（QoS；サービス品質）カテゴリごとのコール数。QoS カテゴリごとに CAR 管理者が設定するパラメータがあります。P.4-6 の「QoS 値の定義」および P.6-6 の「QoS パラメータの設定」を参照してください。	
Good	これらのコールの QoS は、可能な範囲で最高の品質を示します。
Acceptable	これらのコールの QoS は、多少低下しているが、まだ許容範囲内に含まれます。
Fair	これらのコールの QoS は、低下しているが、まだ使用可能範囲内に含まれます。
Poor	これらのコールの QoS は、十分とは言えませんでした。
NA	これらのコールは、既定の QoS カテゴリのどの基準にも一致しません。
Calls：コール分類ごとのコールの数を示します。	
Charge：各コールに関連付けられた料金を示します。CAR 管理者が CAR 評価エンジンに提供するコール料金情報が、料金の基準となります。P.4-2 の「定格エンジンの設定」を参照してください。	

## 課金情報の詳細レポートの結果

レポートでは、情報をユーザ名別に分類し昇順でリストします。詳細レポートには次のフィールドがあります（表 10-2 を参照）。

表 10-2 詳細レポートのフィールド

フィールド	説明
Date and Orig. Time	コールが発信された日付と時刻
Orig.	コールの発信元番号
Dest.	コールが転送された送信先番号
コールの分類：コール カテゴリによってクラスが決まります。	
Internal	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、同じ Cisco Unified CallManager ネットワーク内で終了する（ゲートウェイを使用しない）クラスタ内コール
Local	Public Switched Telephone Network（PSTN; 公衆電話交換網）を經由して、市外局番を付けずに指定した番号や、ローカル エリア コードのいずれかを含む番号にルーティングされる市内電話
Long Distance	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送られる長距離電話
International	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送られる国際電話
On Net	Cisco Unified CallManager クラスタの 1 つで発信され、別のクラスタで終端する発信クラスタ間コール
Others	フリーダイヤル番号や 911 などの緊急呼び出しを含むその他のすべての発信コール
QoS : Quality of Service (QoS; サービス品質) カテゴリごとのコール数。QoS カテゴリごとに CAR 管理者が設定するパラメータがあります。P.4-6 の「QoS 値の定義」および P.6-6 の「QoS パラメータの設定」を参照してください。	
Good	これらのコールの QoS は、可能な範囲で最高の品質を示します。
Acceptable	多少低下しているが、まだ許容範囲内に含まれるコールの QoS。
Fair	低下しているが、まだ使用可能範囲内に含まれるコールの QoS。
Poor	品質が十分とは言えないコールの QoS。
NA	既定の QoS カテゴリのどの基準にも一致しなかったコール。
Duration(s)	コールの接続時間（秒単位）
Charge	各コールに関連付けられた料金。CAR 管理者が CAR 評価エンジンに提供したコール料金情報が、料金の基準となります。P.4-2 の「定格エンジンの設定」を参照してください。

## 料金別または接続時間別上位 N 件レポートの結果

料金別の上位 N 件、および接続時間別の上位 N 件のフィールドは、レポートのタイプによって異なります。これらのレポートは、発信コールのみ示します。表 10-3 を参照してください。

表 10-3 料金別または接続時間別上位 N 件レポートのフィールド

フィールド	説明
<b>個々のユーザ別</b>	
User	ユーザ名
Calls	コールの合計数
Duration(s)	コールの接続時間（秒単位）
Charge	各コールに関連付けられた料金。CAR 管理者が CAR 評価エンジンに提供したコール料金情報が、料金の基準となります。P.4-2 の「 <a href="#">定格エンジンの設定</a> 」を参照してください。
<b>送信先別</b>	
Dest	コールの宛先
Call Classification	コール分類ごとのコールの合計数
Calls	コールの合計数
Duration	コールの接続時間（秒単位）
Charge	各コールに関連付けられた料金。CAR 管理者が CAR 評価エンジンに提供したコール料金情報が、料金の基準となります。P.4-2 の「 <a href="#">定格エンジンの設定</a> 」を参照してください。
<b>コール数別</b>	
User	ユーザ名
Date	コールの発生日
Orig Time	コールの発信時刻
Orig	コールの発信元
Dest	コールの送信先
Call Classification	コール分類ごとのコールの合計数
Duration	コールの接続時間（秒単位）
Charge	各コールに関連付けられた料金。CAR 管理者が CAR 評価エンジンに提供したコール料金情報が、料金の基準となります。P.4-2 の「 <a href="#">定格エンジンの設定</a> 」を参照してください。

## コール数別上位 N 件レポートの結果

コール数別上位 N 件レポートのフィールドは、レポートのタイプによって異なります。このレポートは、着信コールと発信コールの両方を示します。表 10-4 を参照してください。

表 10-4 コール数別上位 N 件レポートのフィールド

フィールド	説明
<b>個々のユーザ別</b>	
Users	ユーザ名
Duration(s)	コールの接続時間（秒単位）
Charge	該当ユーザの全コールの課金総額。CAR 管理者が CAR 評価エンジンに提供したコール料金情報が、料金の基準となります。P.4-2 の「 <a href="#">定格エンジンの設定</a> 」を参照してください。
Calls Made	ユーザが発信したコールの合計数
Calls Received	ユーザが受信したコールの合計数
Total Calls	着信コールおよび発信コールの合計数
<b>内線別</b>	
Extension No	コールを発信および受信した内線
Charge	該当ユーザの全コールの課金総額。CAR 管理者が CAR 評価エンジンに提供したコール料金情報が、料金の基準となります。P.4-2 の「 <a href="#">定格エンジンの設定</a> 」を参照してください。
Duration	コールの接続時間（秒単位）
Calls Made	ユーザが発信したコールの合計数
Calls Received	ユーザが受信したコールの合計数
Total Calls	着信コールおよび発信コールの合計数

## Cisco IPMA アシスタントのコールの使用状況 — 詳細

このレポートは、アシスタントが自分で処理したコールの数、アシスタントが各マネージャの代理で処理したコールの数、およびアシスタントが処理したコールの合計数を示します。レポートでは、アシスタントが処理したコール、およびアシスタントがマネージャの代理で処理したコールに関する情報は、グループ化されています。詳細レポートには次のフィールドがあります(表 10-5 を参照)。

表 10-5 詳細レポートのフィールド

フィールド	説明
Date	コールの発信日
Orig.Time	コールの発信時刻
Orig.	コールの発信元番号
Dest.	コールが転送された送信先番号
Call Classification	コールのタイプ（internal、incoming など）
Duration (sec)	コールの接続時間（秒単位）

## Cisco IPMA アシスタントのコールの使用状況 — 要約

このレポートは、アシスタントが自分で処理したコール、およびアシスタントがマネージャの代理で処理したコールに関する情報を示します。レポートでは、コールの情報はアテンダントの名前別にグループ化されています。要約レポートには次のフィールドがあります（表 10-6 を参照）。

表 10-6 詳細レポートのフィールド

フィールド	説明
Assistant-Extn/Manager	アシスタント名と電話番号を示します。アシスタントがマネージャの代理でコールを処理した場合は、マネージャ名が表示されます。
コールの分類：コール カテゴリによってクラスが決まります。	
Internal	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、同じ Cisco Unified CallManager ネットワーク内で終了する（ゲートウェイを使用しない）クラスタ内コール
Local	Public Switched Telephone Network（PSTN; 公衆電話交換網）を経由して、市外局番を付けずに指定した番号や、ローカル エリア コードのいずれかを含む番号にルーティングされる市内電話
Long Distance	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される長距離電話
International	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される国際電話
Incoming	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入ってきた着信コール
On Net	Cisco Unified CallManager クラスタの 1 つで発信され、別のクラスタで終端する発信クラスタ間コール
Others	フリーダイヤル番号や 911 などの緊急呼び出しを含むその他のすべての発信コール
Calls	アシスタントが処理したコール、またはアシスタントがマネージャの代理で処理したコールの数
Duration (sec)	特定のコール分類の全コールの期間の合計

## Cisco IPMA マネージャのコールの使用状況：詳細

このレポートは、マネージャが自分で処理したコール、およびアシスタントがマネージャの代理で処理したコールに関する情報を示します。レポートでは、情報はアシスタント名別にまとめられ、マネージャが処理したコールとアシスタントがマネージャの代理で処理したコールの合計数が示されます。詳細レポートには次のフィールドがあります（表 10-7 を参照）。

表 10-7 詳細レポートのフィールド

フィールド	説明
Date	コールの発信日
Orig.Time	コールの発信時刻
Orig.	コールの発信元番号
Dest.	コールが転送された送信先番号
Call Classification	コールのタイプ（internal、incoming など）
Duration (sec)	コールの接続時間（秒単位）

## Cisco IPMA マネージャのコールの使用状況 — 要約

このレポートは、マネージャが自分で処理したコール、およびアシスタントがマネージャの代理で処理したコールに関する情報を示します。レポートでは、情報はマネージャ名別にまとめられ、各マネージャの処理されたコールの合計数が示されます。このレポートには次のフィールドがあります（表 10-8 を参照）。

表 10-8 詳細レポートのフィールド

フィールド	説明
Manager-Extn/Assistant	マネージャ名と電話番号を示します。アシスタントがマネージャの代理でコールを処理した場合は、アシスタント名が表示されます。
コールの分類：コール カテゴリによってクラスが決まります。	
Internal	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、同じ Cisco Unified CallManager ネットワーク内で終了する（ゲートウェイを使用しない）クラスタ内コール
Local	Public Switched Telephone Network（PSTN；公衆電話交換網）を経由して、市外局番を付けずに指定した番号や、ローカルエリアコードのいずれかを含む番号にルーティングされる市内電話
Long Distance	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される長距離電話
International	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される国際電話
Incoming	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入ってきた着信コール
On Net	Cisco Unified CallManager クラスタの 1 つで発信され、別のクラスタで終端する発信クラスタ間コール
Others	フリーダイヤル番号や 911 などの緊急呼び出しを含むその他のすべての発信コール
Calls	アシスタントまたはマネージャが処理したコールの数
Duration	特定のコール分類の全コールの期間の合計

## Cisco IP Phone サービス レポートの結果

Cisco Unified IP Phone サービス レポートには、次のフィールドがあります。表 10-9 を参照してください。

表 10-9 Cisco Unified IP Phone サービス レポートのフィールド

フィールド	説明
Cisco IP Phone Services	選択したサービスの名前
Number of Subscribers	所定のサービスの加入者の合計数
% Subscription	すべてのサービスの合計登録者数の中で、所定のサービスに登録しているユーザの割合



## QoS 詳細レポートの結果

QoS 詳細レポートには次のフィールドがあります。表 10-10 を参照してください。

表 10-10 QoS 詳細レポートのフィールド

フィールド	説明
Orig.Time	コールの発信時刻（時、分、秒。24 時間制）
Term.Time	コールの切断時刻（時、分、秒。24 時間制）
Duration(s)	コールの接続時間（秒単位）
Orig.	コールの発信元番号
Dest.	コールが転送された送信先番号
コールの分類：コール カテゴリによってクラスが決まります。	
Internal	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、同じ Cisco Unified CallManager ネットワーク内で終了する（ゲートウェイを使用しない）クラスタ内コール
Local	Public Switched Telephone Network（PSTN; 公衆電話交換網）を經由して、市外局番を付けずに指定した番号や、ローカル エリア コードのいずれかを含む番号にルーティングされる市内電話
Long Distance	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される長距離電話
International	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される国際電話
On Net	Cisco Unified CallManager クラスタの 1 つで発信され、別のクラスタで終端する発信クラスタ間コール
Incoming	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを經由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入ってきた着信コール
Tandem	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを經由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入り、さらに Cisco Unified CallManager ネットワークから発信されゲートウェイ経由で転送された発信コール
Others	フリーダイヤル番号や 911 などの緊急呼び出しを含むその他のすべての発信コール
Orig.Codec	発信側デバイスが使用しているコーデック
Dest.Codec	送信先デバイスが使用しているコーデック
Orig.Device	コールを発信したデバイスの名前
Dest.Device	コールを受信したデバイスの名前
Orig.QoS	コールを発信したデバイスにおける音声品質
Dest.QoS	コールを受信したデバイスにおける音声品質

## QoS 要約レポートの結果

QoS 要約レポートには次のフィールドがあります。表 10-11 を参照してください。

表 10-11 QoS 要約レポートのフィールド

フィールド	説明
Quality of Service ( QoS; サービス品質 )	コールの QoS
Call Legs	QoS フィールドに示されている QoS を持ったコールレッグの数

## ゲートウェイ別 QoS レポートの結果

ゲートウェイ別 QoS レポートは、次の情報を提供します。表 10-12 を参照してください。

表 10-12 ゲートウェイ別 QoS レポートのフィールド

フィールド	説明
Time/Day	選択した日付範囲の該当日の時間数、該当週の日数、または該当月の日数の累計を示します。
% of Call Legs	選択した日付範囲の該当日の時間数、該当週の日数、または該当月の日数の間の各ゲートウェイのコール数の割合 (%) を表示します。

## コールタイプ別 QoS レポートの結果

コールタイプ別 QoS レポートは、次の情報を提供します。表 10-13 を参照してください。

表 10-13 コールタイプ別 QoS レポートのフィールド

フィールド	説明
Time/Day	選択した日付範囲の該当日の時間数、該当週の日数、または該当月の日数の累計
% of Call Legs	選択した日付範囲の該当日の時間数、該当週の日数、または該当月の日数の間の各ゲートウェイのコール数の割合 (%)
Internal	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、同じ Cisco Unified CallManager ネットワーク内で終了する (ゲートウェイを使用しない) クラスタ内コール
Local	Public Switched Telephone Network (PSTN; 公衆電話交換網) を経由して、市外局番を付けずに指定した番号や、ローカルエリアコードのいずれかを含む番号にルーティングされる市内電話
Long Distance	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される長距離電話
International	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される国際電話
On Net	Cisco Unified CallManager クラスタの 1 つで発信され、別のクラスタで終端する発信クラスタ間コール
Incoming	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入ってきた着信コール
Tandem	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入り、さらに Cisco Unified CallManager ネットワークから発信されゲートウェイ経由で転送された発信コール
Others	フリーダイヤル番号や 911 などの緊急呼び出しを含むその他のすべての発信コール

## トラフィック要約レポートの結果

トラフィック要約レポートと内線別トラフィック要約レポートには、同じ情報が含まれており、次のフィールドの一部または全部が含まれています。表 10-14 を参照してください。

表 10-14 トラフィック要約レポートのフィールド

フィールド	説明
Time/Day	選択した日付範囲の該当日の時間数、該当週の日数、または該当月の日数の累計
Average Number of Calls	選択した日付範囲の該当日の時間数、該当週の日数、または該当月の日数の間の各ゲートウェイのコール数の割合 (%)
Internal	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され、同じ Cisco Unified CallManager ネットワーク内で終了する (ゲートウェイを使用しない) クラスタ内コール
Local	Public Switched Telephone Network (PSTN; 公衆電話交換網) を経由して、市外局番を付けずに指定した番号や、ローカル エリア コードのいずれかを含む番号にルーティングされる市内電話
Long Distance	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される長距離電話
International	Cisco Unified CallManager ネットワークで発信され PSTN 経由で送出される国際電話
On Net	Cisco Unified CallManager クラスタの 1 つで発信され、別のクラスタで終端する発信クラスタ間コール
Incoming	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入ってきた着信コール
Tandem	Cisco Unified CallManager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified CallManager ネットワークに入り、さらに Cisco Unified CallManager ネットワークから発信されゲートウェイ経由で転送された発信コール
Others	フリーダイヤル番号や 911 などの緊急呼び出しを含むその他のすべての発信コール
Total	時間または日ごとのコールの合計数

## 許可コード名のコール詳細

このレポートは、特定の許可コード名の使用状況を示します。セキュリティを確保するため、許可コード名（説明）は表示されますが、許可コードは表示されません。詳細レポートには次のフィールドがあります（表 10-15 を参照）。

表 10-15 詳細レポートのフィールド

フィールド	説明
Orig.	コールの発信元番号
Dest.	コールが転送された送信先番号
Orig.Date Time	コールが発信された日付と時刻
Duration (sec)	コールの接続時間（秒単位）
Call Classification	コールのタイプ（internal、incoming など）
Authorization Level	選択した各許可コード名のコールに対する認証レベル

## 認証レベルのコール詳細

このレポートは、特定の認証レベルの使用状況を示します。詳細レポートには次のフィールドがあります（表 10-16 を参照）。

表 10-16 詳細レポートのフィールド

フィールド	説明
Orig.	コールの発信元番号
Dest.	コールが転送された送信先番号
Orig.Date Time	コールが発信された日付と時刻
Duration (sec)	コールの接続時間（秒単位）
Call Classification	コールのタイプ（internal、incoming など）
Authorization Code Name	選択した各認証レベルの許可コード名

## クライアント証明書コードの詳細

このレポートは、特定のクライアント証明書コードの使用状況を示します。詳細レポートには次のフィールドがあります（表 10-17 を参照）。

表 10-17 詳細レポートのフィールド

フィールド	説明
Orig.	コールの発信元番号
Dest.	コールが転送された送信先番号
Orig.Date Time	コールが発信された日付と時刻
Duration (sec)	コールの接続時間（秒単位）
Call Classification	コールのタイプ（internal、incoming など）

## 迷惑呼の詳細レポートの結果

迷惑呼の詳細レポートは、迷惑呼に関する情報を提供します。レポートには次のフィールドがあります。表 10-18 を参照してください。

表 10-18 迷惑呼の詳細レポートのフィールド

フィールド	説明
Orig.Time	迷惑呼の発信時刻
Term.Time	迷惑呼の終了時刻
Duration	迷惑呼の合計時間（秒単位）
Orig.	発信側の DN
Dest.	送信先の DN
Orig.Device	発信側デバイスの名前
Dest.Device	送信先デバイスの名前
Call Classification	迷惑呼の分類

## 優先コールの要約レポートの結果

優先コールの要約レポートは、優先レベルを基準として、コールに関する情報を提供します。このレポートには、優先順位値を基準としたコール要約が、Hour of Day、Day of Week、または Day of Month で区分され、選択した優先レベルごとに棒グラフ形式で表示されます。レポートには、2 つの表が表示されます。1 つは棒グラフを反映したもので、もう 1 つは、選択した優先レベルごとのコール数と割合（%）をリストしたものです。

表 10-19 優先コールの要約レポートのフィールド

フィールド	説明
Time/Day	選択した日付範囲の該当日の時間数、該当週の日数、または該当月の日数の累計を示します。
Call Legs	時間、曜日、または日付別の、優先レベルごとのコール数
Precedence Level	コールの優先レベル値
No. of Call Legs	優先レベルごとのコール レッグの数
Percentage	優先レベルごとのコール レッグの割合（%）

## システム概要レポートの結果

システム概要は、Cisco Unified CallManager ネットワークのすべての部分に関する情報を提供します。レポートには次の項があります。表 10-20 を参照してください。

表 10-20 システム概要レポート

フィールド	説明
Top 5 Users based on Charge	指定した日付範囲に発生したコールに関して、課金が多かった上位 5 人のユーザの詳細を示します。システム概要レポートのこの項の詳細については、P.10-4 の「料金別または接続時間別上位 N 件レポートの結果」を参照してください。
Top 5 Destinations based on Charge	指定した日付範囲に発生したコールに関して、課金が多かった上位 5 件の着信番号の詳細を示します。システム概要レポートのこの項の詳細については、P.10-4 の「料金別または接続時間別上位 N 件レポートの結果」を参照してください。
Top 5 Calls based on Charge	指定した日付範囲に発生したコールに関して、課金が多かった上位 5 件のコールの詳細を示します。システム概要レポートのこの項の詳細については、P.10-4 の「料金別または接続時間別上位 N 件レポートの結果」を参照してください。
Top 5 Users based on Duration	指定した日付範囲に発生したコールに関して、接続時間が長かった上位 5 人のユーザの詳細を示します。システム概要レポートのこの項の詳細については、P.10-4 の「料金別または接続時間別上位 N 件レポートの結果」を参照してください。
Top 5 Destinations based on Duration	指定した日付範囲に発生したコールに関して、接続時間が長かった上位 5 件の着信番号の詳細を示します。システム概要レポートのこの項の詳細については、P.10-4 の「料金別または接続時間別上位 N 件レポートの結果」を参照してください。
Top 5 Calls based on Duration	指定した日付範囲において、接続時間が長かった上位 5 件の詳細を示します。システム概要レポートのこの項の詳細については、P.10-4 の「料金別または接続時間別上位 N 件レポートの結果」を参照してください。
Traffic Summary Report - Hour of Day	時間を基準として、指定した日付範囲におけるコールの量を示します。システム概要レポートのこの項の詳細については、P.10-12 の「トラフィック要約レポートの結果」を参照してください。
Traffic Summary Report - Day of Week	曜日を基準として、指定した日付範囲におけるコールの量を示します。システム概要レポートのこの項の詳細については、P.10-12 の「トラフィック要約レポートの結果」を参照してください。
Traffic Summary Report - Day of Month	日付を基準として、指定した日付範囲におけるコールの量を示します。システム概要レポートのこの項の詳細については、P.10-12 の「トラフィック要約レポートの結果」を参照してください。

表 10-20 システム概要レポート (続き)

フィールド	説明
Quality of Service Report - Summary	指定した日付範囲において、各音声品質カテゴリに該当するコールの数を示します。システム概要レポートのこの項の詳細については、P.10-10 の「QoS 要約レポートの結果」を参照してください。
Gateway Summary Report	指定した日付範囲における各ゲートウェイのコール分類の要約を、ゲートウェイのそれぞれの分類の QoS、コール数、および接続時間とともに示します。システム概要レポートのこの項の詳細については、P.10-10 の「ゲートウェイ別 QoS レポートの結果」を参照してください。

## CDR エラー レポートの結果

CDR エラー レポートは、次の情報を提供します。表 10-21 を参照してください。

表 10-21 CDR エラー レポートのフィールド

フィールド	説明
Time	指定した日におけるエラー発生時刻
No of Error CDRs	CAR へのロード中に、エラーのため処理されなかった CDR データレコードの合計数
No of Valid CDRs	CAR へ正常にロードされた CDR データレコードの合計数
% of Error CDRs	ロードされたすべての CDR データレコードの中で、エラーを含む CDR データレコードの割合 (%)
Error Description	システムが CDR データレコードをロードしようとしたときに発生したエラー
% of Error CDRs	対応するエラー説明が原因で、エラーになった CDR データレコードの割合 (%)



## ゲートウェイ詳細レポートの結果

ゲートウェイ詳細レポートには次のフィールドがあります。表 10-22 を参照してください。

表 10-22 ゲートウェイ詳細レポートのフィールド

フィールド	説明
Date	コールがゲートウェイを通過した日付。
Orig.Time	コールがゲートウェイを通過した時刻。
Term.Time	コールの終了時刻。
Duration(s)	コールの接続時間 (秒単位)。この接続時間は、Dest Connect と Dest Disconnect の時刻の差です。
Orig	コールの発信元番号。
Dest	コールの送信先番号。コールが転送されていない場合、この電話番号は Final Destination の番号と一致します。コールが転送されている場合、このフィールドには、コール転送前の元の送信先番号が含まれています。
Orig.Codec	コール発信者がこのコール中に送信側で使用した、コーデック タイプ (圧縮またはペイロードのタイプ)。このタイプは、受信側で使用されたコーデック タイプとは異なる場合があります。
Dest.Codec	送信先がこのコール中に送信時に使用した、コーデック タイプ (圧縮またはペイロードのタイプ)。このタイプは、受信側で使用されたコーデック タイプとは異なる場合があります。
Orig.Device	コールを発信したデバイスの名前。着信コールおよびタンデム コールの場合、このフィールドはゲートウェイのデバイス名を示します。
Dest Device	コールを受信したデバイスの名前。発信コールおよびタンデム コールの場合、このフィールドはゲートウェイのデバイス名を示します。会議コールの場合、このフィールドは会議ブリッジのデバイス名を示します。
Orig QoS	QoS は、コールで達成された音声品質のグレードを示します。
Dest QoS	コール受信者における QoS カテゴリ。

## ゲートウェイ要約レポートの結果

ゲートウェイ要約レポートには次のフィールドがあります。表 10-23 を参照してください。



(注)

ゲートウェイ要約レポートは、ユーザの選択するコール分類ごとにコールを区別し、QoS タイプに基づいてコールを区分します。

表 10-23 ゲートウェイ要約レポートのフィールド

フィールド	説明
Call Classification	コールのタイプ ( internal、incoming、および tandem ) を示します。
Quality of Service ( QoS; サービス品質 )	音声品質カテゴリごとのコール数を示して、さまざまなゲートウェイのパフォーマンスの要約を示します。P.4-6 の「QoS 値の定義」で設定するパラメータが、すべての音声品質カテゴリの基準になります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Good : これらのコールの QoS は、可能な範囲で最高の品質を示します。</li> <li>• Acceptable : これらのコールの QoS は、多少低下しているが、まだ許容範囲内に含まれます。</li> <li>• Fair : これらのコールの QoS は、低下しているが、まだ使用可能範囲内に含まれます。</li> <li>• Poor : これらのコールの QoS は、十分とは言えませんでした。</li> <li>• NA : これらのコールは、既定の QoS カテゴリのどの基準にも一致しませんでした。</li> </ul>
Calls	特定のコール分類のコール合計数を示します。
Duration(s)	特定のコール分類の全コールの期間の合計を示します。

## ゲートウェイおよびルート使用状況レポートの結果

ゲートウェイ、ルートグループ、ルートリスト、およびルートパターン使用状況レポートが提供する出力は、互いに類似しています。これらのレポートを CSV 形式で生成した場合、レポートは表を表示します。PDF を選択した場合、レポートは使用率を棒グラフで表示します。グラフは、選択したゲートウェイまたはルートグループごとに表示されます。表 10-24 を参照してください。

表 10-24 ゲートウェイおよびルート使用状況レポートのフィールド

フィールド	説明
Time/Day	Hourly を選択した場合は 1 時間単位、weekly または monthly を選択した場合は 1 日単位の時間。この結果は、開始日および終了日で示されている期間全体における、1 時間ごとまたは 1 日ごとの使用状況を示します。
% of Calls	ゲートウェイ、ルートグループ、ルート、リスト、またはルートパターンの使用率。このフィールドは、すべてのゲートウェイを合せて一度にサポートできるコール合計数と対照したときの、ゲートウェイ、ルートグループ、ルートリスト、またはルートパターンの累積使用率を示します。

## 会議コール詳細レポートの結果

会議コールの情報については、要約または詳細レポートのどちらで生成するかを選択できます。このレポートは、CSV 形式と PDF 形式のどちらで生成するように選択しても、コールの詳細を表形式で表示します。次の表に、会議コール詳細レポートと要約レポートのフィールドを示します。



(注)

レポートの基準には、会議のタイプ (アドホックと Meet-Me のいずれかまたは両方) および From と To の日付範囲があります。

表 10-25 会議コール詳細レポートと要約レポートのフィールド

フィールド	説明
Orig.Time	最初の参加者が会議に入室した時刻
Term.Time	最後の参加者が会議を退席した時刻
No. of Participants	会議の参加者数
Duration	会議の個々の参加者の接続時間の合計 (秒単位)
Device Name	使用された会議機器の名前

表 10-26 会議コール詳細レポートのフィールド

フィールド	説明
Conference Start Time	会議の開始時刻
Conference End Time	会議の終了時刻
Connect Time	会議参加者が会議に接続した時刻
Disconnect Time	会議参加者が会議から切断された時刻
Duration	会議の合計時間
Directory Number	参加者の電話番号
Call Classification	会議のコールのタイプ (internal、incoming など)
Device Name	使用された会議機器の名前
QoS	Quality of Service (QoS; サービス品質)

## 会議ブリッジ使用状況レポートの結果

レポートには次のフィールドがあります。CSV 出力を選択した場合、レポートは使用率を表形式で表示します。PDF を選択した場合、レポートは使用率を棒グラフで表示します。表 10-27 を参照してください。

表 10-27 会議ブリッジ使用状況レポートのフィールド

フィールド	説明
Time/Day	Hourly を選択した場合は 1 時間単位、曜日または毎日を選択した場合は 1 日単位の時間
% Usage	会議ブリッジの使用率
Conf. Bridge	会議コールの維持に使用された会議ブリッジ デバイス
Type	ハードウェアまたはソフトウェアの会議ブリッジ
Max Streams	一度に開催可能な会議の数、および 1 会議あたりの参加者数

## ボイス メッセージング使用状況レポートの結果

レポートには次のフィールドがあります。CSV 出力を選択した場合、レポートは使用率を表形式で表示します。PDF を選択した場合、レポートは使用率を棒グラフで表示します。表 10-28 を参照してください。

表 10-28 ボイス メッセージング使用状況レポートのフィールド

フィールド	説明
% Usage	ボイス メッセージングの使用率
Time/Day	Hourly を選択した場合は 1 時間単位、曜日または毎日を選択した場合は 1 日単位の時間
Voice Messaging Ports	Octel ボイス メッセージング用に設定されたルート パターンのすべてのゲートウェイの最大ポート数、および Cisco Unified CallManager の Device テーブルで Class タイプが 8 になっているエントリの合計
Voice Messaging Gateways	Octel システム用に設定されたルート パターンに含まれる、発信側または着信側のゲートウェイのデバイス名
Number of Ports	ボイス メッセージング ゲートウェイがサポートするポートの数

## CDR の検索の結果について

P.10-21 の「CDR の検索の結果について」、P.10-22 の「メディア情報」、および P.10-22 の「CDR および CMR のダンプテーブル」の各項では、CDR の検索の結果について説明します。

### CDR の検索の結果について

CDR の検索を使用すると、P.10-22 の「CDR および CMR のダンプテーブル」で説明している CDR と CMR のフィールドを表示できます。CDR の検索では、CAR データベースの tbl\_billing\_data テーブルと tbl\_billing\_error テーブルから CDR/CMR ファイルを取得します。

表 10-29 を参照してください。

表 10-29 CDR の検索の結果

フィールド	説明
SI No	このフィールドは、シリアル番号またはレコード番号を示します。
Call Type	このフィールドは、コールのタイプ（シンプル、転送、自動転送、ピックアップ、会議、参照、置換、またはリダイレクト）を示します。
GCID_CMId GCID_CallId	このフィールドは、コール全体のすべてのフィールドに関連付けられている、コールの識別子を示します。
Orig Node Id Dest Node Id	このフィールドは、コールの発信者または送信先がコール時に登録された、Cisco Unified CallManager クラスタ内のノードを示します。
Orig Leg Id Dest Leg Id	このフィールドは、コールの発信レッグまたは着信レッグの（クラスタ内における）一意識別子を示します。
Calling No Calling Partition	発信番号は、コール発信元の電話番号を示します。発信パーティションは、発信側に関連付けられているパーティションを示します。
Called No Called Partition	着信番号は、コールが最初に発信された時点での電話番号を示し、コールが転送または自動転送されていない場合は、Dest No と同じです。着信パーティションは、着信側に関連付けられているパーティションを示します。
Dest No Dest No Partition	送信先番号は、コールが最終的に終端した場所の電話番号を示し、コールが転送または自動転送されていない場合は、着信番号と同じです。送信先番号のパーティションは、送信先番号に関連付けられているパーティションを示します。
Last Rd. No Last Rd. No Partition	最後のリダイレクト番号は、コールの最後のリダイレクト元となった場所の電話番号を示します。最後のリダイレクト番号のパーティションは、最後のリダイレクト番号に関連付けられているパーティションを示します。
Media Info Orig Pkts Rcd Dest Pkts Rcd Orig Pkts Lost Dest Pkts Lost	このフィールドは、コールの発信レッグと着信レッグで受信されたか失われたパケットを示し、メディア情報へのリンクを提供します。CDR および CMR のダンプテーブルについては、P.10-22 の「CDR および CMR のダンプテーブル」を参照してください。
CDR - CMR Dump	このフィールドは、CDR および CMR のダンプテーブルへのリンクを提供します。このリンクを使用すると、CDR や CMR のフィールドの値を表示できます。CDR および CMR のダンプテーブルについては、P.10-22 の「CDR および CMR のダンプテーブル」を参照してください。

## メディア情報

メディア情報の表は、次の情報を提供します。表 10-30 を参照してください。

表 10-30 CDR のメディア情報

フィールド	説明
Origination Leg	コールの発信レッグの（クラスタ内における）一意識別子
Destination Leg	コールの着信レッグの（クラスタ内における）一意識別子
Parameter	メディアパラメータ（MediaTransportAdd_IP、PayLoadCapability、MediaCap_g723BitRate、packets sent、octets sent、packets received、octets received、packets lost、jitter、latency、VideoCap_Codec、VideoCap_Bandwidth、VideoCap_Resolution、VideoTransportAddress_IP、VideoTransportAddress_Port、および QoS）
Origination	コールの発信レッグに関する、上のすべてのパラメータの値
Destination	コールの着信レッグに関する、上のすべてのパラメータの値

## CDR および CMR のダンプテーブル

CDR と CMR のダンプテーブルは、次の情報を提供します。表 10-31 を参照してください。



(注)

音声品質メトリック フィールド var VQMetrics の内容は、Origination CMR フィールドおよび Destination CMR フィールドで閲覧できます。

表 10-31 CDR および CMR のダンプテーブル

フィールド	説明
CDR	このフィールドは、呼詳細レコードのフィールドを示します。
Origination CMR	発信元フィールドと送信先フィールドが 1 セットだけ存在します。レッグ ID を使用して発信元 CMR および送信先 CMR を検索できます。CMR のレッグ ID が CDR の Orig/Dest レッグ ID に一致する場合、それ以降のレコードは Orig/Dest CMR を表わしています。
Destination CMR	発信元フィールドと送信先フィールドが 1 セットだけ存在します。レッグ ID を使用して発信元 CMR および送信先 CMR を検索できます。CMR のレッグ ID が CDR の Orig/Dest レッグ ID に一致する場合、それ以降のレコードは Orig/Dest CMR を表わしています。



## Numerics

1日あたりの料金、通知限度の設定 4-11

## C

### CAR

CDR エラー レポート 6-23  
 CDR エラー レポートの設定 6-23  
 CDR 検索  
   概要 1-13  
   コールの優先レベルによる 8-7  
   設定 8-1  
   迷惑呼 8-9  
 CDR の検索の設定、ゲートウェイによる 8-3  
 CDR の検索の設定、コール終了原因による 8-5  
 CDR の検索の設定、ユーザの内線による 8-2  
 CDR/CMR レコードのエクスポート結果 9-2  
 CDR/CMR レコードの設定 9-1  
 Cisco IP Manager Assistant 使用状況レポート、説明 5-11  
 Cisco IP Phone サービス レポートの設定 5-14  
 Generate Report フィールド 6-6, 6-8, 6-11, 6-13, 6-16  
 Load CDR & CMR の値 3-9  
 QoS 詳細レポート  
   音声品質 6-3, 6-12  
   コールタイプ 6-2  
 QoS 詳細レポートの設定 6-2  
 QoS 値、定義 4-6  
 QoS のデフォルト値 4-6  
 QoS パラメータ  
   コールタイプ 6-9  
   説明 6-6  
 QoS パラメータの演算子 6-24  
 QoS 要約レポート 6-4  
   コールタイプ 6-4  
 QoS 要約レポートの設定 6-4

QoS レポート、説明 6-2  
 uninhibited loading of CDR の値 3-9  
 アシスタントのコール使用状況の設定 5-13  
 イベント ログ レポートの出力パラメータ 3-18  
 イベント ログ レポートのステータス 3-18  
 会議コールの詳細の設定 7-15  
 会議ブリッジの使用状況レポート 7-16  
 概要 2-1  
 管理者、マネージャ、ユーザ 1-6  
 期間別上位 N  
   コールタイプ 5-7  
   レポートタイプ 5-8  
 ゲートウェイ レポート 7-2, 7-9  
 ゲートウェイ別 QoS の設定 6-6  
 ゲートウェイ別 QoS レポート 6-6  
 検索、ユーザ 5-17  
 コールタイプ別 QoS の設定 6-8  
 コールタイプ別 QoS レポート 6-8  
 コール終了の詳細 8-6  
 コール数別上位 N 件の設定 5-9  
 コール数別上位 N  
   コールタイプ 5-9  
   レポートタイプ 5-10  
 個別の課金情報の設定 5-2  
 システム レポート  
   概要 1-9  
 システム レポート、説明 6-1  
 システム ログ画面、説明 3-17  
 システム概要レポート 6-22  
 システム概要レポートの設定 6-22  
 システム構成 1-6, 3-1  
 システム設定のパラメータ 3-7  
 自動データベース消去設定 3-15  
 自動データベース消去のディセーブル化 3-15  
 自動レポート生成と警告の設定 4-8  
 手動データベース消去 3-14  
 上位 N 件、説明 5-5

- 接続時間別上位 N 件の設定 5-7
  - 設定、ゲートウェイ 3-5
  - 説明 1-3
  - ダイヤル プランのデフォルト値 3-4
  - チェックリスト 1-17
  - 通知制限の設定 4-11
  - 定格エンジンの設定 4-2
  - デバイス レポート
    - 概要 1-10
  - デバイス レポート、説明 7-1
  - トピックの一覧 1-1
  - トラフィック レポート
    - 説明 6-10
  - トラフィック要約、コール タイプ 6-11
  - トラフィック要約 (内線)、コール タイプ 6-13
  - トラフィック要約レポート 6-10
  - トラフィック要約レポートの設定 6-10
  - 内線別のトラフィック要約レポート 6-12
  - 内線別のトラフィック要約レポートの設定 6-12
  - 復元、ダイヤル プランのデフォルト値 3-4
  - 復元、データベース消去のデフォルト 3-14
  - 部門の課金情報の設定 5-3
  - ボイス メッセージングの使用状況レポート 7-18
  - マネージャのコール使用状況の設定 5-12
  - 迷惑呼の識別 6-15
  - ユーザ レポート 1-7
  - ユーザ レポート、説明 5-1
  - 優先コール要約 6-16
  - 料金別上位 N 件の設定 5-5
  - 料金別上位 N
    - コール タイプ 5-6
    - レポート タイプ 5-6
  - レポート、結果 10-1
  - レポートの設定、説明 4-1
  - ログオフ 2-6
  - CAR ページの認証と表示 1-16
  - CDR 8-1
    - 値
      - CDR のロード 3-9
    - エラー、結果のレポート 10-16
    - エラー レポート 6-23
    - 検索 8-1
    - 検索、ゲートウェイによる 8-3
    - 検索、コール終了原因による 8-5
    - サービス パラメータ、設定 2-3
    - 自動データベース消去設定 3-15
    - 自動データベース消去のディセーブル化 3-15
    - 説明 1-2
    - ダンプ テーブル 10-22
    - ディセーブル化、ロード 3-8
    - 復元、デフォルトのロード スケジュール 3-8
    - ユーザの内線による検索 8-2
    - ユーザの内線による検索、結果のレポート 10-21
    - ロード スケジュールの設定 3-8
  - CDR Analysis and Reporting
    - 概要 1-7
    - 国際化 1-15, 1-16
  - CDR Analysis and Reporting Tool
    - 説明 2-1
    - ログオフ 2-6
  - CDR の値
    - 無制約ロード 3-9
  - Cisco IP Phone サービス
    - 結果のレポート 10-8
    - レポートの設定 5-14
  - Cisco IPMA 使用状況レポート
    - アシスタントのコール使用状況 5-13
    - マネージャのコール使用状況 5-12
  - CMR の値、CDR のロード 3-9
  - CMR のダンプ テーブル 10-22
- G
- Generate Report フィールド 7-6, 7-9, 7-11, 7-13, 7-16, 7-18
- Q
- QoS
- 通知制限の設定 4-11
  - 定義、値 4-6
  - デフォルト値 4-6
  - QoS 詳細、結果のレポート 10-9
  - QoS 詳細レポート
    - 音声品質 6-3, 6-12
    - コール タイプ 6-2
  - QoS パラメータ、コール タイプ 6-9
  - QoS パラメータの演算子 6-24
  - QoS 要約、結果のレポート 10-10



- QoS 要約レポート
  - コール タイプ 6-4
- U
  - uninhibited loading of CDR の値 3-9
- い
  - イネーブル化
    - メールによるアラート 4-10
    - レポートの自動生成 4-8
  - イベント ログ
    - 生成 3-17
  - イベント ログ レポート
    - 出力 3-18
    - ステータス 3-18
  - イベント ログの生成 1-6
- え
  - エラー
    - CDR レポート 6-23
    - CDR ~ レポート、結果 10-16
- お
  - 音声品質 4-4
- か
  - 会議コール詳細、結果のレポート 10-19
  - 会議ブリッジ使用状況、結果のレポート 10-20
  - 概要
    - CAR 2-1
    - エラーとイベント ログ 1-6
    - 個別の課金情報レポート 5-2
    - システム レポート 6-22
    - 自動レポート生成 4-8
    - デバイス レポート 7-1
    - 部門の課金情報レポート 5-3
  - 課金
    - 個別 5-2
    - 個別の詳細、結果のレポート 10-3
    - 個別の要約、結果のレポート 10-2
- 部門 5-3
  - 部門の詳細、結果のレポート 10-3
  - 部門の要約、結果のレポート 10-2
- カスタマイズ、レポートの自動生成 4-8
- 管理者、CAR 1-6
- 関連マニュアル x
- き
  - 期間別上位 N
    - コール タイプ 5-7
    - 設定 5-7
    - レポート タイプ 5-8
  - 基本レート 4-2
  - 許可コード名
    - システム レポート 6-19
  - 許可コード名レポート 6-19
- く
  - クライアント証明書コード
    - システム レポート 6-18
  - クライアント証明書コード レポート 6-18
- け
  - 警告
    - イネーブル化とディセーブル化、電子メールによる  
~ 4-10
  - ゲートウェイ
    - CDR 検索 8-3
    - QoS 6-6
    - QoS レポートの結果、ゲートウェイ別 10-10
    - 設定、CAR で使用するための 3-5
  - ゲートウェイ レポート、設定 7-2
  - ゲートウェイ詳細レポート 7-2
  - ゲートウェイ使用状況、結果のレポート 10-18
  - ゲートウェイ使用状況レポート 7-6
  - ゲートウェイの詳細
    - 音声品質 7-4
    - コール タイプ 7-3, 7-5
  - ゲートウェイの詳細、結果のレポート 10-17
  - ゲートウェイの要約、結果のレポート 10-18
  - ゲートウェイ別 QoS、結果のレポート 10-10
  - ゲートウェイ別 QoS レポート 6-6
  - ゲートウェイ要約レポート 7-4

## 結果のレポート

CDR エラー	10-16
Cisco IP Phone サービス	10-8
QoS 詳細	10-9
QoS 要約	10-10
会議コール詳細	10-19
会議ブリッジ使用状況	10-20
期間別上位 N	10-4
ゲートウェイ使用状況	10-18
ゲートウェイの詳細	10-17
ゲートウェイ別 QoS	10-10
ゲートウェイ要約	10-18
コールタイプ別 QoS レポート	10-11
コール数別上位 N	10-5
個別の課金情報、詳細	10-3
個別の課金情報、要約	10-2
システム概要	10-15
トラフィック要約	10-12
内線別のトラフィック要約	10-12
部門の課金情報、詳細	10-3
部門の課金情報、要約	10-2
ボイスメール使用状況	10-20
ユーザの内線による CDR の検索	10-21
料金別上位 N	10-4
ルートグループ使用状況	10-18
ルートパターン使用状況	10-18
ルートリスト使用状況	10-18

## 月次報告

スケジューリング	3-12
----------	------

## 検索

CDR	8-1
CDR、コール終了原因による～	8-5
CDR の～、ゲートウェイによる	8-3
CDR、ユーザの内線による～	8-2
CDR、ユーザの内線による～、結果のレポート	10-21
検索、ユーザ、CAR	5-17

## こ

## コールタイプ

QoS	6-8
コールタイプ別 QoS レポートの結果	10-11
コールタイプ別 QoS、結果のレポート	10-11
コールタイプ別 QoS レポート	6-8

## コール終了

CDR 検索	8-5
--------	-----

## コール詳細

会議コール詳細、結果のレポート	10-19
コール数別上位 N 件、結果のレポート	10-5

## コール数別上位 N

コールタイプ	5-9
設定	5-9
レポートタイプ	5-10

## 国際化、CDR Analysis and Reporting

## 個別の課金情報

詳細	5-2
設定	5-2
要約	5-2
個別の課金情報の詳細、結果のレポート	10-3
個別の課金情報の要約、結果のレポート	10-2

## さ

サーバ、メール～のパラメータ	3-2
----------------	-----

## し

時刻	4-3
システム、CAR	1-6
システムパラメータ、設定	3-2
システムレポート、CAR	1-9
システムログ画面	
CAR	3-17
システム概要、結果のレポート	10-15
システム概要レポート	6-22
システム設定値	
設定	3-7
システム設定のパラメータ、CAR	3-7

## 自動

データベースの消去	3-15
レポート生成	4-8
自動生成のイネーブル化、レポート	1-12
自動生成のカスタマイズ、レポート	1-12

## 週報

スケジューリング	3-11
手動データベース消去、設定	3-14

## 上位 N

コール数別	5-9
コール数別、結果のレポート	10-5
接続時間別	5-7

- 接続時間別、結果のレポート 10-4
- 料金別 5-5
- 料金別、結果のレポート 10-4
- 消去
  - 自動データベース~の設定 3-15
  - ディセーブル化、自動データベース~の 3-15
  - 復元、データベースのデフォルト 3-14
- 詳細
  - 個別の課金情報 5-2
  - QoS、結果のレポート 10-9
  - QoS レポート 6-2
  - ゲートウェイ 7-2
  - ゲートウェイ、結果のレポート 10-17
  - 個別の課金情報、結果のレポート 10-3
  - 部門の課金情報 5-3
  - 部門の課金情報、結果のレポート 10-3
- 詳細レポート 6-15
- 使用状況
  - 会議ブリッジ、結果のレポート 10-20
  - ゲートウェイ 7-6
  - ゲートウェイ、結果のレポート 10-18
  - ボイスメール 7-18
  - ボイスメール、結果のレポート 10-20
  - ルートグループ、結果のレポート 10-18
  - ルートパターン/ハントパイロット 7-13
  - ルートリスト 7-11
  - ルートリスト、結果のレポート 10-18
  - ルートおよび回線グループ 7-9
- 使用方法 3-14
- す
- スケジューリング
  - 月次報告 3-12
  - 週報 3-11
  - 日報 3-10
- スケジュール
  - CDR のロード~の設定 3-8
  - 復元、デフォルトの CDR ロード~ 3-8
- せ
- 生成
  - イベントログ 3-17
- 接続時間 4-2
- 接続時間別上位 N 件、結果のレポート 10-4
- 設定 6-15, 6-16, 8-7, 8-9
- 設定値
  - システム構成 3-7
- 設定チェックリスト
  - CAR 1-17
- そ
- 組織 x
- た
- ダイヤルプラン、設定 3-3
- ダンプテーブル、CDR と CMR 10-22
- つ
- 通知限度 4-11
- て
- 定格エンジン、設定 4-2
- ディセーブル化
  - CDR のロード 3-8
  - 自動 CAR および CDR データベース消去 3-15
  - 自動データベース消去 3-15
  - メールによるアラート 4-10
- データベース
  - 自動消去の設定 3-15
  - ディセーブル化、自動消去 3-15
  - 復元、消去のデフォルト 3-14
- テーブル、CDR と CMR のダンプ 10-22
- デバイス レポート 7-1
- デバイス レポート、CAR 1-10
- と
- ドキュメント
  - 関連する x
  - 組織 x
  - 対象読者 x
  - 表記法 xi
  - 目的 ix
- トラフィック要約 6-10
- トラフィック要約、結果のレポート 10-12

- トラフィック要約、コールタイプ 6-11
  - トラフィック要約 (内線)、コールタイプ 6-13
- な
- 内線
    - CDR 検索 8-2
    - CDR の検索、結果のレポート 10-21
  - 内線別のトラフィック要約、結果のレポート 10-12
  - 内線別のトラフィック要約レポート 6-12
- に
- 日報
    - スケジューリング 3-10
  - 認証レベル
    - システム レポート 6-21
  - 認証レベル レポート 6-21
- は
- パラメータ
    - 算入、評価への音声品質 4-4
    - 算入、評価への時刻 4-3
    - システム構成 3-2
    - 設定、基本レートと評価のための接続時間 4-2
    - メールサーバの設定 3-2
- ひ
- 評価パラメータ
    - 算入、音声品質 4-4
    - 算入、時刻 4-3
    - 設定、基本レートと接続時間 4-2
  - 表記法 xi
  - 表示 9-2
- ふ
- 部門の課金情報
    - 詳細 5-3
    - 要約 5-3
  - 部門の課金情報の詳細、結果のレポート 10-3
  - 部門の課金情報の要約、結果のレポート 10-2
- ほ
- ボイスメール使用状況、結果のレポート 10-20
  - ボイスメールの使用状況レポート 7-18
- ま
- マネージャ、CAR 1-6
- め
- メールサーバのパラメータ 3-2
  - メール送信、レポート 5-15
  - メディア情報 10-22
- も
- 元に戻す
    - CAR データベース消去のデフォルト 3-14
    - デフォルトの CDR ロード スケジュール 3-8
- ゆ
- ユーザ、CAR 1-6
  - ユーザ レポート、CAR 1-7
  - ユーザ レポート、説明 5-1
- よ
- 要約
    - 個別の課金情報 5-2
    - QoS、結果のレポート 10-10
    - ゲートウェイ 7-4
    - ゲートウェイ、結果のレポート 10-18
    - 個別の課金情報、結果のレポート 10-2
    - トラフィック 6-10
    - トラフィック、結果のレポート 10-12
    - 内線別のトラフィック 6-12
    - 内線別のトラフィック、結果のレポート 10-12
    - 部門の課金情報 5-3
    - 部門の課金情報、結果のレポート 10-2
- り
- 料金別上位 N 件、結果のレポート 10-4

- 料金別上位 N
  - コール タイプ 5-6
  - レポート タイプ 5-6
- る
- ルート
  - グループ使用状況、結果のレポート 10-18
  - パターン使用状況、結果のレポート 10-18
  - リスト使用状況、結果のレポート 10-18
- ルート パターン / ハント パイロットの使用状況レポート 7-13
- ルート プラン使用状況レポート、設定 7-9
- ルート リストの使用状況レポート 7-11
- ルートおよび回線グループの使用状況レポート 7-9
- れ
- レポート
  - CMR レポートの結果 10-1
  - CDR エラー 6-23
  - CDR 検索 8-1
  - CDR の検索、ゲートウェイによる 8-3
  - CDR の検索、コール終了原因による 8-5
  - Cisco IPMA 5-12, 5-13
  - QoS 詳細 6-2
  - 概要 1-16
  - 期間別上位 N 5-7
  - 許可コード名 6-19
  - クライアント証明書コード 6-18
  - ゲートウェイ詳細レポート 7-2
  - ゲートウェイ使用状況 7-6
  - ゲートウェイ別 QoS レポート 6-6
  - ゲートウェイ要約 7-4
  - コール タイプ別 QoS レポート 6-8
  - コール数別上位 N 5-9
  - 個別の課金情報 5-2
  - システム 6-1
  - システム概要 6-22
  - システム概要の結果 10-15
  - 自動生成のイネーブル化 1-12, 4-8
  - 自動生成のカスタマイズ 1-12, 4-8
  - 自動生成の設定 4-8
  - 自動レポート生成と警告 4-8
  - スケジューリング、月次報告 3-12
  - スケジューリング、週報 3-11
- スケジューリング、日報 3-10
- デバイス 7-1
- トラフィック要約 6-10
- 内線別のトラフィック要約 6-12
- 認証レベル 6-21
- 部門の課金情報 5-3
- ボイスメールの使用状況 7-18
- メール送信 5-15
- ユーザ 5-1
- ユーザ、CAR 1-7
- ユーザの内線による CDR の検索 8-2
- 料金別上位 N 5-5
- ルート パターン / ハント パイロットの使用状況 7-13
- ルート リスト使用状況 7-11
- ルートおよび回線グループの使用状況 レポートの設定、CAR 4-1
- ろ
- ロード
  - CDR のスケジュールの設定 3-8
  - ディセーブル化、CDR 3-8
  - 復元、デフォルトの CDR スケジュール 3-8
- ログイン ページ 1-15
- ログオフ、CAR 2-6